



Cisco Context Directory Agent リリース 1.0 インストールおよびコンフィギュレーションガイド

2018 年 5 月

Cisco Systems, Inc.
www.cisco.com

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。
各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は
当社の Web サイトをご覧ください。
www.cisco.com/go/offices

**【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/) をご確認ください。**

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。

あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2014 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに	ix
対象範囲	ix
対象読者	ix
マニュアルの編成	x
表記法	x
ドキュメントのアップデート	xi
関連資料	xii
このリリースのマニュアル	xii
その他の関連マニュアル	xii
注意事項	xiii
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	xiii

Cisco CDA の新機能 xv

CHAPTER 1

Context Directory Agent の概要	1-1
機能の概要	1-2
コンシューマ デバイス	1-4
Active Directory ドメイン コントローラ マシン	1-4
ISE と ACS からのネットワーク ログイン情報の受信	1-5
Syslog サーバおよびクライアント	1-6
CDA のパフォーマンスと拡張性	1-6
CDA 導入に関する推奨事項	1-6

CHAPTER 2

Cisco Context Directory Agent のインストール	2-1
要件	2-1
サポートされるオペレーティング システム	2-1
サポートされる Active Directory バージョン	2-2
ハードウェアの要件	2-2
接続要件	2-3
オープン ポートのリスト	2-4
CDA との正常な接続のための Active Directory の要件	2-5
監査ポリシーの設定	2-7

Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要 な権限	2-8
Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必 要な権限	2-8
Context Directory Agent のインストール	2-14
Context Directory Agent パッチのインストール	2-16
AD エージェントから CDA への移行	2-17

CHAPTER 3

Context Directory Agent の操作	3-1
CDA ユーザ インターフェイスについて	3-1
サポートされるブラウザ	3-1
CDA ユーザ インターフェイスへのログイン	3-2
CDA ダッシュボード	3-3
CDA ユーザ インターフェイスの操作	3-4
コンシューマ デバイス	3-4
コンシューマ デバイスの追加と編集	3-4
コンシューマ デバイスの削除	3-6
コンシューマ デバイスのフィルタリング	3-7
Active Directory サーバ	3-7
Active Directory サーバの追加と編集	3-8
Active Directory サーバのインポート	3-10
Active Directory サーバのエクスポート	3-11
Active Directory サーバの削除	3-11
Active Directory サーバのフィルタリング	3-12
Active Directory の基本設定	3-12
Syslog メッセージの送受信	3-13
Syslog サーバ/クライアントの追加と編集	3-14
ユーザ ログイン イベントを CDA に転送する ISE の設定	3-15
デフォルトのドメイン名の設定	3-17
Syslog サーバの削除	3-18
Syslog サーバのフィルタリング	3-18
ログ レベル設定	3-19
IP-to-User-Identity マッピング	3-19
マッピング フィルタ	3-22
登録済みデバイス	3-23
管理者	3-23
パスワード ポリシー	3-24
セッション タイムアウト	3-25
ライブ ログ	3-25

CDA コマンド リファレンス 4-1

EXEC コマンド	4-2
application install	4-2
application remove	4-3
application reset-config	4-4
application reset-passwd	4-6
application start	4-7
application stop	4-8
application upgrade	4-9
backup	4-10
backup-logs	4-12
clock	4-13
configure	4-14
copy	4-15
debug	4-18
delete	4-22
dir	4-22
exit	4-25
forceout	4-26
halt	4-26
help	4-27
mkdir	4-28
nslookup	4-29
patch install	4-30
patch remove	4-32
ping	4-33
ping6	4-34
reload	4-35
restore	4-36
rmdir	4-38
show	4-39
ssh	4-41
tech	4-42
telnet	4-43
terminal length	4-44
terminal session-timeout	4-45
terminal session-welcome	4-45
terminal terminal-type	4-46
traceroute	4-47

undebg	4-47
write	4-50
show コマンド	4-52
show application	4-52
show backup history	4-54
show cdp	4-55
show clock	4-56
show cpu	4-57
show disks	4-59
show icmp-status	4-60
show interface	4-62
show inventory	4-64
show logging	4-65
show logins	4-67
show memory	4-68
show ntp	4-69
show ports	4-70
show process	4-71
show repository	4-73
show restore	4-74
show running-config	4-75
show startup-config	4-76
show tech-support	4-78
show terminal	4-79
show timezone	4-80
show timezones	4-81
show udi	4-82
show uptime	4-83
show users	4-83
show version	4-84
コンフィギュレーション コマンド	4-85
backup-staging-url	4-86
cdp holdtime	4-86
cdp run	4-87
cdp timer	4-88
clock timezone	4-89
do	4-91
end	4-94
exit	4-95
hostname	4-95

icmp echo	4-96
interface	4-97
ipv6 address autoconfig	4-98
ipv6 address dhcp	4-100
ip address	4-102
ip default-gateway	4-103
ip domain-name	4-103
ip name-server	4-104
ip route	4-105
kron occurrence	4-106
kron policy-list	4-107
logging	4-109
ntp	4-110
ntp authenticate	4-111
ntp authentication-key	4-112
ntp server	4-113
ntp trusted-key	4-115
password-policy	4-116
repository	4-118
service	4-120
shutdown	4-120
snmp-server community	4-121
snmp-server contact	4-122
snmp-server host	4-123
snmp-server location	4-124
username	4-125

INDEX



はじめに

改訂日:2018年5月15日 OL-26299-01-J

このガイドでは、Cisco Context Directory Agent (CDA) アプリケーション、ハイレベルアーキテクチャの概要と CDA アプリケーションの使用方法について説明します。また、CDA との正常な接続を可能にするための Active Directory の要件を含む CDA アプリケーションをインストールする方法について説明します。

CDA では、システム設定と専用の動作システム用のユーザ インターフェイスが追加されていますが、提供される機能は AD Agent 1.0 の場合と同じです。CDA と ASA、WSA、および DC との間のフローおよびセマンティックスは AD Agent 1.0 のときと同じままです。ただし、基礎となる実装は変更され、Cisco Identity Services Engine (ISE) テクノロジーに従っています。

ここでは、次の内容について説明します。

- [対象読者](#)
- [マニュアルの編成](#)
- [表記法](#)
- [ドキュメントのアップデート](#)
- [関連資料](#)
- [その他の関連マニュアル](#)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)

対象範囲

このガイドは、CDA 1.0 の最新のパッチがインストールされている場合にのみ適用可能です。

CDA パッチは新しい機能を導入するため、最新のパッチをインストールすることをお勧めします。CDA の最新のパッチをインストールしない場合、このガイドの「[Cisco CDA の新機能](#)」セクションで説明した機能的な側面が適用されません。

対象読者

このマニュアルは、導入時に Cisco Context Directory Agent を使用するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルでは、読者がネットワークの原理と応用についての実用的な知識を持ち、ネットワーク システム管理者としての経験があることを前提としています。

マニュアルの編成

このマニュアルの内容は、概要、機能別作業、およびリファレンス カテゴリにグループ分けされ、次のように分類されています。

章	説明
Cisco CDA の新機能	CDA の各リリースで導入された新機能の概要を提供します。
第 1 章「Context Directory Agent の概要」	Cisco Context Directory Agent の概要を説明します。
第 2 章「Cisco Context Directory Agent のインストール」	Cisco Context Directory Agent ソフトウェアをインストールする方法、Cisco AD Agent から CDA に移行する方法について詳細に説明します。
第 3 章「Context Directory Agent の操作」	Cisco Context Directory Agent の操作方法と使用方法の手順を段階的に説明します。
第 4 章「CDA コマンドリファレンス」	Cisco Context Directory Agent で使用可能な CLI コマンドのリストを示し、その使用法を説明します。

表記法

このマニュアルで使用する表記法では、^ 記号は *Ctrl* キーを表します。たとえば、^z というキーの組み合わせは、**Ctrl** キーを押しながら **z** キーを押すことを意味します。

コマンドの説明では、次の表記法を使用しています。

- システム プロンプトが含まれる例はインタラクティブなセッションを示し、プロンプトでコマンドを入力する必要があります。システム プロンプトは、現在の EXEC コマンドインタプリタのレベルを示しています。たとえば、プロンプト Router> はユーザレベル、プロンプト Router# は特権レベルであることを表しています。通常、特権レベルにアクセスするにはパスワードが必要です。
- コマンドおよびキーワードは、**太字**で示しています。
- ユーザが値を指定する引数は、*イタリック体*で示しています。
- 角カッコ ([]) の中の要素は、省略可能です。
- 必ずいずれか 1 つを選択しなければならないキーワードは、波カッコ ({}) で囲み、縦棒 (|) で区切って示しています。

例では、次の表記法を使用しています。

- 端末セッションおよびコンソール画面例は、screen フォントで示しています。
- ユーザが入力する情報は、**太字の screen** フォントで示しています。
- パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
- システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコ ([]) で囲んで示しています。
- 行の先頭に感嘆符 (!) がある場合には、コメント行であることを示します。



注意

「**要注意**」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記載されています。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



(注)

「注釈」です。次に進む前に検討する必要がある重要情報、役に立つ情報、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ドキュメントのアップデート

次の表は、このマニュアルの作成および更新の履歴を示しています。

表 1 Cisco Context Directory Agent リリース 1.0 インストールおよびコンフィギュレーションガイド に対する更新

日付	説明
2015 年 10 月	次のセクションが追加、更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> 接続要件、3 ページ Active Directory サーバ、7 ページ Active Directory サーバのエクスポート、11 ページ Syslog メッセージの送受信、13 ページ Syslog サーバ/クライアントの追加と編集、14 ページ
2014 年 7 月	次のセクションが追加、更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> サポートされる Active Directory バージョン、2 ページ CDA との正常な接続のための Active Directory の要件、5 ページ Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要な権限、8 ページ Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必要な権限、8 ページ デフォルトのドメイン名の設定、17 ページ ライブ ログ、25 ページ
2014 年 1 月 15 日	次のセクションが追加、更新されました。 <ul style="list-style-type: none"> ISE と ACS からのネットワーク ログイン情報の受信、5 ページ オープン ポートのリスト、4 ページ Active Directory サーバのインポート、10 ページ Syslog サーバ/クライアントの追加と編集、14 ページ Syslog メッセージの送受信、13 ページ ユーザ ログインイベントを CDA に転送する ISE の設定、15 ページ

表 1 Cisco Context Directory Agent リリース 1.0 インストールおよびコンフィギュレーションガイド
に対する更新

日付	説明
2013 年 2 月	次の各項を更新しました。 <ul style="list-style-type: none"> 対象範囲、ix ページ Active Directory ドメイン コントローラ マシン、4 ページ サポートされる Active Directory バージョン、2 ページ CDA との正常な接続のための Active Directory の要件、5 ページ Active Directory サーバの追加と編集、8 ページ Active Directory の基本設定、12 ページ
2012 年 6 月	Cisco Context Directory Agent リリース 1.0

関連資料



(注) 元のドキュメントの発行後に、電子ドキュメントを更新することがあります。マニュアルのアップデートについては、[Cisco.com](http://www.cisco.com) で確認してください。

このリリースのマニュアル

表 2 は、Cisco Context Directory Agent リリース 1.0 で使用可能な製品マニュアルを示しています。

表 2 Cisco Context Directory Agent 1.0 の製品マニュアル

マニュアルタイトル	場所
Cisco Context Directory Agent リリース 1.0 イン ストレーション コンフィギュレーション ガ イド	http://www.cisco.com/en/US/docs/security/ibf/cda_10/Install_Config_guide/cda10.html
『Release Notes for Context Directory Agent リ リース 1.0』	http://www.cisco.com/en/US/docs/security/ibf/cda_10/release_notes/cda10_rn.html
『Open Source Licenses used in Context Directory Agent リリース 1.0』	http://www.cisco.com/en/US/docs/security/ibf/cda_10/open_source_doc/open_source.pdf

その他の関連マニュアル

適応型セキュリティ アプライアンス (ASA) 5500 シリーズのマニュアルと Cisco IronPort Web セキュリティ アプライアンス (WSA) のマニュアルへのリンクは、Cisco.com の以下の場所に記載されています。

- Cisco ASA 5500 シリーズ適応型セキュリティ アプライアンスのページ
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6120/tsd_products_support_series_home.html
- Cisco IronPort Web セキュリティ アプライアンスのページ
http://www.cisco.com/en/US/products/ps10164/tsd_products_support_series_home.html

注意事項

Cisco Context Directory リリース 1.0 で使用されているすべてのオープンソースライセンスについては、http://www.cisco.com/en/US/docs/security/ibf/cda_10/open_source_doc/open_source.pdf を参照してください。

マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。





Cisco CDA の新機能

改訂日:2018年5月15日 OL-26299-01-J

このセクションでは、Cisco Context Directory Agent (CDA) に追加された新機能、更新、および変更について説明します。

表 1 CDA 1.0、パッチ1 の新機能

機能	参照先
Windows 2012 のサポート	サポートされる Active Directory バージョン、 2 ページ
NTLMv2 のサポート	表 2-4、「CDA と AD NTLM のバージョン設定 に基づいてサポートされる認証タイプ」
Active Directory ユーザがドメイン管理者グループのメンバーではない場合に必要な権限の設定	<ul style="list-style-type: none">Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要な権限、8 ページActive Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必要な権限、8 ページ。

表 2 CDA 1.0、パッチ2 の新機能

機能	参照先
Cisco ISE または Cisco Secure ACS への接続	<ul style="list-style-type: none">ISE と ACS からのネットワーク ログイン情報の受信、5 ページSyslog メッセージの送受信、13 ページユーザ ログイン イベントを CDA に転送する ISE の設定、15 ページ
ユーザ インターフェイスからの Active Directory サーバのインポート	Active Directory サーバのインポート、10 ページ

表 3 CDA 1.0、パッチ3 の新機能

機能	参照先
Windows 2012 R2 のサポート	<ul style="list-style-type: none"> サポートされる Active Directory バージョン、2 ページ Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要な権限、8 ページ Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必要な権限、8 ページ
syslog メッセージからドメイン名を取得できないユーザのデフォルト ドメイン名の設定	デフォルトのドメイン名の設定、17 ページ
ライブ ログの DC ごとの日単位イベントの統計	ライブ ログ、25 ページ

表 4 CDA 1.0、パッチ5 の新機能

機能	参照先
Active Directory サーバ ダッシュレットからのドメイン コントローラのエクスポート	Active Directory サーバのエクスポート、11 ページ
ドメイン コントローラの稼働時間とダウンタイムが Active Directory サーバ ダッシュレットの新しいフィールドとして表示される。	Active Directory サーバ、7 ページ
Syslog サーバの ISE と ACS の最新バージョンのサポート <ul style="list-style-type: none"> ISE 1.3 および 2.0 ACS 5.6、5.7、および 5.8 	Syslog メッセージの送受信、13 ページ



Context Directory Agent の概要

従来のセキュリティメカニズムとは異なり、ASA-CX、WSA、ASA、クラウドベース CWS サービスなどのシスコのセキュリティゲートウェイでは、アクセスを必要とするエンティティのコンテキストに基づいてネットワークにセキュリティを提供します。従来のネットワークとコンテンツセキュリティゲートウェイはセキュリティゲートウェイを通過するかどうかを決定するのにエンティティの IP アドレスのみに依存していましたが、今日のシスコ製品では、詳細な追加情報を考慮して、現在使用しているユーザ、使用するオペレーティングシステム、場所など、ネットワークエンティティの完全なコンテキストに基づいて意思決定を行うことができます。セキュリティ管理者は、このコンテキストへの参照を使用してポリシーを作成します。ネットワークトラフィックがセキュリティゲートウェイにヒットすると、発信元の IP アドレスのコンテキストを(時には、宛先の IP アドレスのコンテキストも)チェックする必要があります。

Cisco Context Directory Agent (CDA) は、ネットワーク内のどの IP アドレスがどのユーザに使用されているのかをセキュリティゲートウェイが把握できるように、IP アドレスをユーザ名にマッピングするメカニズムです。それによって、それらのセキュリティゲートウェイは、そのユーザ(またはユーザが属するグループ)に基づいて決定を行えるようになります。

CDA は、Cisco Linux マシン上で実行され、Active Directory ドメインコントローラ (DC) マシンの集合をリアルタイムで監視して、一般にユーザログインを示す認証関連イベントの有無を確認し、データベース内の IP アドレスとユーザ ID のマッピングを認識、分析、キャッシュし、コンシューマデバイスが最新のマッピングを使用できるようにします。

パッチ 2 以降、CDA は、Active Directory に直接ログインしないユーザをマッピングするために、Cisco Identity Services Engine (ISE) および Cisco Secure Access Control Server (ACS) マシンから 802.1x ネットワークログインについて情報を受信できるようになりました。CDA は、ISE と ACS から syslog メッセージを受信する syslog サーバとして機能し、ISE と ACS から得られたネットワークログイン情報を使用してマッピングテーブルを設定します。

コンシューマデバイス (Cisco 適応型セキュリティアプライアンス (ASA) や Cisco IronPort Web セキュリティアプライアンス (WSA) など) は、最新の IP-to-user-identity マッピングセットを次のいずれかの方法で取得するために、RADIUS プロトコルを使用して CDA と通信します。

- **オンデマンド:** CDA は、特定のマッピングに対するコンシューマデバイスからの On-Demand クエリに応答できます。
- **フルダウンロード:** CDA は、現在キャッシュ内にあるマッピングセット全体を求めるコンシューマデバイスからの要求に応答できます。

オンデマンド方式とフルダウンロード方式の両方で、コンシューマデバイスからの要求に、後続の更新に関連する登録も含んでいることを示すタグを特別に付けることができます。

たとえば、コンシューマ デバイスが基本的なオンデマンド クエリを要求すると、CDA は応答してそのキャッシュ内で検出されている可能性のある特定のマッピングを提供しますが、そのマッピングに関するそれ以降の更新は送信しません。ただし、オンデマンド クエリに登録も含まれている場合、CDA からの最初の応答は前述と同様ですが、後でこの特定のマッピングが変更される場合、CDA は要求元のコンシューマ デバイス（および通知登録しているその他のすべてのコンシューマ デバイス）に対し、この特定のマッピングの変更について事前に通知します。

同様に、コンシューマ デバイスが基本的なフル ダウンロードを要求する場合、CDA は現在キャッシュ内にあるすべてのマッピングを含むセッション データのスナップショットを転送しますが、それ以降の更新は送信しません。ただし、要求が複製登録の場合、CDA からの最初の応答は前述と同様です。後でマッピング セットに何か変更（新しいマッピングの追加または特定のマッピングの変更など）がある場合、CDA は要求元のコンシューマ デバイス（および複製登録しているその他のすべてのコンシューマ デバイス）に対し、この変更について以前に送信されたスナップショットを基準に事前に通知します。

CDA によって検出、管理、および提供される IP-to-user-identity マッピングには IPv4 アドレスだけでなく IPv6 アドレスも含めることができます。

CDA は、ログを 1 つ以上の Syslog サーバに送信できます。

いずれかの Active Directory ドメイン コントローラまたはコンシューマ デバイスで障害が発生しても、CDA は引き続き機能します。他のドメイン コントローラから情報を取得します。ただし、CDA のフェールオーバーは行われません。CDA 内蔵の「ウォッチドッグ」機能は、その内部の Linux プロセスを継続的にモニタし、プロセスがクラッシュしたことを検出すると自動的にそのプロセスを再起動します。CDA それ自体のフェールオーバーは行われませんが、全体としての解決策では、プライマリおよびセカンダリ CDA（プライマリおよびセカンダリ RADIUS サーバに類似）を設定する機能を使用してフェールオーバー（コンシューマ デバイスによって制御される）をサポートし、プライマリが無応答の場合にはセカンダリ サーバにフェールオーバーします。プライマリおよびセカンダリ CDA は互いをまったく認識せず、ステート情報の交換も行いません。

関連項目

[機能の概要 \(1-2 ページ\)](#)

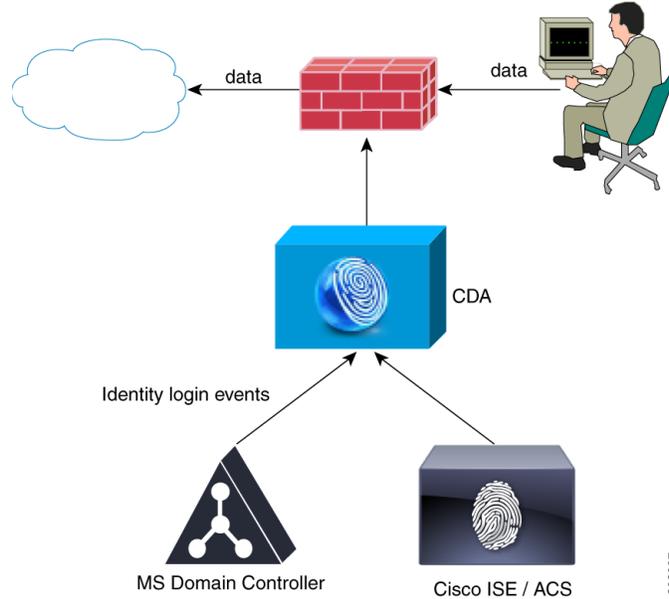
機能の概要

図 1-1 は、CDA ソリューションを表した簡略図です。この例では、ユーザはコンピュータからログインして、サーバへのアクセスを要求することによって Web トラフィックを生成します。コンシューマ デバイスは Web トラフィックをインターセプトし、コンピュータにログインしたユーザを求めている CDA に RADIUS 要求を送信します。CDA は最新の IP-to-user-identity マッピングセットを管理しており、ユーザ情報をコンシューマ デバイスに送信します。コンシューマ デバイスはユーザ ID 情報を使用して、エンド ユーザにアクセス権を付与するかどうかを決定します。

この例で、CDA は、ドメイン コントローラで発生した認証、またはユーザにネットワーク アクセスを付与する ISE で実行された認証のいずれかからユーザについて学習します。ISE と CDA の統合の利点は、Active Directory サーバとは異なる認証アイデンティティサーバから CDA がユーザ情報を提供できることです。

ASA がネットワークに VPN コンセントレータとして導入された場合、CDA は、Active Directory から受信したログイン イベントに加えてマッピングの更新イベントを受け入れます。

図 1-1 CDA アーキテクチャ



CDA は次を行います。

- コンシューマデバイスへの IP-to-user-identity マッピングの提供(プッシュおよびプル、単一およびバルク)。
- コンシューマデバイスから IP-to-user-identity マッピングに関する通知の受信。
- 各種コンポーネント(CDA およびドメイン コントローラ)のステータスを取得するインターフェイスの提供。
- IP-to-user-identity マッピングのセッションディレクトリの管理。
- セッション情報のキャッシュ。
- Microsoft ドメイン コントローラ、ISE/ACS または ASA VPN からのリアルタイムでのマッピングの学習。CDA はユーザ変更時にコンシューマデバイスに通知します。
- ドメイン コントローラからの履歴ログデータの読み取りによる既存の IP-to-user-identity マッピングに関する学習。
- ユーザインターフェイスを使用して CDA を設定する設定メカニズムの提供、同時マッピングリストおよびログイベントの表示。
- 期限切れのマッピングの定期的なクリーニング。有効期限はユーザ ログイン TTL によって定義されます。

CDA はネットワーク内の次のコンポーネントと対話します。

- [コンシューマデバイス](#)
- [Active Directory ドメイン コントローラ マシン](#)
- [Syslog サーバおよびクライアント](#)

コンシューマ デバイス

コンシューマ デバイスは CDA から最新の IP-to-user-identity マッピングをアクティブに取得(およびパッシブに受信)します。コンシューマ デバイスは次を行います。

- CDA から IP-to-user-identity マッピングの取得。
- CDA から IP-to-user-identity マッピングの通知の受信。
- ファイアウォール ポリシーに基づく ID の実施。
- CDA 経由での Active Directory 接続の基本モニタリング。
- グループ情報の Active Directory からの直接取得。
- CDA が ID にマッピングしなかった IP の Web 認証フォールバック。
- コンシューマ デバイスにより明らかになった新しいマッピングの Web 認証経由での CDA への転送。
- VPN セッションの IP-to-user-identity マッピングの転送。
- NetBIOS プロンプの実行と切断通知の CDA への転送。

これらの更新は RADIUS Accounting-Request メッセージとして送信されます。

関連トピック:

- [Active Directory ドメイン コントローラ マシン\(1-4 ページ\)](#)
- [Syslog サーバおよびクライアント\(1-6 ページ\)](#)

Active Directory ドメイン コントローラ マシン

CDA は、ユーザ ログインに関する情報を取得し、このデータをコンシューマ デバイスに提供するために、Active Directory ドメイン コントローラのセキュリティ イベント ログをモニタします。

起動時、CDA はすでにログインしているユーザの時間ベースのウィンドウ(履歴)を読み取ります。CDA は稼働するとリアルタイムでユーザ ログインをモニタして取得します。ユーザ ログイン イベントを取得するために、CDA と Active Directory ドメイン コントローラ間に接続が必要です。

Active Directory ドメイン コントローラに接続するために、CDA は Active Directory ユーザを使用します。

CDA で使用される Active Directory ユーザは、Active Directory ドメイン コントローラに接続し、モニタするために必要な権限が付与されている必要があります。

CDA で使用される Active Directory ユーザは、Domain Admin グループのメンバーであることができます。ただし、最新の CDA パッチ(将来、CDA パッチはこの機能も含むようになります)をインストールしている場合は必須ではありません。

CDA と Active Directory ドメイン コントローラ間の接続は、MS NTLM プロトコルを使用しても認証されます。CDA パッチ 2 は NTLMv1 と NTLMv2 をサポートします。

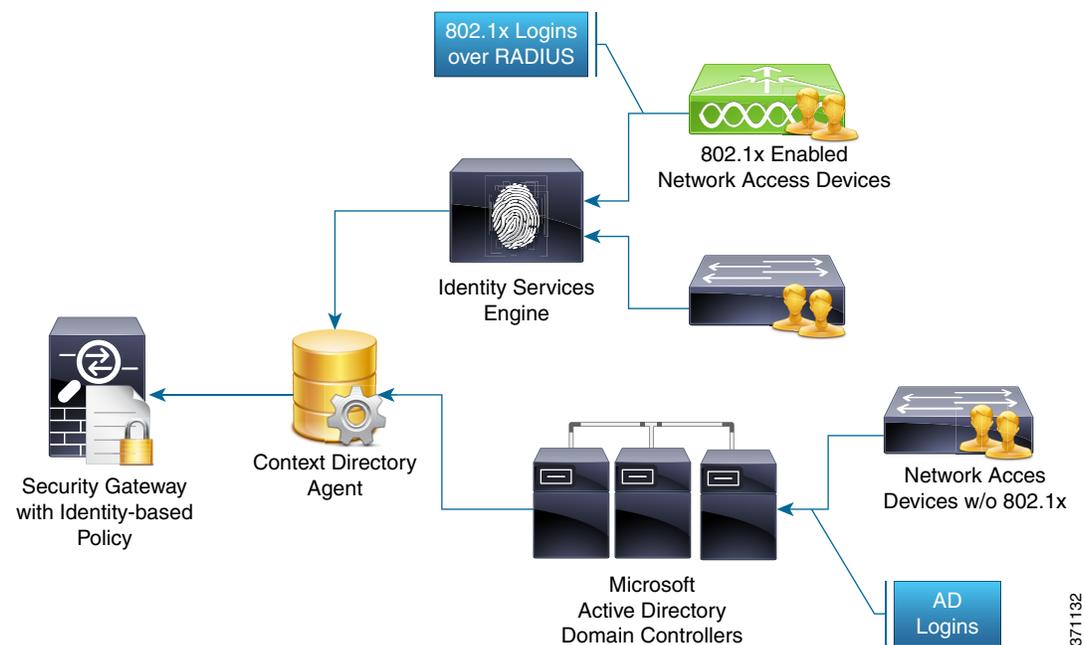
ISE と ACS からのネットワーク ログイン情報の受信

ほとんどのワイヤレス ネットワークと有線ネットワークの従業員の大部分は、現在、ネットワークにアクセスできるユーザおよび対象を制御するために 802.1x を使用します。非 AD ワークステーション (Apple MacBook や iMac, Android または iOS の電話またはタブレット、またはドメインメンバーになっていないすべて) がネットワークにアクセスする場合、Active Directory にログインしないため、ドメイン コントローラにはそのアイデンティティの跡が残りません。このような場合、CDA は IP とアイデンティティのマップを作成できません。

ISE および ACS と対話を通じて CDA はネットワーク ログインを認識し、ドメインのメンバーかどうかを認識できるようになり、IP アドレス、ネットワークの大部分の IP アドレスとアイデンティティのマップを構築することができます。CDA は、ネットワークにログインしているユーザを取得するために ISE や ACS から syslog メッセージを受け取ると、それらのメッセージを分析して使用している ユーザ名と IP アドレスを抽出し、この情報をアイデンティティ マッピング テーブルに挿入します。

図 1-2 は、CDA が 802.1x ログイン イベントと非 802.1x AD ログイン イベントの両方 (AD および非 AD) をマッピングする方法を説明しています。

図 1-2 AD および非AD イベントの両方のマッピング



この統合により、ASA CX や WSA などのコンシューマ デバイスは、ドメイン メンバーではないものも含めて、ネットワーク エンドポイントの大部分のセキュリティ上の意思決定を行うことができます。CDA は、Windows ドメイン コントローラのイベント ログまたは ISE/ACS との統合のどちらからユーザ/ドメイン情報を受信しても、同じ形式でコンシューマ デバイスに情報を渡します。

関連項目

- [Syslog メッセージの送受信 \(3-13 ページ\)](#)
- [Syslog サーバクライアントの追加と編集 \(3-14 ページ\)](#)

Syslog サーバおよびクライアント

CDA は、管理とトラブルシューティングに関する情報が含まれているログを 1 つ以上の Syslog サーバに転送できます。また、IP-to-user-identity マッピング情報の更新も行います。これらのログの内容は、CDA マシンでローカルに使用可能なカスタマー ログと同じです。Syslog メカニズムにより、Syslog サーバが実行されており、Syslog メッセージを受信できるターゲット マシンにこの情報がリモート配信されます。

CDA は、1 つまたは複数の syslog クライアントが追加されても syslog サーバとして機能できます。Cisco Identity Services Engine (ISE) と Cisco Secure Access Control System (ACS) に接続し、syslog メッセージを受信できます。

関連トピック:

- [コンシューマ デバイス \(1-4 ページ\)](#)
- [Active Directory ドメイン コントローラ マシン \(1-4 ページ\)](#)
- [Syslog サーバ/クライアントの追加と編集 \(3-14 ページ\)](#)

CDA のパフォーマンスと拡張性

CDA は最大 80 のドメイン コントローラ マシンに対応でき、また最大 64,000 の IP-to-user-identity マッピングを内部にキャッシュできます。最大 100 個の Identity コンシューマ デバイスに対応します。CDA は、最大 1000 の IP-to-user-identity マッピングを毎秒処理します(入力と出力)。

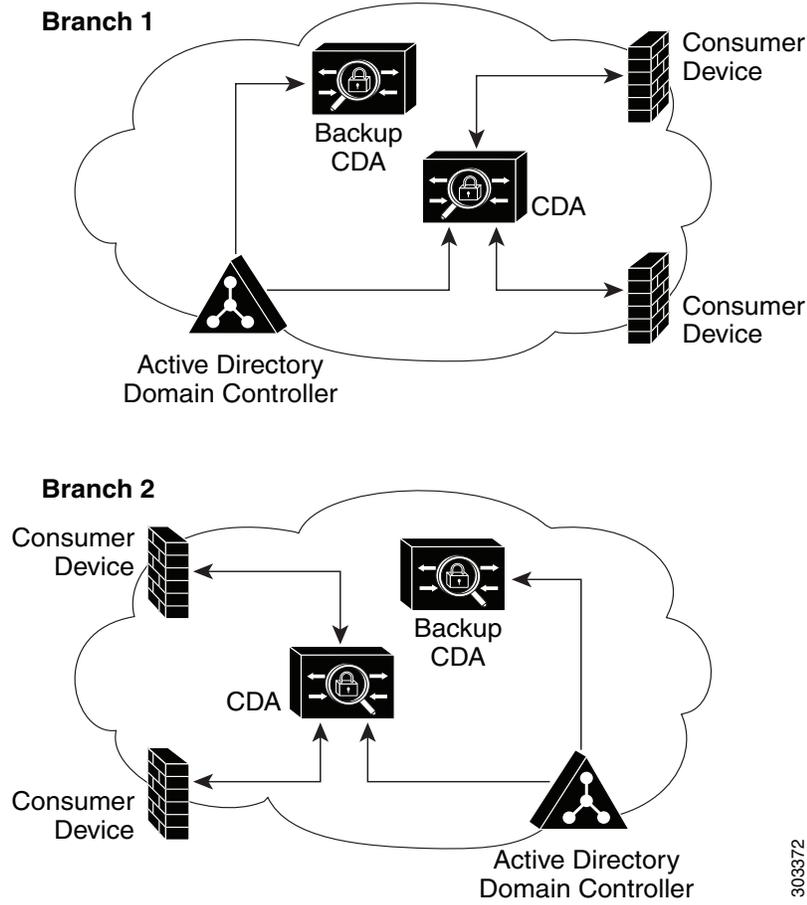
CDA は、3 つの Syslog クライアント(syslog サーバとして動作する場合)、20 の管理者、および 5 つの同時管理ユーザ インターフェイス セッションをサポートするようにテストされています。

CDA 導入に関する推奨事項

CDA を導入する際に、次の側面を考慮することを推奨します。

- CDA は、UDP プロトコルを使用してコンシューマ デバイスと相互運用できます。したがって、コンシューマ デバイスと地理的に近い場所に CDA を配置することを推奨します。これは、主に CDA が WAN 経由では時間がかかる可能性があるコンシューマ デバイスに大量のデータを送信するときに重要です。
- 導入時に、CDA ノードが Active Directory ドメイン コントローラからユーザ ログイン情報をすべて受け取ることを推奨します。これにより、コンシューマ デバイスは、すべてのユーザ ログインデータに対してローカルの CDA と相互運用できるようになります。さらに、Active Directory ドメイン コントローラを CDA と地理的に近い場所に配置することで信頼性が向上します。
- ハイ アベイラビリティを実現するために、両方の CDA が同じ Active Directory ドメイン コントローラから同じユーザ ログイン情報を取得するように設定された同じコンフィギュレーションを持つ 2 つの CDA を使用することができます。最初の CDA が応答しない場合、2 番目の CDA に切替えるのはコンシューマ デバイスの役割です。

図 1-3 推奨される CDA の導入タイプ



303372



Cisco Context Directory Agent のインストール

Cisco Context Directory Agent (CDA) は、ISO イメージとしてパッケージ化されているソフトウェアアプリケーションです。[Cisco.com](https://www.cisco.com) からダウンロードできます。これは、VMware ESX サーバ上の専用 X86 マシンまたは仮想マシンにインストールし、コンシューマデバイスと Active Directory ドメイン コントローラで設定する必要があります。

この章の内容は、次のとおりです。

- [要件 \(2-1 ページ\)](#)
- [Context Directory Agent のインストール \(2-14 ページ\)](#)
- [AD エージェントから CDA への移行 \(2-17 ページ\)](#)

要件

ここでは、次の内容について説明します。

- [サポートされるオペレーティング システム \(2-1 ページ\)](#)
- [ハードウェアの要件 \(2-2 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [オープン ポートのリスト \(2-4 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)

サポートされるオペレーティング システム

CDA は、バンドルされる Cisco Linux OS にインストールされています。CDA ISO イメージをスタンドアロン マシンまたは VMware サーバにインストールすると、Linux が OS としてインストールされ、CDA はその上でアプリケーションとして実行されます。

関連トピック：

- [ハードウェアの要件 \(2-2 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)

サポートされる Active Directory バージョン

CDA は、次の Active Directory バージョンをサポートしています。

- Windows 2003
- Windows 2003 R2
- Windows 2008
- Windows 2008 R2
- Windows 2012
- Windows 2012 R2

ハードウェアの要件

CDA マシンは別個の専用アプライアンスまたは VMWare である必要があります。UCSC-C220-M3S アプライアンスに CDA をインストールすることができます。NIC 要件については、表 2-1 を参照してください。

すべての場合において、CDA マシンは表 2-1 に記載されている標準ハードウェア仕様と VMWare 仕様を満たす必要があります。

表 2-1 同等のリソースを持つスタンドアロンアプライアンスまたは VMWare の標準パフォーマンスハードウェア要件

コンポーネント	仕様
CPU	Intel Xeon 2.66 GHz Q9400(クアッドコア)
システムメモリ	4 GB の SDRAM
ハードディスクの空き容量	250 GB
NIC	1 つの NIC または仮想 NIC。UCS-C220-M3S アプライアンスでは、Broadcom 5709、1 Gbps、2 ポート NIC を使用する必要があります。

表 2-2 には、CDA を VMWare にインストールするための最小限のハードウェア要件がリストされています。

表 2-2 VMWare の最小限のハードウェア要件

コンポーネント	仕様
CPU	2 つの仮想プロセッサ
システムメモリ	2 GB の SDRAM
ハードディスクの空き容量	120 GB
NIC	1 つの仮想 NIC。CDA は、NIC のフレキシブルタイプおよび E1000 タイプをサポートしています。VMXNET 2 と VMXNET 3 はサポートされていません。

関連トピック:

- [サポートされるオペレーティング システム \(2-1 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)

接続要件

CDA が適切に機能するためには、この CDA で設定されているすべてのコンシューマ デバイス、ログを受信する Active Directory ドメイン コントローラ マシン、およびターゲット Syslog サーバと自由に通信できる必要があります。ログ転送が採用されている場合、CDA と統合されるドメイン コントローラ マシンの間の接続のみが必要です。一元化されたログ転送の展開では、すべてのドメイン コントローラ マシンと CDA の間で接続を提供する必要はありません。CDA は、ドメイン コントローラの RPC ポート 135 との接続を開始します。接続を確立すると、ドメイン コントローラは高いポートを動的に選択します。

Windows Firewall (またはその他の同等のサードパーティ ファイアウォール ソフトウェア) がいずれかの Active Directory ドメイン コントローラ マシンで実行されている場合、これらの各エンドポイントのファイアウォール ソフトウェアで、自由に通信を行うために必要な例外を設定する必要があります。

この項では Windows Firewall を例にして、Windows Firewall を実行する可能性のあるすべてのエンドポイントに定義する必要のある例外について詳しく説明します。

その他の互換サードパーティ ファイアウォール ソフトウェアについては、ベンダーのマニュアルで該当する例外の設定方法を参照してください。

個別の Active Directory ドメイン コントローラ マシンで設定する必要がある Windows Firewall 例外

CDA マシンで GUI を使用して設定されている個々の Active Directory ドメイン コントローラ マシンで、Windows Firewall がその個々のドメイン コントローラ マシンで有効な場合は、その特定のドメイン コントローラ マシンに必要な Windows Management Instrumentation (WMI) 関連の通信を許可する Windows Firewall 例外を定義する必要があります。

このドメイン コントローラ マシンで Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012 または Windows Server 2012 R2 が実行されている場合は、以下の Windows コマンドラインを使用してこの WMI 関連の例外を設定できます (コマンドは 1 行に入力します)。

```
netsh advfirewall firewall set rule group="Windows Management Instrumentation (WMI)" new enable=yes
```

このドメイン コントローラ マシンで Windows Server 2003 または Windows Server 2003 R2 (SP1 以降がインストールされている状態) が実行されている場合は、以下の Windows コマンドラインを使用してこの WMI 関連の例外を設定できます (コマンドは 1 行に入力します)。

```
netsh firewall set service RemoteAdmin enable
```

関連トピック:

- [サポートされるオペレーティング システム \(2-1 ページ\)](#)
- [ハードウェアの要件 \(2-2 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)

オープンポートのリスト

表 2-3 に、CDA がコンシューマ デバイスとの通信に使用する Transmission Control Protocol (TCP) ポートと User Datagram Protocol (UDP) ポートの一部を示します。CDA では、これらのポートはデフォルトで空いています。CDA は動的にポートを選択してドメインコントローラと通信します。

表 2-3 CDA でデフォルトで空いているポートのリスト

Port No.	プロトコル	サービス	目的
22	TCP	Secure Shell (SSH) プロトコル	CDA SSH CLI 管理
80	TCP	HTTP (Web GUI、HTTPS にリダイレクト)	CDA GUI 管理インターフェイス (リダイレクトのみのため)
123	UDP	NTP	タイム サーバ
443	TCP	HTTPS (セキュアな Web GUI)	CDA GUI 管理インターフェイス
1645	UDP	RADIUS	CDA とデバイス コンシューマ (ASA/WSA) インターフェイス
1646	UDP	RADIUS	CDA とデバイス コンシューマ (ASA/WSA) インターフェイス
1812	UDP	RADIUS	CDA とデバイス コンシューマ (ASA/WSA) インターフェイス
1813	UDP	RADIUS アカウンティング	CDA とデバイス コンシューマ (ASA/WSA) インターフェイス
514	UDP	Syslog	CDA と ISE/ACS インターフェイス
1468	TCP	Syslog	CDA と ISE/ACS インターフェイス
6514	SSL	SSL Syslog	CDA と ISE/ACS インターフェイス

表 2-3 に記載されたポートは CDA と ASA または WSA 間の正常な通信を確立するために開いている必要があります。

次のポートは、CDA プロセス間の内部コミュニケーションに対して空いていますが、アプライアンス外部からのアクセスに対してブロックされます。

- 8005
- 8009
- 8020
- 8090
- 8091
- 8092
- 8093

CDA との正常な接続のための Active Directory の要件

CDA は、Active Directory ドメイン コントローラによって生成される Active Directory ログイン 監査 イベントを利用してユーザ ログイン情報を収集します。CDA が適切に動作するには、CDA が Active Directory に接続し、ユーザ ログイン情報を取得する必要があります。

次の手順は、Active Directory ドメイン コントローラで実行する必要があります。

1. Active Directory のバージョンがサポートされ(「[サポートされる Active Directory バージョン](#)」を参照)、Active Directory ドメイン コントローラと CDA の間にネットワーク接続があることを確認します(「[接続要件](#)」を参照)。
2. 該当する Microsoft のパッチが Active Directory ドメイン コントローラにインストールされていることを確認します。
 - Windows Server 2008 には次のパッチが必要です。
 - a. <http://support.microsoft.com/kb/958124>

このパッチは、CDA がドメイン コントローラと正常な接続を確立するのを妨げる Microsoft WMI でのメモリ リークを解消します(CDA 管理者は、CDA Active Directory ドメイン コントローラの GUI ページでこの問題を体験する場合があります。この GUI ページでは、接続が正常に確立されたときにステータスが「up」になる必要があります)。
 - b. <http://support.microsoft.com/kb/973995>

このパッチは、Microsoft WMI の別のメモリ リークを解消します。このメモリ リークは、Active Directory ドメイン コントローラが必要なユーザ ログインイベントをドメイン コントローラのセキュリティ ログに書き込むのを散発的に妨げます。結果として、CDA はこのドメイン コントローラからすべてのユーザ ログインイベントを取得できない場合があります。
 - Windows Server 2008 R2 では、(SP1 がインストールされていない場合)次のパッチが必要です。
 - a. <http://support.microsoft.com/kb/981314>

このパッチは、Microsoft WMI のメモリ リークを解消します。このメモリ リークは、Active Directory ドメイン コントローラが必要なユーザ ログインイベントをドメイン コントローラのセキュリティ ログに書き込むのを散発的に妨げます。結果として、CDA はこのドメイン コントローラからすべてのユーザ ログインイベントを取得できない場合があります。
 - b. <http://support.microsoft.com/kb/2617858>

このパッチは、Windows Server 2008 R2 での予期しない起動やログイン プロセスの遅れを解消します。
 - Windows プラットフォームの WMI 関連問題には、次のリンクにリストされているパッチが必要です。
 - a. <http://support.microsoft.com/kb/2591403>

これらのホットフィックスは、WMI サービスおよび関連コンポーネントの動作と機能に関連付けられます。
3. Active Directory がユーザ ログイン イベントを Windows セキュリティ ログに記録するのを確認します。

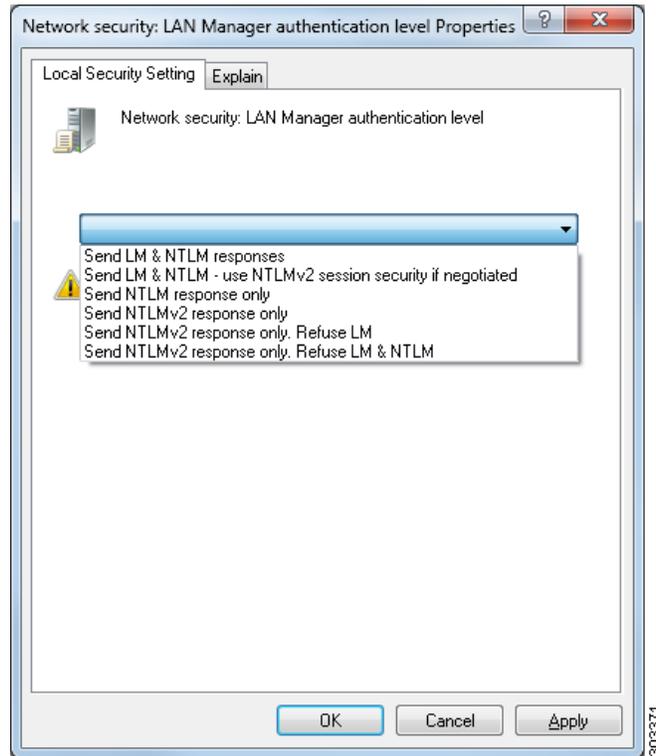
「監査ポリシー」(「グループ ポリシーの管理」設定の一部)が、正常なログインによって、Windows セキュリティ ログに必要なイベントが生成されるように設定されていることを確認します(これはデフォルトの Windows 設定ですが、この設定が適切であることを明示的に確認する必要があります)。監査ポリシーの設定(2-7 ページ)を参照してください。

4. Active Directory に接続するために CDA が使用する十分な権限を持つ Active Directory ユーザが設定されている必要があります。CDA パッチ 2 では、このユーザが Active Directory ドメインの管理グループのメンバーであるかどうかを選択できます。次の手順に従って、管理ドメイングループのユーザ、または管理ドメイングループではないユーザに対して権限を定義します。
 - Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要な権限 (2-8 ページ)
 - Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必要な権限 (2-8 ページ)
5. CAD によって使用される Active Directory ユーザは、NTLMv1 または NTLMv2 のいずれかによって認証を受けることができます。CDA と Active Directory ドメイン コントローラ間の正常な認証済み接続を確実にを行うために、Active Directory NTLM の設定が CDA NTLM の設定と合っていることを確認する必要があります。図 2-1 に、すべての Microsoft NTLM オプションを示します。CDA が NTLMv2 に設定される場合、図 2-1 に記載された 6 つのオプションがすべてサポートされます。NTLMv1 をサポートするように CDA が設定されている場合、最初の 5 つのオプションだけがサポートされます。これも表 2-4 に要約されています。

表 2-4 CDA と AD NTLM のバージョン設定に基づいてサポートされる認証タイプ

CDA NTLM の設定オプションおよび Active Directory (AD) NTLM の設定オプション	NTLMv1	NTLMv2
Send LM & NTLM responses	接続が受け入れられます	接続が受け入れられます
Send LM & NTLM - use NTLMv2 session security if negotiated	接続が受け入れられます	接続が受け入れられます
Send NTLM response only	接続が受け入れられます	接続が受け入れられます
Send NTLMv2 response only	接続が受け入れられます	接続が受け入れられます
Send NTLMv2 response only.Refuse LM	接続が受け入れられます	接続が受け入れられます
Send NTLMv2 response only.Refuse LM & NTLM	接続は拒否されます	接続が受け入れられます

図 2-1 MS NTLM 認証タイプのオプション



- Active Directory ドメイン コントローラで `dllhost.exe` へのトラフィックを許可するファイアウォール ルールを作成していることを確認します。

関連トピック:

- [サポートされるオペレーティング システム \(2-1 ページ\)](#)
- [ハードウェアの要件 \(2-2 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)

監査ポリシーの設定

「監査ポリシー」(「Group Policy Management」の設定の一部)が、正常なログオンによってその AD ドメイン コントローラ マシンの Windows セキュリティ ログに必要なイベントが生成されるように設定されていることを確認します(これは Windows のデフォルト設定ですが、この設定が適切であることを明示的に確認する必要があります)。

- 手順 1 [Start] > [Programs] > [Administrative Tools] > [Group Policy Management] を選択します。
- 手順 2 [Domains] で関連するドメインに移動し、ナビゲーション ツリーを展開します。
- 手順 3 [Default Domain Controller Policy] を選択し、右クリックして、[編集] を選択します。グループ ポリシー管理エディターが表示されます。

- 手順 4 [Default Domain Controllers Policy] > [Computer Configuration] > [Policies] > [Windows Settings] > [Security Settings] を選択します。
- Windows Server 2003 または Windows Server 2008 (R2 以外) の場合は [Local Policies] > [Audit Policy] を選択します。2 つのポリシー項目 ([Audit Account Logon Events] と [Audit Logon Events]) で、対応する [Policy Setting] に [Success] 状態が直接的または間接的に含まれていることを確認します。[Success] 状況を間接的に含めるには、[Policy Setting] に [Not Defined] を設定します。この場合、上位ドメインから有効値が継承されるため、[Success] 状態を明示的に含めるようにその上位ドメインの [Policy Setting] を設定する必要があります。
 - Windows Server 2008 R2 および Windows 2012 の場合、[Advanced Audit Policy Configuration] > [Audit Policies] > [Account Logon] を選択します。2 つのポリシー項目 ([Audit Kerberos Authentication Service] と [Audit Kerberos Service Ticket Operations]) に対応する [Policy Setting] に、前述のように [Success] 状態が直接または間接的に含まれていることを確認します。
- 手順 5 [監査ポリシー] の項目設定が変更されている場合は、「gpupdate /force」を実行して新しい設定を強制的に有効にする必要があります。

Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーである場合に必要な権限

次の Active Directory のバージョンには、特別な権限は必要ありません。

- Windows 2003
- Windows 2003 R2
- Windows 2008

Windows 2008 R2、Windows 2012 および Windows 2012 R2 の場合、ドメイン管理グループは、デフォルトで Windows オペレーティングシステムの特定のレジストリ キーを完全に制御することができません。CDA を動作させるには、Active Directory の管理者は、Active Directory ユーザに次のレジストリ キーに対する完全制御権限を提供する必要があります。

- HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}
- HKLM\Software\Classes\Wow6432Node\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}

完全な制御を許可するには、まず Active Directory 管理者がキーの所有権を取得する必要があります。次の手順を実行します。

- 手順 1 キーを右クリックして [オーナー (Owner)] タブに移動します。
- 手順 2 [Permissions] をクリックします。
- 手順 3 [Advanced] をクリックします。

Active Directory ユーザが Domain Admin グループのメンバーでない場合に必要な権限

Windows 2012 R2 で動作する CDA の場合、Active Directory 管理者は、まず Active Directory ユーザに次のレジストリ キーに対する完全制御権限を提供する必要があります。

- HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}
- HKLM\Software\Classes\Wow6432Node\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}

Active Directory ユーザがドメイン管理グループの一部ではなく、ドメイン ユーザ グループの一部である場合は、次の権限も必要です。

- [必要なレジストリの変更\(2-9 ページ\)](#)
- [ドメイン コントローラで DCOM を使用する権限\(2-10 ページ\)](#)
- [WMI Root\CIMv2 名前空間に対する権限\(2-12 ページ\)](#)
- [Active Directory ドメイン コントローラのセキュリティ イベント ログの読み取りアクセス\(2-13 ページ\)](#)

上記 4 つの権限は、次のすべての Active Directory のバージョンで有効です。

- Windows 2003
- Windows 2003 R2
- Windows 2008
- Windows 2008 R2
- Windows 2012
- Windows 2012 R2

必要なレジストリの変更

CDA がドメイン ユーザを操作する場合、特定のレジストリ キーを手動で追加する必要があります。これらのレジストリの変更は、CDA とドメイン コントローラの間で有効な接続を確立し、ユーザのログイン認証イベントを取得するために必要です。CDA では、ドメイン コントローラ上またはドメイン内のマシン上へのエージェントのインストールは必要ありません。



(注)

ドメイン管理者権限を使用しているにもかかわらず、Windows 2012 R2 に接続しているときはこれらのレジストリ エントリがまだ必要であることが判明しています。これらがないと、サーバは CDA 接続試行をリセットします。

変更は、次のレジストリのスクリプトに記述されています。Active Directory 管理者は、これを .reg 拡張子のテキスト ファイルにコピーして貼り付け、ダブルクリックしてレジストリを変更することも可能です。レジストリ キーを次のように追加するには、ルート キーのオーナーである必要があります。

```
Windows Registry Editor Version 5.00
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}]
```

```
"AppID"="{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}"
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\AppID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}]
```

```
"DllSurrogate"=" "
```

```
[HKEY_CLASSES_ROOT\Wow6432Node\AppID\{76A64158-CB41-11D1-8B02-00600806D9B6}]
```

```
"DllSurrogate"=" "
```

キー "DllSurrogate" の値には、2 つのスペースが含まれていることを確認します。

上記のスクリプトに示すように、ファイルの末尾の空の行を含む、空の行を保持する必要があります。

ドメインコントローラで DCOM を使用する権限

Active Directory ユーザは、ドメインコントローラで DCOM(リモート COM)を使用する権限がなければなりません。**dcomcnfg** ツールを使用してこれを実行できます。

-
- 手順 1 コマンドラインから **dcomcnfg** ツールを起動します。
- 手順 2 [Component Services] を展開します。
- 手順 3 [Computers] を展開し、[My Computer] をクリックします。
- 手順 4 メニューバーで [Action] を選択し、[properties] をクリックし、[COM Security] をクリックします。
- 手順 5 アクセスおよび起動の両方に対して CDA アカウントが許可権限を持っていることを確認します。Active Directory ユーザは、4 つのオプション([Access Permissions] および [Launch and Activation Permissions]) の両方に対する [Edit Limits] と [Edit Default] のすべてに追加される必要があります。図 2-2 を参照してください。
- 手順 6 [アクセス権限(Access Permissions)] および [起動およびアクティベーションの権限(Launch and Activation Permissions)] の両方に対してローカルおよびリモートアクセスをすべて許可します。
-

図 2-2 [My Computer Properties]

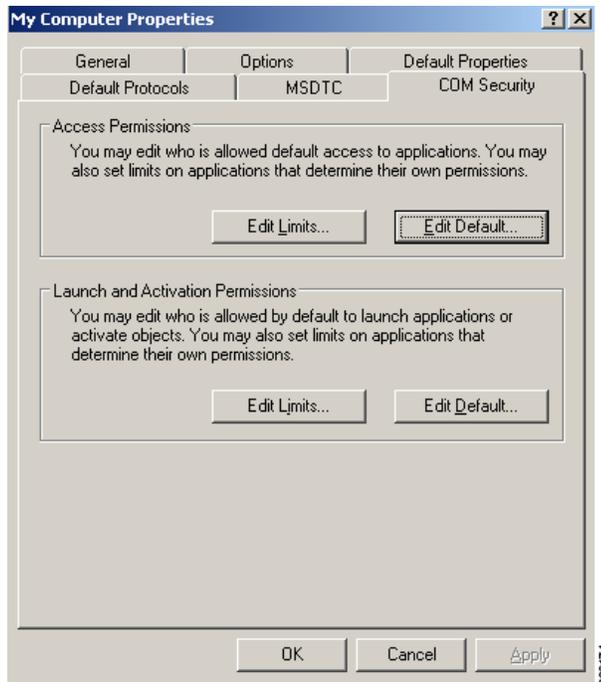
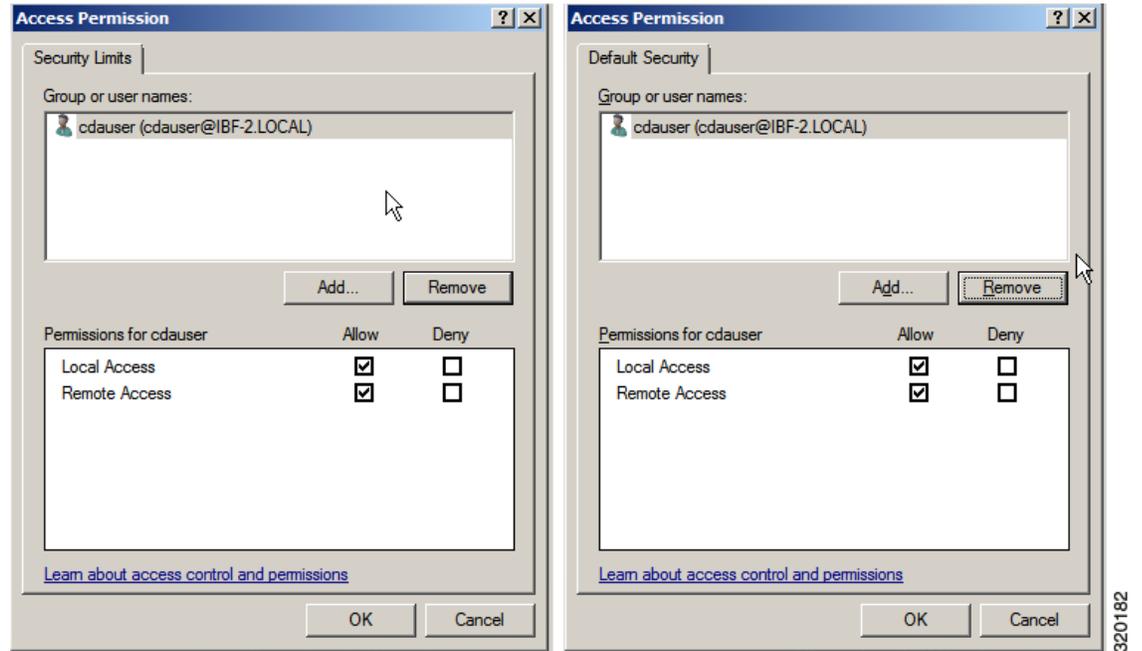
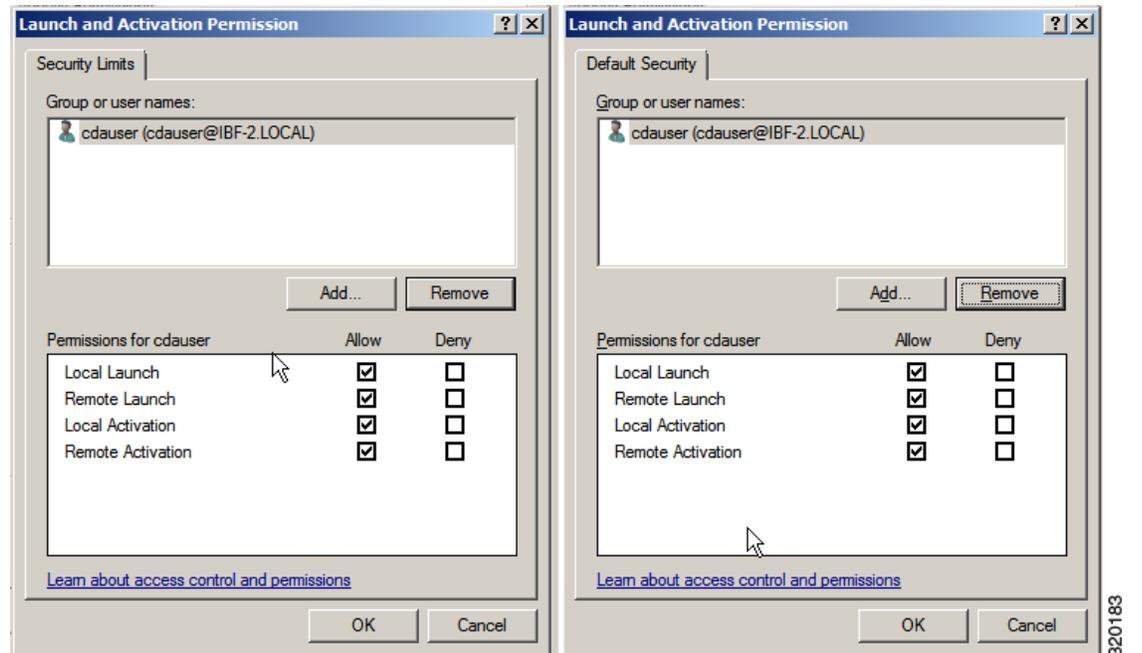


図 2-3 [Access Permissions] のローカルおよびリモート アクセス



320182

図 2-4 [Launch and Activation Permissions] のローカルおよびリモート アクセス



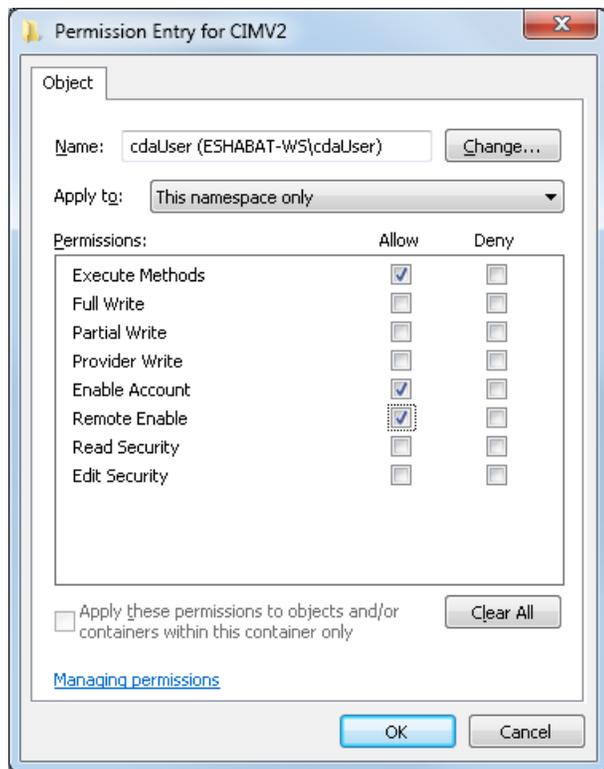
320183

WMI Root\CIMv2 名前空間に対する権限

Active Directory ユーザには、デフォルトでメソッドの実行およびリモートの有効化の権限がありません。これらは `wmimgmt.msc` MMC コンソールを使用して付与することができます。

-
- 手順 1 [Start] > [Run] をクリックし、`wmimgmt.msc` と入力します。
 - 手順 2 [WMI Control] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - 手順 3 [Security] タブで [Root] を展開し、[CIMV2] を選択します。
 - 手順 4 [Security] をクリックします。
 - 手順 5 [図 2-5](#) で示すように、Active Directory ユーザを追加し、必要な権限を提供します。
-

図 2-5 WMI Root\CIMv2 名前空間の必要な権限



Active Directory ドメイン コントローラのセキュリティ イベント ログの読み取りアクセス

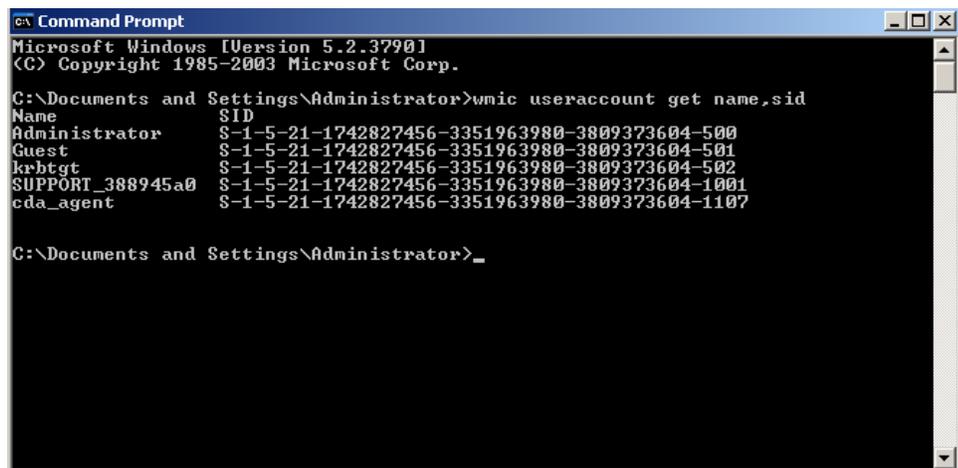
Windows 2008 以降では、Event Log Readers と呼ばれるグループにユーザを追加することで実行できます。

Windows のすべての旧バージョンでは、レジストリ キーを次のように編集することで実行できます。

- 手順 1** セキュリティ イベント ログへのアクセスを委任するために、アカウントの SID を見つけます。
- 手順 2** すべての SID アカウントを表示するには、[図 2-6](#) に示すように、コマンドラインから次のコマンドを使用します。
- ```
wmic useraccount get name,sid
```
- 特定のユーザ名とドメインに対して、次のコマンドを使用することもできます。
- ```
wmic useraccount where name="cdaUser" get domain,name,sid
```
- 手順 3** SID を見つけ、レジストリ エディタを開き、次の場所を参照します。
HKEY_LOCAL_MACHINE/SYSTEM/CurrentControlSet/Services/Eventlog
- 手順 4** [セキュリティ] をクリックし、[CustomSD] をダブルクリックします。[図 2-7](#) を参照してください。
たとえば、cda_agent アカウント (SID:S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-1107) への読み取りアクセスを許可するには、「(A;;0x1;;;S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-1107)」と入力します。
- 手順 5** DC 上で WMI サービスを再起動します。次の 2 とおりの方法で WMI サービスを再起動できます。
- CLI から次のコマンドを実行します。


```
net stop winmgmt
net start winmgmt.
```
 - Services.msc を実行します(これにより、Windows サービス管理ウィンドウが開きます)。
Windows サービス管理ウィンドウで、「Windows Management Instrumentation」サービスを検索し、右クリックして [再起動] を選択します。

図 2-6 すべての SID アカウントの表示



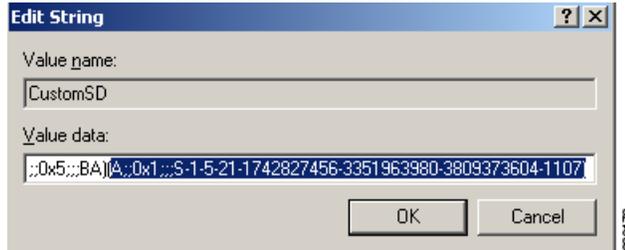
```

c:\ Command Prompt
Microsoft Windows [Version 5.2.3790]
(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Administrator>wmic useraccount get name,sid
Name                SID
Administrator      S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-500
Guest                S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-501
krbtgt               S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-502
SUPPORT_388945a0    S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-1001
cda_agent            S-1-5-21-1742827456-3351963980-3809373604-1107

C:\Documents and Settings\Administrator>_
  
```

図 2-7 CustomSD 文字列の編集



Context Directory Agent のインストール

Context Directory Agent は ISO イメージとしてパッケージされています。Cisco.com からパッケージをダウンロードして、それを専用の X86 マシンまたは VMWare ESX サーバにインストールすることができます。

CDA は、VMWare ESX バージョン 4.0、4.1、および 5.0 をサポートします。

VMWare に CDA をインストールする場合：

- [Use Guest OS as Linux CentOS 4/5 32 bit] を選択する必要があります。ゲスト OS の設定を誤ると、パフォーマンスが非常に下がる場合があります。
- SCSI コントローラとして [LSI Logic Parallel] を選択する必要があります。
- VMWare ツールが自動的にインストールされます。

Context Directory Agent をインストールするには、次の手順を実行します。

手順 1 CDA ISO イメージ *cda-1.0.0.xxx.i386.iso* をダウンロードして、それをローカルリポジトリに保存します。

手順 2 ISO イメージを DVD に書き込みます。

手順 3 DVD を挿入して、光学ドライブからイメージをインストールするオプションを選択します。

CDA パッケージのインストールが開始します。インストールが完了すると、マシンがリブートします。ブートシーケンスが完了すると、次のプロンプトが表示されます。

```
*****
Please type 'setup' to configure the appliance
*****
```

ブートシーケンスは約 2 分間で完了します。

手順 4 プロンプトに 'setup' と入力して、セットアッププログラムを開始します。ネットワーキングパラメータと最初のクレデンシャルの入力を求めるプロンプトが表示されます。

次は、サンプルのセットアッププログラムとデフォルトプロンプトを示しています。

```
localhost.localdomain login: setup
Press 'Ctrl-C' to abort setup
Enter Hostname []: cda-server
Enter IP Address []: 192.168.10.10
Enter IP netmask []: 255.255.255.0
Enter IP default gateway []: 192.168.10.100
Enter default DNS domain []: cisco.com
```

```

Enter primary nameserver []: 200.150.200.150
Enter secondary nameserver? Y/N: n
Enter primary NTP server [time.nist.gov]: clock.cisco.com
Enter secondary NTP server? Y/N: n
Enter system timezone [UTC]: UTC
Enter username [admin]: admin
Enter password:
Enter password again:
Bringing up the network interface...
Pinging the gateway...
Pinging the primary nameserver...
Do not use 'Ctrl-C' from this point on...
Installing applications...
Installing cda...
Pre install
Post Install

Application bundle (cda) installed successfully
=== Initial setup for application: cda ===
Generating configuration...
Rebooting...

```

手順 5 CDA の利用可能な最新のパッチをインストールします。[Context Directory Agent パッチのインストール\(2-16 ページ\)](#)を参照してください。

手順 6 マシンがリブートした後、CDA CLI にログインしてパッケージのインストールを確認できます。次はサンプルの確認手順を示しています。

```

# login: admin
/admin# show application
<name> <description>
cda Cisco Context Directory Agent
/admin# show application status cda

CDA application server is running PID:2840

```

手順 7 これで、CDA ユーザ インターフェイスにログインして、CDA の設定を開始できるようになりました。



(注) 初期セットアッププログラム中に指定したユーザ名とパスワードは、CLI と GUI の両方に使用できます。ユーザ インターフェイスを使用して GUI パスワードを変更しても、CLI パスワードは変更されず、その逆の場合も同じです。

関連トピック:

- [サポートされるオペレーティング システム \(2-1 ページ\)](#)
- [ハードウェアの要件 \(2-2 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)

Context Directory Agent パッチのインストール

Cisco.com から最新の CDA 1.0 パッチをダウンロードし、インストールできます。

- 手順 1 パッチを CDA にアップロードできるようにリポジトリを作成します。リポジトリの作成方法の手順については、[「repository」セクション \(4-118 ページ\)](#)を参照してください。
- 手順 2 作成したリポジトリに最新の CDA パッチをダウンロードします。
- 手順 3 [「patch install」セクション \(4-30 ページ\)](#)に従って CDA パッチをインストールします。
- 手順 4 次の手順に従って、パッチがインストールされていることを確認します。

```
/admin# sh application version cda

Cisco Application Deployment Engine OS Release:
ADE-OS Build Version:
ADE-OS System Architecture: i368

Copyright (c) 2005-2011 by Cisco Systems, Inc.
All right reserved.
Hostname: pmbu-ibf--pip08

Version information of installed applications
-----

Cisco Context Directory Agent
-----
Version      : 1.0.0.011
Build Date   : Tue May 8 15:34:26 2012
Install Date : Tue Jul 15 08:53:18 2014

Cisco Context Directory Agent
-----
Version      : 3
Build number : NA
Install Date : Mon Jul 28 09:35:09 2014
```

AD エージェントから CDA への移行

CDA は、AD エージェントと互換性があります。AD エージェントがネットワークにすでにデプロイされている場合、同様の対応する設定を使用して、CDA によってそれを置き換えることができます。ID ベースのファイアウォールソリューションの他のコンポーネント (Active Directory サーバと Identity コンシューマ デバイス (ASA/WSA)) で、ソフトウェアの変更やアップグレードを行う必要はありません。

AD エージェントから CDA に遷移する前に、次の AD エージェント設定の詳細を記録しておきます。

- 一般設定のオプション

AD エージェント コマンド **adacfg options list** を使用

- IP アドレスおよび機能を含む Syslog サーバ

AD エージェント コマンド **adacfg syslog list** を使用

- ユーザ名、パスワード、ホスト、およびドメイン FQDN を含む接続済みの Active Directory DC リスト

AD エージェント コマンド **adacfg dc list** を使用 (パスワードを表示しない)

- IP アドレス/サブネット、共有秘密を含むコンシューマ デバイス (またはサブセット)

AD エージェント コマンド **adacfg client list** を使用 (共有秘密を表示しない)

上記のコマンドのすべての構文と出力例については、『[Installation and Setup Guide for the Active Directory Agent, Release 1.0](#)』を参照してください。

既存の AD エージェント アプリケーションに対応するように CDA をインストールおよび設定します。

- オプションで、[Active Directory の基本設定](#)を設定します。CDA の AD モニタリングは、AD エージェントの **dcStatusTime** に相当します (CDA ではデフォルトで 10 秒ですが、AD エージェントではデフォルトで 60 秒である点が異なります)。

CDA の履歴は、AD エージェントの **dcHistoryTime** に相当します (CDA ではデフォルトで 10 秒ですが、AD エージェントではデフォルトで 24 時間である点が異なります)。

CDA のユーザ ログイン有効期限は、AD エージェントの **userLogonTTL** に相当します (デフォルトの 24 時間は同じです)。

- DC マシンにセキュリティ ポリシーを設定します。Active Directory のセキュリティ ポリシー設定に関する AD エージェントと CDA 間の相違は、Windows 2008R2 サーバに対してのみ適用できます。CDA の場合、『[Active Directory サーバの追加と編集](#)」セクション (8 ページ) のステップ 2 で説明されているように、Microsoft Windows 2008 R2 サーバにアカウント権限を設定します。
- オプションで、AD エージェントの **logLevel** に対応するように、ログ レベル設定を CDA に設定します。
- オプションで、**adacfg syslog list** から CDA に syslog サーバを追加します。
- すべての Active Directory サーバを **adacfg dc list** から CDA に追加します。
- すべての Identity コンシューマを **adacfg client list** から CDA に追加します。

同じホスト名/IP アドレスを使用して AD エージェント サーバを CDA サーバと置き換える場合、コンシューマ デバイス (ASA/WSA) 設定を変更する必要はなく、コンシューマ デバイスは自動的に CDA に接続して、ID マッピング情報を取得します。

これとは異なり、新たに CDA サーバを導入に追加する場合、その新しい CDA サーバを指すように、コンシューマ デバイスの設定を更新する必要があります。詳細については、Cisco.com の ASA および WSA の資料を参照してください。



Context Directory Agent の操作

Cisco Context Directory Agent (CDA) は、自己署名証明書を使用して HTTPS をサポートする Web ベース アプリケーションです。

この章の内容は、次のとおりです。

- [CDA ユーザ インターフェイスについて \(3-1 ページ\)](#)
- [CDA ユーザ インターフェイスの操作 \(3-4 ページ\)](#)

CDA ユーザ インターフェイスについて

この項の構成は、次のとおりです。

- [サポートされるブラウザ \(3-1 ページ\)](#)
- [CDA ユーザ インターフェイスへのログイン \(3-2 ページ\)](#)
- [CDA ダッシュボード \(3-3 ページ\)](#)

サポートされるブラウザ

次のブラウザが CDA でサポートされています。

表 3-1 CDA でサポートされるブラウザ

オペレーティング システム	対応ブラウザ
Linux	Firefox バージョン 9 および 10
Win 7	Microsoft Internet Explorer バージョン 11、Firefox バージョン 41、Google Chrome バージョン 45
Win XP	Microsoft Internet Explorer バージョン 8、Firefox バージョン 9 および 11
Mac OSX	Safari バージョン 5.1.5

関連トピック:

- [CDA ユーザ インターフェイスへのログイン \(3-2 ページ\)](#)
- [CDA ダッシュボード \(3-3 ページ\)](#)

CDA ユーザ インターフェイスへのログイン

Web ブラウザを開き、Web インターフェイスを介して CDA に接続できます。

CDA インターフェイスにログインするには、次の手順を実行します。

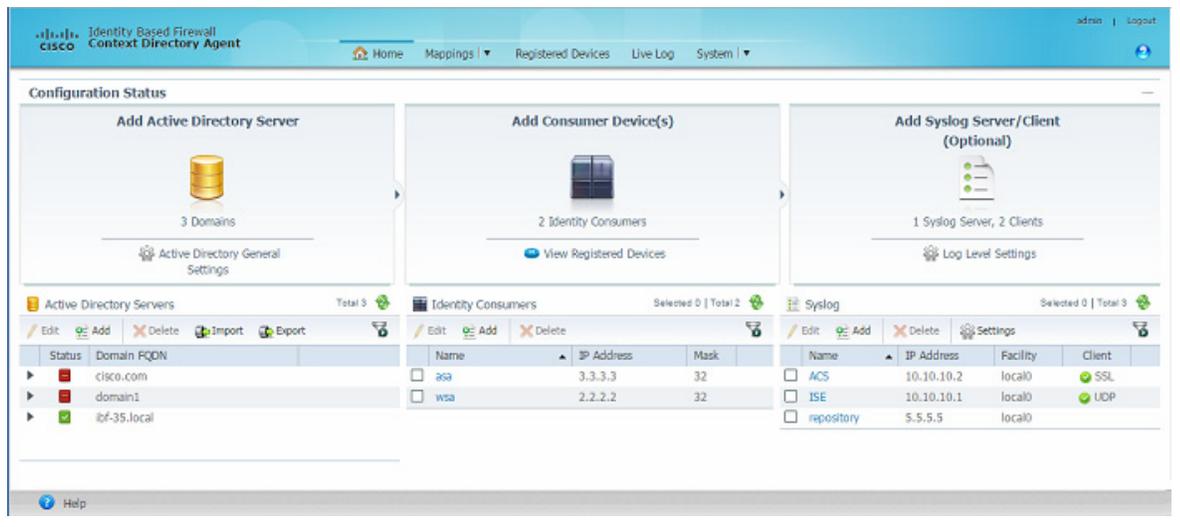
- 手順 1 Web ブラウザに CDA マシンの URL (`https://<ip_address>/hostname/cda`) を入力します。
- 手順 2 ユーザ名とパスワードを CDA ログイン ページ(図 3-1)に入力し、[Login] をクリックします。

図 3-1 CDA ログインページ



手順 3 初めてのログイン時に CDA ダッシュボードが表示されます(図 3-2)。

図 3-2 CDA ダッシュボード



関連トピック:

- [サポートされるブラウザ\(3-1 ページ\)](#)
- [CDA ダッシュボード\(3-3 ページ\)](#)

CDA ダッシュボード

CDA ダッシュボードには、Active Directory サーバ、コンシューマ デバイス、Syslog サーバ、および管理者を迅速に作成、編集、または削除するためのダッシュレットが用意されています。

また、ダッシュレットには既存の Active Directory サーバ、コンシューマ デバイス、および Syslog サーバのリストがあります。さらに、ダッシュボードには、Active Directory の基本設定、登録済みデバイスのページ、およびログ レベル設定へのリンクもあります。図 3-2 を参照してください。

他のページからダッシュボードに戻るには、[Home] をクリックします。

関連トピック:

- [サポートされるブラウザ\(3-1 ページ\)](#)
- [CDA ユーザインターフェイスへのログイン\(3-2 ページ\)](#)

CDA ユーザ インターフェイスの操作

この項の構成は、次のとおりです。

- [コンシューマ デバイス \(3-4 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバ \(3-7 ページ\)](#)
- [Syslog メッセージの送受信 \(3-13 ページ\)](#)
- [IP-to-User-Identity マッピング \(3-19 ページ\)](#)
- [マッピング フィルタ \(3-22 ページ\)](#)
- [登録済みデバイス \(3-23 ページ\)](#)
- [管理者 \(3-23 ページ\)](#)
- [パスワード ポリシー \(3-24 ページ\)](#)
- [セッション タイムアウト \(3-25 ページ\)](#)
- [ライブ ログ \(3-25 ページ\)](#)

コンシューマ デバイス

コンシューマ デバイスは CDA から最新の IP-to-user-identity マッピングをアクティブに取得 (およびパッシブに受信) します。ネットワーク デバイスの追加、編集、削除を行うことができます。CDA は、このテーブルの IP アドレス範囲が重ならないことを検証します。

この項の構成は、次のとおりです。

- [コンシューマ デバイスの追加と編集 \(3-4 ページ\)](#)
- [コンシューマ デバイスの削除 \(3-6 ページ\)](#)
- [コンシューマ デバイスのフィルタリング \(3-7 ページ\)](#)

コンシューマ デバイスの追加と編集

ダッシュレットのコンシューマ デバイス エントリは、実際の ASA および WSA ファイアウォール デバイスと同義ではありません。代わりに、それぞれのコンシューマ デバイス エントリは、RADIUS を介して CDA と通信するための論理的なルールで、IP アドレス (マスクが 32 の場合) またはアドレス範囲 (マスクが 0 ~ 31 の場合) を許可します。

コンシューマ デバイス エントリをテーブルまたはダッシュレットに作成しても、実際にはデバイスとの通信が開始されることはありません。コンシューマ デバイスが RADIUS を介して CDA と通信することを許可するルールのみが作成されます。CDA は、この場合は RADIUS サーバとして動作するため、デバイスとのメッセージ交換を開始しません。CDA との RADIUS メッセージ交換を開始するのは実際のコンシューマ デバイスです。最初にコンシューマ デバイスの IP アドレスまたは IP 範囲を CDA で追加し、次に CLI または管理 GUI を使用して CDA と接続するようにデバイス自体を設定します。

コンシューマ デバイスを追加または編集するには、次の手順を実行します。

- 手順 1 [Identity Consumers] ダッシュレットで [Add] をクリックするか、デバイスの隣にあるチェックボックスをオンにして編集のために [Edit] をクリックします。あるいは、[Add Consumer Devices] リンクをダッシュボードでクリックすることもできます。

[Consumer Device Configuration] ダイアログボックスが表示されます(図 3-4)。

図 3-3 [Identity Consumers] ダッシュレット

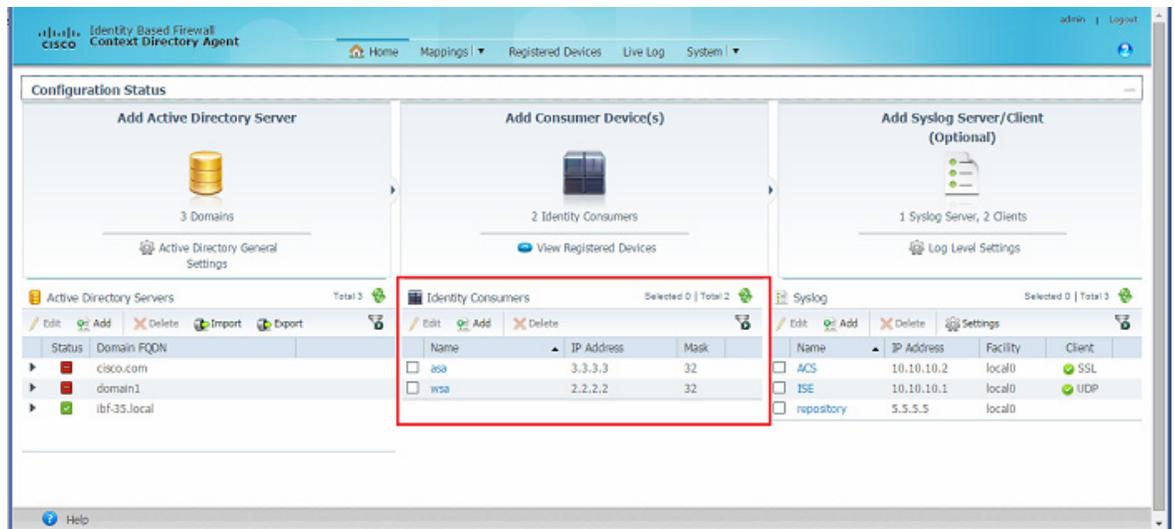
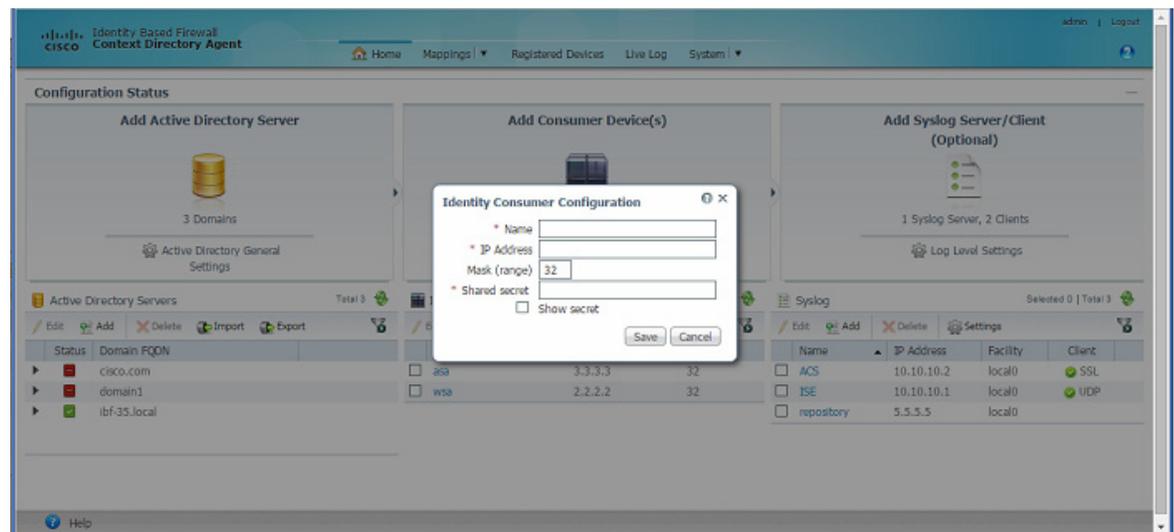


図 3-4 [Consumer Device Configuration] ダイアログボックス



- 手順 2 次の詳細事項を入力または編集します。

- [Name]: ルールの名前。
- [IP Address]: コンシューマ デバイス(デバイスの範囲)の IP アドレス(サブネット)。



(注) WSA デバイスを追加するときは、デバイスの管理 IP アドレスを入力します。

- [Mask (range)]: 0 ~ 32 の数字。これは CIDR 表記のコンシューマ デバイスの IP 範囲を表します。
- [Shared Secret]: コンシューマ デバイスが CDA デバイスとの通信に使用するパスフレーズ。ここに入力する共有秘密は、その IP アドレスを持つデバイス (または IP 範囲の複数のデバイスそれぞれ) に設定されたものと同じにしてください。このルールによって CDA へのアクセスが試行されます。

手順 3 共有秘密をプレーン テキストで表示する場合には、[Show Secret] チェックボックスをオンにします。

手順 4 [Save(保存)] をクリックします。
新しいネットワーク デバイスが [Identity Consumers] ダッシュレットに一覧表示されます。

関連トピック:

- [コンシューマ デバイスの削除\(3-6 ページ\)](#)
- [コンシューマ デバイスのフィルタリング\(3-7 ページ\)](#)

コンシューマ デバイスの削除

CDA でコンシューマ デバイスとして削除する前に、CDA に対するクエリを停止するよう最初にコンシューマ デバイスを設定することをお勧めします。コンシューマ デバイスを削除すると、CDA との通信を許可していたセキュリティ ルールも削除されるため、このデバイスは CDA と通信できなくなります。

コンシューマ デバイスを削除するには、次の手順を実行します。

手順 1 [Identity Consumers] ダッシュレットで、リスト内の削除するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにして、[Delete] をクリックします。

CDA から確認が求められます。

手順 2 [OK] をクリックします。
コンシューマ デバイスが削除されます。

関連トピック:

- [コンシューマ デバイスの追加と編集\(3-4 ページ\)](#)
- [コンシューマ デバイスのフィルタリング\(3-7 ページ\)](#)

コンシューマ デバイスのフィルタリング

次の基準に基づいてコンシューマ デバイスをフィルタリングできます。

- IP アドレス
- Mask
- 名前

コンシューマ デバイス リストをフィルタリングするには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Identity Consumers] ダッシュレットでフィルタ  アイコンをクリックします。
- 手順 2 フィルタリングする基準を入力します。
- 手順 3 **Enter** を押します。
-

関連トピック:

- [コンシューマ デバイスの追加と編集 \(3-4 ページ\)](#)
- [コンシューマ デバイスの削除 \(3-6 ページ\)](#)

Active Directory サーバ

Active Directory は組織 ID およびその情報を管理します。CDA は、Active Directory (またはドメイン コントローラ) と相互動作し、MS WMI プロトコルを使用して IP-to-user-identity マッピング情報を取得します。Active Directory サーバの追加、編集、インポート、エクスポート、または削除を行うことができます。Active Directory ドメイン コントローラのバックアップ マシンを追加する必要もあります。

CDA 1.0、パッチ 5 は、[Active Directory Server] ダッシュレットの Active Directory サーバの詳細 テーブルに新しい稼働時間/ダウンタイム フィールドを導入しています。このフィールドは、各 Active Directory サーバを展開すると詳細を表示できます。このフィールドには、選択した Active Directory サーバの稼働時間またはダウンタイムが表示されます。

この項の構成は、次のとおりです。

- [Active Directory サーバの追加と編集 \(3-8 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのインポート \(3-10 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのエクスポート \(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの削除 \(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのフィルタリング \(3-12 ページ\)](#)
- [Active Directory の基本設定 \(3-12 ページ\)](#)

Active Directory サーバの追加と編集

前提条件

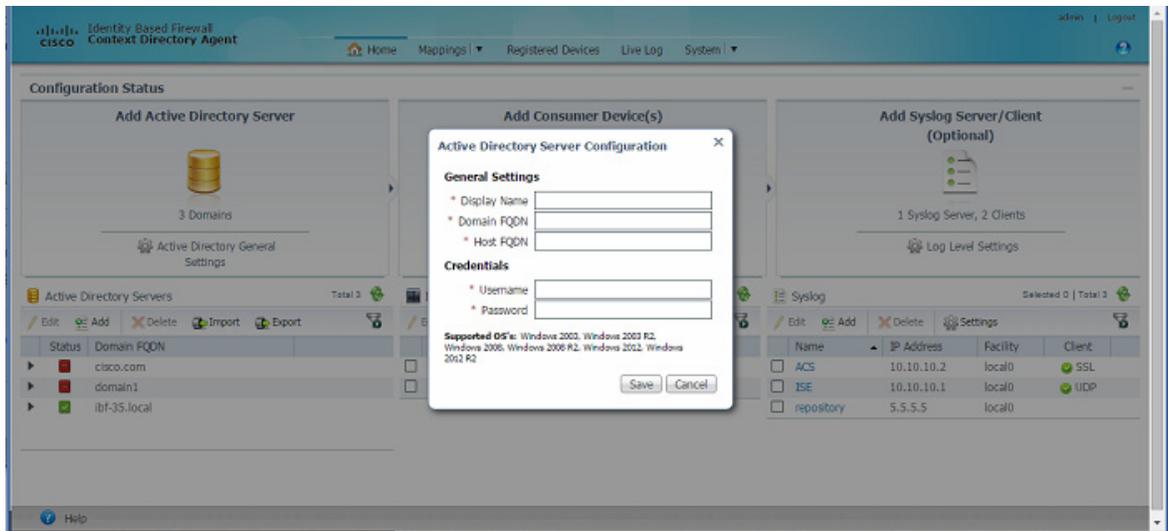
CDA との正常な接続のために、「[CDA との正常な接続のための Active Directory の要件](#)」セクション(2-5 ページ)で説明するすべての要件が満たされていることを確認します。

Active Directory サーバを追加または編集するには、次の手順を実行します。

- 手順 1 [Active Directory Servers] ダッシュレットで [Add] をクリックするか、サーバの隣にあるチェックボックスをオンにして編集のために [Edit] をクリックします。あるいは、[Add Active Directory Server] リンクをダッシュボードでクリックすることもできます。

[Active Directory Server Configuration] ダイアログボックスが表示されます(図 3-5)。

図 3-5 [Active Directory Server Configuration] ダイアログボックス



- 手順 2 次の詳細事項を入力します。

- General Settings
 - [Display Name]: Active Directory サーバの表示名。
 - [Domain FQDN]: Active Directory サーバのドメイン完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
 - [Host FQDN]: Active Directory サーバのホスト FQDN。
- 管理者
 - [User name]: CDA が Active Directory サーバとの通信に使用するユーザ名。
 - [Password]: CDA が Active Directory サーバとの通信に使用するパスワード。これは、上記で指定したユーザ名に対応するパスワードにしてください。

このアカウントは、「[CDA との正常な接続のための Active Directory の要件](#)」セクション(2-5 ページ)で説明する必要な権限が付与されている必要があります。

- 手順 3 [Save(保存)] をクリックします。

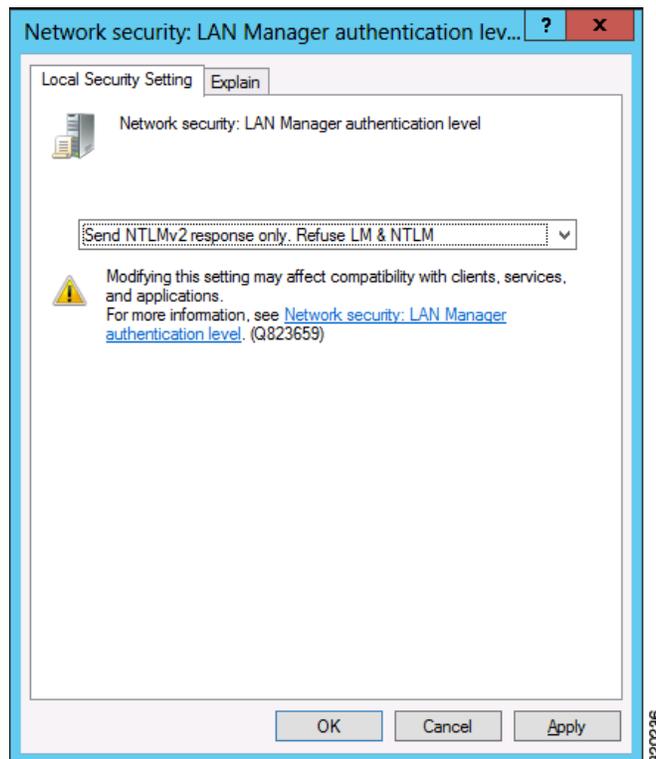
新しい Active Directory サーバが [Active Directory Servers] ダッシュレットに一覧表示されます。

ドメイン コントローラに適用されるグループ ポリシーが [Send NTLMv2 response only.Refuse LM & NTLM] に設定されている場合は、[図 3-6](#) を参照し、NTLMv2 を使用してドメイン コントローラに接続する必要があります。CDA を正常にドメイン コントローラに接続するには、[Active Directory の基本設定](#) で [Use NTLMv2] チェックボックスをオンにする必要があります。

ドメイン コントローラに適用されるグループ ポリシーの内容を確認するには、次の手順を実行します。

- 手順 1 [Start] > [Administrative Tools] > [Group Policy Management] を選択します。
- 手順 2 [Default Domain Controllers Policy] を選択し、右クリックして、[Edit] を選択します。
グループ ポリシー管理エディタが表示されます。
- 手順 3 [Security Settings] > [Local Policies] > [Security Options] を選択します。
[Local Security Settings] タブにグループ ポリシーが表示されます。

図 3-6 セキュリティ設定



関連トピック:

- [CDA との正常な接続のための Active Directory の要件 \(2-5 ページ\)](#)
- [接続要件 \(2-3 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの削除 \(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのフィルタリング \(3-12 ページ\)](#)
- [Active Directory の基本設定 \(3-12 ページ\)](#)

Active Directory サーバのインポート

Active Directory サーバは、.txt または .csv ファイルからインポートできます。

- 手順 1 [Active Directory Servers] ダッシュレットで [Import] をクリックします。
- 手順 2 [Browse] をクリックして、ローカル システムから .txt または .csv ファイルを選択します。サンプルの .csv インポート ファイルについては、[図 3-7](#) を参照してください。また、右上隅の [Generate Template] リンクを右クリックしてサンプル インポート ファイルを保存することもできます。
- 手順 3 [Import] をクリックします。ファイル内のすべてのアクティブ ディレクトリ サーバがインポートされます。[Results] 領域でインポート結果を見ることができます ([図 3-8](#))。エラーがある場合は、エラーも同じ領域に表示されます。



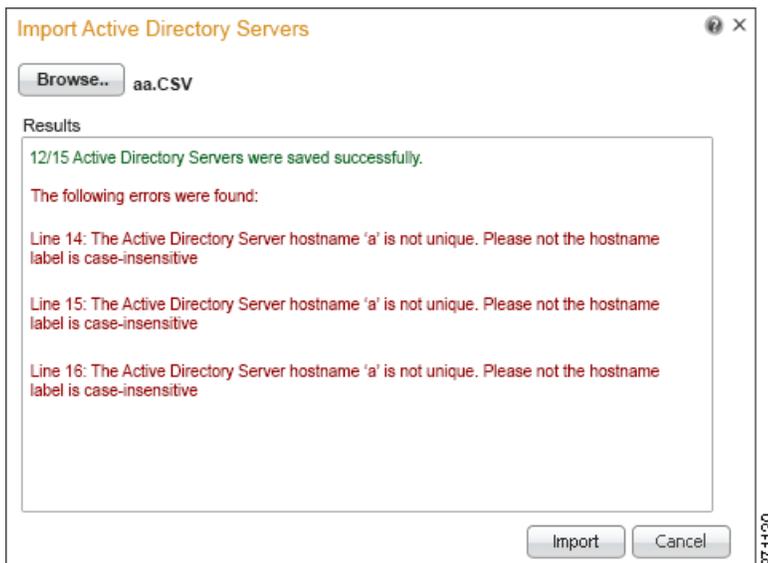
(注) インポート ファイル(.csv または .txt)内のパスワードは暗号化されていない状態にする必要があるため、このファイルは機密ファイルとして扱う必要があります。インポート時、CDA は内部的にハッシュを使用してこれらのパスワードを格納します。

図 3-7 サンプルインポートファイル

	A	B	C	D	E	F
1	Display Name	Domain FQDN	Host FQDN	Username	Password	
2	name1	domain1	host1	user1	pass1	
3	name2	domain2	host2	user2	pass2	
4						
5						

371121

図 3-8 インポート結果



371120

関連トピック:

- [Active Directory サーバの追加と編集 \(3-8 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのフィルタリング \(3-12 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの削除 \(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory の基本設定 \(3-12 ページ\)](#)

Active Directory サーバのエクスポート

CDA 1.0 パッチ 5 では、[Active Directory Server] ダッシュレットで使用可能なエクスポート オプションを使用して、Active Directory サーバの詳細をカンマ区切り値(.csv)ファイルにエクスポートすることができます。このオプションは、[Active Directory Server] ダッシュレットに記載されているすべての Active Directory サーバを .csv ファイルにエクスポートします。このファイルをローカルドライブに保存することができます。パスワードを除くすべての Active Directory サーバの詳細が CSV ファイルにエクスポートされます。Active Directory サーバの安全性を確保するため、パスワードはエクスポートされません。サンプル csv エクスポート ファイルについては、[図 3-9](#)を参照してください。

手順 1 [Active Directory Servers] ダッシュレットで [Export] をクリックします。

CDA に、ファイルをローカルドライブに保存するよう求められます。

手順 2 適切な場所を選択し、[Save] をクリックします。

CDA はリストされた Active Directory サーバを .csv ファイルにエクスポートし、.csv ファイルを指定した場所に保存します。サンプル csv エクスポート ファイルについては、[図 3-9](#)を参照してください。

図 3-9 サンプルエクスポートファイル

	A	B	C	D	E	F
1	Display Name	Domain FQDN	Host FQDN	Username	Password	
2	name1	domain1	host1	user1		
3	name2	domain2	host2	user2		
4						
5						

Active Directory サーバの削除

Active Directory サーバを削除するには、次の手順を実行します。

手順 1 [Active Directory Servers] ダッシュレットで、リスト内の削除する Active Directory サーバの隣にあるチェックボックスをオンにして、[Delete] をクリックします。

CDA から確認が求められます。

手順 2 [OK] をクリックします。

Active Directory サーバが削除されます。

関連トピック:

- [Active Directory サーバの追加と編集\(3-8 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのフィルタリング\(3-12 ページ\)](#)
- [Active Directory の基本設定\(3-12 ページ\)](#)

Active Directory サーバのフィルタリング

ドメイン FQDN に基づいて Active Directory サーバをフィルタリングできます。
Active Directory サーバリストをフィルタリングするには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Active Directory Servers] ダッシュレットでフィルタ  アイコンをクリックします。
- 手順 2 サーバのドメイン FQDN を入力します。
- 手順 3 **Enter** を押します。
-

関連トピック:

- [Active Directory サーバの追加と編集\(3-8 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの削除\(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory の基本設定\(3-12 ページ\)](#)

Active Directory の基本設定

Active Directory の基本設定を変更して、CDA が Active Directory サーバと対話する方法を設定できます。

Active Directory の基本設定を行うには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Active Directory General Settings] リンクをダッシュボードでクリックします。
[Active Directory General Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 手順 2 次の詳細事項を入力します。
- [Monitoring]: DC マシンのアップ/ダウン ステータスの連続モニタリング間の時間間隔。
 - [History]: 設定されている DC マシンのセキュリティ ログの読み取りを開始してから何分間行うかを指定します。たとえば、この 10 分間の履歴が必要なら、10 と入力します。
 - [User Logon Expiration Period]: ここに指定した時間が経過すると、ログイン ユーザはログアウトとマーク付けされます。
 - [Use NTLMv2]: このチェックボックスをオンにして、NTLMv2 プロトコルを使用します。これにより、Active Directory ドメイン コントローラに接続したときに、CAD が NTLMv2 認証プロトコルを使用するようになります。デフォルトで、このチェックボックスは、CDA、パッチ 2 のインストール後にオンになりません。
- CDA との正常な接続のために、「[CDA との正常な接続のための Active Directory の要件](#)」セクション(2-5 ページ)で説明するすべての要件が満たされていることを確認します。

ドメイン コントローラに適用されるグループ ポリシーが [Send NTLMv2 response only.Refuse LM & NTLM] に設定されている場合は、[図 3-6](#) を参照し、NTLMv2 を使用して、ドメイン コントローラに正しく接続できるように CDA のドメイン コントローラに接続する必要があります。

手順 3 [Save(保存)] をクリックします。

関連トピック:

- [Active Directory サーバの追加と編集\(3-8 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバの削除\(3-11 ページ\)](#)
- [Active Directory サーバのフィルタリング\(3-12 ページ\)](#)

Syslog メッセージの送受信

CDA は、管理とトラブルシューティングに関する情報が含まれているログを 1 つ以上の Syslog サーバに転送できます。これらのログの内容は、CDA マシンでローカルに使用可能なカスタマーログと同じです。

CDA は、1 つまたは複数の syslog クライアントが追加されても syslog サーバとして機能できます。Cisco Identity Services Engine (ISE) と Cisco Secure Access Control System (ACS) に接続し、syslog メッセージを受信できます。ライブ ログをチェックすると、受信した syslog メッセージを確認できます。利点は、CDA が 802.1x の導入と統合され、必ずしも Microsoft ドメイン コントローラによって認証されていない他のデバイスがサポートされることです。

CDA は ISE 1.1、1.2、1.3、および 2.0 と、ACS 5.3、5.4、5.6、5.7、および 5.8 のみをサポートします。CDA は、ISE 2.0 では Cisco デバイスのみをサポートします。

syslog サーバまたはクライアントの追加、編集、削除を行うことができます。

CDA は、次の 3 つのタイプの syslog メッセージをサポートします。

- UDP syslog: CDA はポート 514 で ISE からの着信 UDP メッセージをリッスンします。
- TCP syslog: CDA はポート 1468 で ISE からの着信 TCP メッセージをリッスンします。
- Semisecure TCP syslog: CDA はポート 6514 で ISE からの着信 TCP メッセージをリッスンします。この場合、CDA 証明書を ISE 証明書ストアにインポートする必要があります。CDA はその証明書によって ISE を認証せず、ISE が CDA を認証するためと、TCP 接続を介して syslog の内容を暗号化するために証明書が必要になります。

この項の構成は、次のとおりです。

- [Syslog サーバクライアントの追加と編集\(3-14 ページ\)](#)
- [ユーザ ログインイベントを CDA に転送する ISE の設定\(3-15 ページ\)](#)
- [Syslog サーバの削除\(3-18 ページ\)](#)
- [Syslog サーバのフィルタリング\(3-18 ページ\)](#)
- [ログ レベル設定\(3-19 ページ\)](#)

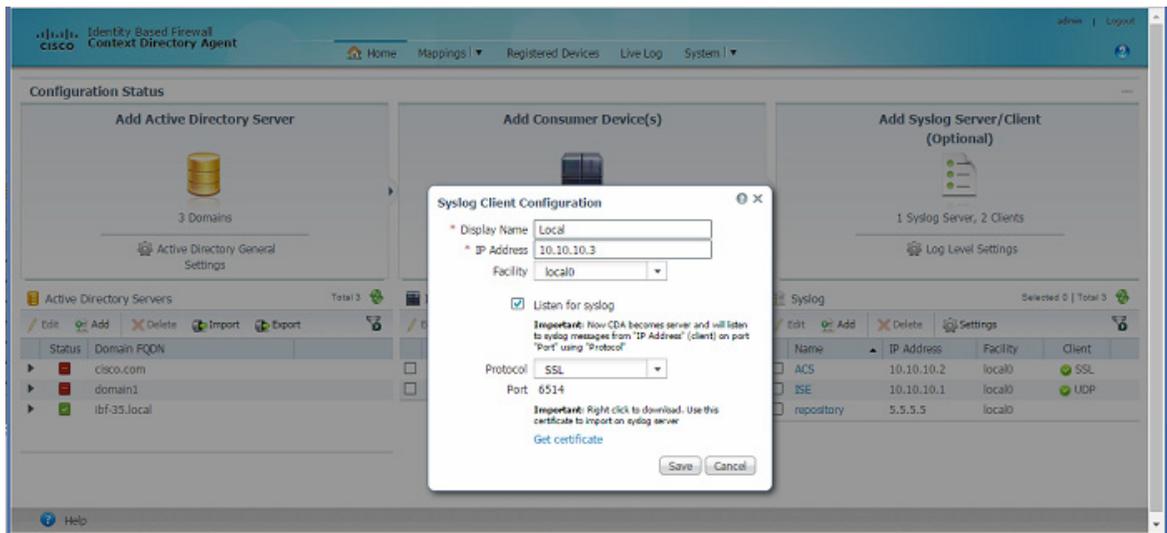
Syslog サーバ/クライアントの追加と編集

syslog サーバ/クライアントを追加または編集するには、次の手順を実行します。

- 手順 1 [Syslog] ダッシュレットで [Add] をクリックするか、サーバの隣にあるチェックボックスをオンにして編集のために [Edit] をクリックします。あるいは、[Add Syslog Servers/Client] リンクをダッシュボードでクリックすることもできます。

[Syslog Server/Client Configuration] ダイアログボックスが表示されます。(図 3-5)。

図 3-10 [Syslog Server/Client Configuration] ダイアログボックス



- 手順 2 次の詳細事項を入力します。

- [Display Name]: syslog サーバ/クライアントの表示名。
- [IP Address]: Syslog サーバ/クライアントの IP アドレス。
- [Facility]: Syslog 機能。
- [Listen for Syslog]: CDA が Cisco ISE/ACS から syslog メッセージを受信できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
- [Protocol]: 使用するプロトコルを選択します。CDA は、UDP、TCP と SSL 経由で ISE 1.2、1.3、2.0、ACS 5.5、5.6、5.7、5.8 に接続することができます。ISE 1.1.x と ACS 5.3/5.4 には UDP 経由でのみ接続できます。CDA は、ISE 2.0 では Cisco デバイスのみをサポートします。



(注) 現在、SSL 経由のセキュリティで保護された syslog は暗号化にのみ使用され、syslog メッセージの認定送信者として ISE/ACS の認証は行いません。

- [Port]: これは表示専用フィールドです。選択したプロトコルによってポート番号が変更されます。
- [Get Certificate]: セキュリティ証明書をダウンロードし、ISE サーバに送信するときにクリックします。SSL を使用して CDA を ISE に接続する場合は、接続を確立する前に認証を受ける必要があります。これを行うには、ISE サーバにこのセキュリティ証明書を送信し、接続を確立するために ISE 証明書ストアにそれをインポートする必要があります。



(注) syslog を CDA に送信するすべての ISE ノードの IP アドレスを追加します。

- 手順 3 [Save(保存)] をクリックします。
新しいサーバ/クライアントが [Syslog Server/Client] ダッシュレットに一覧表示されます。

ISE 経由で認証されるユーザの場合、ISE が参加するドメインがドメイン名として使用されます。ISE 経由で認証されるがドメインがないユーザの場合、「LOCAL」がドメイン名として使用されます。

関連トピック:

- [Syslog メッセージの送受信 \(3-13 ページ\)](#)
- [ユーザ ログイン イベントを CDA に転送する ISE の設定 \(3-15 ページ\)](#)
- [Syslog サーバの削除 \(3-18 ページ\)](#)
- [Syslog サーバのフィルタリング \(3-18 ページ\)](#)
- [ログ レベル設定 \(3-19 ページ\)](#)

ユーザ ログイン イベントを CDA に転送する ISE の設定

ISE から syslog メッセージを受信するように CDA をセットアップするためには、ISE にリモート ログ ターゲットを設定する必要があります。これが合格した認証と RADIUS アカウンティングの syslog メッセージを CDA に転送します。CDA では、ISE から syslog メッセージを受信する syslog サーバをセットアップする必要があります。

次の手順では、ISE と CDA に必要な設定について説明します。

- 手順 1 ISE の新しいリモート ログ ターゲットを設定します。このログ ターゲットは、ISE が発信する syslog メッセージを受信する CDA マシンにする必要があります(図 3-11)。リモート ログ ターゲットの設定方法の詳細については、『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.2](#)』を参照してください。

図 3-11 ISE のリモート ログ ターゲットの設定

The screenshot shows the 'New Logging Target' configuration page in the ISE web interface. The 'Logging Target' section is expanded, showing the following fields and values:

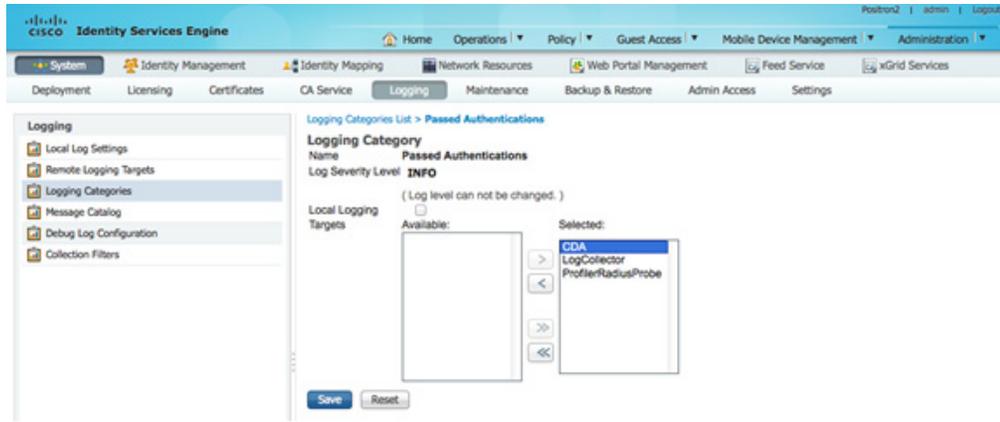
- Name: CDA_server
- Description: CDA server to collect user logins
- IP Address: 10.10.10.20
- Port: 1468 (Valid Range 1 to 65535)
- Facility Code: LOCAL6
- Maximum Length: 1024 (Valid Range 200 to 8192)
- Target Type: TCP SysLog (Selected from a dropdown menu)
- Status: UDP SysLog, TCP SysLog, Secure SysLog
- Include Alarms For this Target:
- Buffer Messages When Server Down:
- Buffer Size (MB): 100 (Valid Range 10 to 100)
- Reconnect Timeout (Sec): 30 (Valid Range 30 to 120)

Buttons for 'Submit' and 'Cancel' are visible at the bottom of the form.

371124

- 手順 2 合格した認証 syslog メッセージを CDA に転送するよう ISE を設定します(図 3-12)。詳細については、『Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.2』を参照してください。

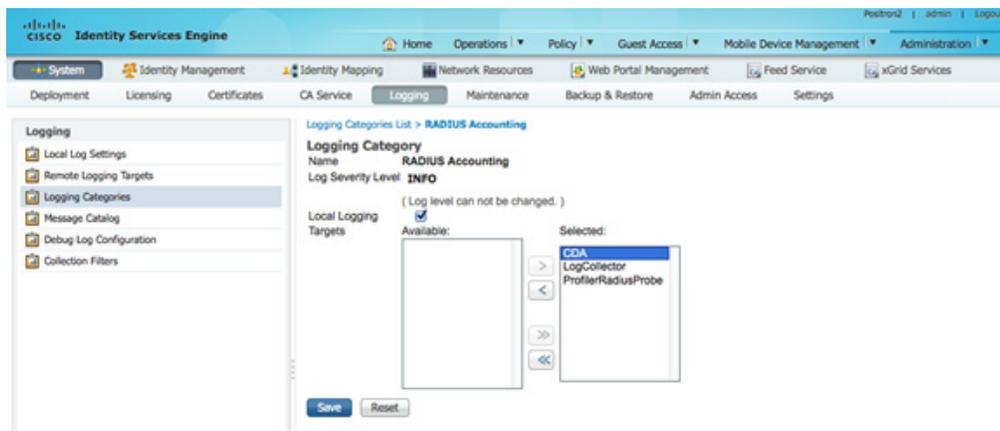
図 3-12 合格した認証 syslog メッセージを転送する ISE の設定



371122

- 手順 3 RADIUS アカウンティング syslog メッセージを CDA に転送するよう ISE を設定します(図 3-13)。詳細については、『Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.2』を参照してください。

図 3-13 RADIUS アカウンティング syslog メッセージを転送する ISE の設定



371123

ISE と CDA の syslog サーバを設定する方法の詳細については、「Syslog サーバ/クライアントの追加と編集」セクション(3-14 ページ)を参照してください。CDA の設定時は、ISE からのメッセージが解析されるように [Listen for Syslog] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。

関連項目

- ISE と ACS からのネットワーク ログイン情報の受信(1-5 ページ)
- Syslog メッセージの送受信(3-13 ページ)

デフォルトのドメイン名の設定

ドメイン名の属性が syslog クライアント (ISE/ACS) で設定されていない場合、デフォルトでは CDA は [IP-to-User-Identity Mappings] ページのドメイン名として *LOCAL* を使用します。これは EAP-TLS 認証や RADIUS 認証などの場合に発生します。これを避けるためには、ユーザのドメイン名が不明の場合に表示されるドメイン名を設定することができます。

ドメイン名の属性が見つからず、置き換え用のドメイン名を設定している場合は、その名前がすべての syslog リスナーに適用されます。複数のドメインに異なるドメイン名を設定することはできません。置き換え用のドメイン名は、設定後に受信されるすべての syslog メッセージに適用されます。

ISE/ACS からドメインを得られないユーザの共通のドメイン名を設定するには、次の手順を実行します。

- 手順 1 CDA ホームページに移動します。
- 手順 2 [Syslog] ダッシュレットから [Settings] を選択します。
- 手順 3 置き換え用のドメイン名を入力します。
- 手順 4 [Save(保存)] をクリックします。

図 3-14 デフォルトのドメイン名

Mapping of IP Addresses to Identities

Delete Refresh rate 10 seconds

<input type="checkbox"/>	Ip	Mapping Type	Domain	Mapping Origin
<input type="checkbox"/>	10.56.51.189	dc	IBF-35	IBF-35
<input type="checkbox"/>	10.56.51.186	dc	IBF-35	IBF-35
<input type="checkbox"/>	192.168.5.152	dc	LOCAL	LOCAL

372068

図 3-14 の強調表示されたドメイン名は、*LOCAL* がデフォルト名として表示されることを示しています。図 3-15 に示すようにデフォルト ドメイン名を変更することができます。

図 3-15 デフォルト ドメイン名の変更

Syslog Settings

When domain name is not available in the log messages, the replacement below will be used as the domain name

Replace Empty Domain with

Save Cancel

372068

デフォルト ドメイン名を変更したら、[図 3-16](#) に示すように、更新された名前が [IP-to-User-Identity Mappings] ページに表示されます。

図 3-16 設定したドメイン名

Mapping of IP Addresses to Identities

Ip	Mapping Type	Domain	Mapping Origin
<input type="checkbox"/> 10.56.51.189	dc	IBF-35	IBF-35
<input type="checkbox"/> 10.56.51.186	dc	IBF-35	IBF-35
<input type="checkbox"/> 192.168.5.152	dc	IBF-44	IBF-44

372869

Syslog サーバの削除

Syslog サーバを削除するには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1** [Syslog Servers] ダッシュレットで、リスト内の削除する Syslog サーバの隣にあるチェックボックスをオンにして、[Delete] をクリックします。
- CDA から確認が求められます。
- 手順 2** [OK] をクリックします。
- Syslog サーバが削除されます。
-

関連トピック:

- [Syslog サーバクライアントの追加と編集\(3-14 ページ\)](#)
- [Syslog サーバのフィルタリング\(3-18 ページ\)](#)
- [ログ レベル設定\(3-19 ページ\)](#)

Syslog サーバのフィルタリング

次の基準に基づいて Syslog サーバをフィルタリングできます。

- 名前
- IP アドレス
- ファシリティ

Syslog サーバリストをフィルタリングするには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1** [Syslog Servers] ダッシュレットでフィルタ  アイコンをクリックします。
- 手順 2** フィルタリングする基準を入力します。
- 手順 3** **Enter** を押します。
-

関連トピック:

- [Syslog サーバクライアントの追加と編集\(3-14 ページ\)](#)
- [Syslog サーバの削除\(3-18 ページ\)](#)
- [ログ レベル設定\(3-19 ページ\)](#)

ログ レベル設定

ログ レベル設定は、Syslog サーバに送信されたログおよび CDA マシンに保存されているログに使用されるグローバル設定で、設定内容はライブ ログの下でユーザインターフェイスにより表示できます。

グローバルなログ レベル設定を行うには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Log Level Settings] リンクをダッシュボードでクリックします。
[Global Log Level Settings] ダイアログボックスが表示されます。
 - 手順 2 [Log Level] ドロップダウン リストでログ レベルを選択します。CDA には次のログ レベルがあります。
 - Fatal
 - Error
 - Warning
 - Notice
 - Info
 - Debug
 - 手順 3 [Save(保存)] をクリックします。
-

関連トピック:

- [Syslog サーバクライアントの追加と編集\(3-14 ページ\)](#)
- [Syslog サーバの削除\(3-18 ページ\)](#)
- [Syslog サーバのフィルタリング\(3-18 ページ\)](#)

IP-to-User-Identity マッピング

CDA では、現在キャッシュされているすべての IP-to-user-identity マッピングが一覧表示され、管理者はそのマッピングのリフレッシュ、フィルタリング、および削除を行うことができます。

図 3-17 は、IP-to-user-identity マッピング ページを示しています。

図 3-17 IP-to-User-Identity マッピング ページ

ip	mapping-type	domain	mapping-origin	time-stamp	user-name	responds-to-probe
<input type="checkbox"/> ::ffff:192.168.100.1...	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	Administrator	true
<input type="checkbox"/> ::1	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	Administrator	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.1	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser1	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.2	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser2	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.3	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser3	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.4	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser4	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.5	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser5	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.6	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser6	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.7	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser7	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.8	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser8	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.9	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser9	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.10	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser10	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.11	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser11	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.12	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser12	true
<input type="checkbox"/> 192.168.7.13	dc	IBF-7	IBF-7	2012-01-26T13:29:...	FakeUser13	true

IP-to-User-Identity マッピングの一覧表示

IP-to-user-identity マッピングを一覧表示するには、[Mappings] > [IP to Identity] を選択します。

IP-to-User-Identity マッピング ページのリフレッシュ

このページはデフォルトでは 10 秒ごとに自動的にリフレッシュされます。リフレッシュ レートは次のいずれかに変更できます。

- 20 秒
- 30 秒
- 1 分
- 2 分
- なし

IP-to-User-Identity マッピング ページのフィルタリング

クイック フィルタ オプションまたは拡張フィルタ オプションを使用して、IP-to-user-identity マッピング レコードをフィルタリングできます。

-
- 手順 1** [Mapping] > [IP to Identity] を選択します。
- [Mapping of IP Addresses to Identities] ページが表示されます。このページには、IP-to-user-identity マッピング レコードが一覧表示されます。
- 手順 2** [Show] ドロップダウン リストをクリックしてフィルタ オプションを一覧表示します。
- ここでは、クイック フィルタ、フィルタリング用の拡張フィルタ、[Manage Preset Filters] オプション(フィルタリング用のプリセット フィルタを管理できる)を選択できます。
-



(注) IP-to-user-identity マッピング リストに戻るには、[Show] ドロップダウン リストから [All] を選択します。フィルタリングなしですべてのマッピングが表示されます。

クイック フィルタ オプションを使用してフィルタリングするには、次の手順を実行します。

クイック フィルタでは、[Mapping of IP Addresses to Identities] ページの各属性に基づいて IP-to-user-identity マッピングがフィルタリングされます。

フィルタリングするには、いずれかのフィールド内部をクリックし、テキスト ボックスに検索基準を入力します。ページがリフレッシュされて、結果が [Mapping of IP Addresses to Identities] ページに表示されます。フィールドをクリアすると、[Mapping of IP Addresses to Identities] ページにすべてのマッピングのリストが表示されます。

拡張フィルタ オプションを使用してフィルタリングするには、次の手順を実行します。

拡張フィルタでは、より複雑な変数を使用して IP-to-user-identity マッピングをフィルタリングできます。フィールド説明に一致する値に基づいてマッピングをフィルタリングする 1 つ以上のフィルタが含まれています。1 行に 1 つのフィルタの場合、マッピングは各属性とフィルタに定義した値に基づいてフィルタリングされます。複数のフィルタを使用して値の照合を行い、1 つの拡張フィルタ内でそれらのフィルタのいずれか 1 つまたは全部を使用してマッピングをフィルタリングできます。

- 手順 1 ドロップダウン リストから属性を選択します。次のレコード属性で IP-to-user-identity マッピング レコードをフィルタリングできます。
- IP
 - Mapping-Type
 - Domain
 - Mapping-Origin
 - Time stamp
 - User name
 - Response-to-probe
- 手順 2 ドロップダウン リストから演算子を選択します。
- 手順 3 選択した属性に値を入力します。
- 手順 4 ファイルタを追加するには [Add Row] (プラス [+] 符号) ボタンをクリックし、フィルタを削除するには [Remove Row] (マイナス [-] 符号) ボタンをクリックします。
- 手順 5 各フィルタの値に一致させるには [All] をクリックし、いずれか 1 つのフィルタの値に一致させるには [Any] をクリックします。
- 手順 6 [Go] をクリックしてフィルタリングを開始します。
- 手順 7 [Save] アイコンをクリックしてフィルタを保存します。

[Save a Preset Filter] ダイアログが表示されます。フィルタを保存するファイル名を入力し、[Save] をクリックします。作成するプリセットフィルタの名前にはスペースは使用できません。現在のフィルタを保存しないでフィルタをクリアするには、[Cancel] をクリックします。

IP-to-User-Identity マッピングの削除

マッピングを選択して削除することも、あるいはすべてのマッピング レコードをクリアすることもできます。これらの操作は両方とも本質的に非同期であるため、[Identity to IP] マッピング ページに変更が反映されるには、ある程度時間がかかります。

マッピングを削除するには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Mappings] > [IP to Identity] を選択します。
 - 手順 2 削除するマッピングの隣にあるチェックボックスをオンにします。
 - 手順 3 [Delete] をクリックします。
-

マッピング フィルタ

[Mapping Filters] を使用すると、CDA によってモニタされないように特定のユーザまたは IP アドレスをブロックできます。

フィルタを作成し、ユーザ名と IP アドレスの一方または両方を指定できます。CDA は指定されたユーザ名と IP アドレスの一方または両方によるマッピングの更新を無視し、これらの更新からはマッピング データを収集しません。フィルタリングされたユーザ、IP アドレスのデータは CDA によってキャッシュされません。したがって、[IP-to-Identity] マッピング ページに一覧表示されることも、コンシューマ デバイスに配布されることもありません。

マッピング フィルタを作成するには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Mappings] > [Filters] を選択します。
 - 手順 2 [Add] をクリックします。
[Mapping Filters Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
 - 手順 3 次の詳細事項を入力します。
 - [Username]: ブロックする必要があるデバイスのユーザ名。
 - [IP Address]: ブロックする必要があるデバイスの IP アドレス。
 - [Apply on existing mappings]: このチェックボックスは、フィルタを既存の IP-to-user-identity マッピング レコードに適用する場合にオンにします。
 - 手順 4 [Save (保存)] をクリックします。
新しいフィルタがフィルタのページに一覧表示されます。
-

登録済みデバイス

[Registered Devices] ページには、特定の IP アドレス (登録にオンデマンド) またはマッピング データベース全体 (登録にフル ダウンロード) に対するマッピングの更新を受信するように予約 されている、CDA に接続されたコンシューマ デバイスのリストが表示されます。

一部のコンシューマ デバイスは更新登録されず、必要に応じて CDA と通信した場合でも、この ページに表示されないことに注意してください。このようなデバイスでは、これは問題とはなり ません。こうしたデバイスの例に Cisco WSA があります。

すべての登録済みデバイスを表示するには、ホーム ページで [Registered Devices] タブをクリッ クします。

このページには次の詳細事項が一覧表示されます。

- Status (ステータス)
- IP アドレス
- 設定名
- 設定範囲

[status] フィールドは、デバイスが CDA と「同期」(緑) または「非同期」(赤) のいずれであるかを示 します。他のフィールドには、デバイス設定時に指定された情報が表示されます。

管理者

CDA ユーザ インターフェイスにアクセスする管理権限またはユーザ権限を持つ CDA 管理者を 追加できます。

ユーザ権限のみを持つ管理者は、[System] メニューを除いたすべての CDA ユーザ インターフェ イス画面および機能にアクセスできます。

ユーザ権限と管理権限の両方を持つ管理者は、[System] メニューを含むすべての CDA ユーザ イ ンターフェイス画面および機能にアクセスできます。

管理者の追加と編集

管理者を追加または編集するには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [System] > [Administrators] を選択します。
[Administrators] ページが表示されます。
 - 手順 2 次のいずれかを実行します。
 - [Add] をクリックして、新しいデバイスを追加します。
 - リスト内の既存管理者の隣にあるチェックボックスをオンにして、[Edit] をクリックします。
 - 手順 3 次の詳細を入力します。
 - ユーザ名 (User name)
 - パスワード (Password)
 - Verify Password
 - 権限

- 名
- 姓

手順 4 [Save] をクリックして、追加または編集した管理者を保存します。

管理者の削除

管理者を削除するには、次の手順を実行します。

手順 1 [System] > [Administrators] を選択します。

手順 2 リスト内の削除する管理者の隣にあるチェックボックスをオンにして、[Delete] をクリックします。

CDA から確認が求められます。

手順 3 [OK] をクリックします。

管理者が削除されます。

パスワードポリシー

セキュリティ向上のために管理者アカウントにパスワードポリシーを作成できます。ここで定義するポリシーは、CDA において管理権限を持つすべてのアカウントに適用されます。

パスワードポリシーを設定するには、次の手順を実行します。

手順 1 [System] > [Password Policy] を選択します。

[Password Policy] ページが表示されます。

手順 2 次の情報を入力します。

- 新しいパスワードに含めなければならない次の属性をオンまたはオフにします。
 - 小文字
 - 大文字
 - 数字
 - 特殊文字
- 新しいパスワードに含めてはならない次の属性をオンまたはオフにします。
 - [Three or more consecutive characters]: このチェックボックスは、連続する 3 文字以上の使用を制限する場合にオンにします。
 - [Username (or reversed)]: このチェックボックスは、管理者ユーザ名またはその文字の逆順での使用を制限する場合にオンにします。
 - ["Cisco" (or reversed)]: このチェックボックスは、単語「cisco」またはその文字の逆順での使用を制限する場合にオンにします。
 - [Custom word (or Reversed)]: 定義した単語またはその文字の逆順での使用を制限します。

- [Minimum Length]: (必須)パスワードの最小長(文字数)を指定します。デフォルトは 4 文字です。
- [Maximum Length]: (必須)パスワードの最大長(文字数)を指定します。デフォルトは 99 文字です。

手順 3 [Save] をクリックしてポリシーを保存します。

セッションタイムアウト

CDA においても、その CDA ユーザインターフェイスセッションが非アクティブで引き続き接続したままであることが可能な時間の長さを決定できます。分単位の時間を指定することができます。その時間が経過すると CDA は管理者をログアウトします。セッションのタイムアウト後、管理者は、CDA ユーザインターフェイスにアクセスするには再びログインする必要があります。

セッションのタイムアウトを設定するには、次の手順を実行します。

手順 1 [System] > [Session Timeout] を選択します。

[Session Timeout] ページが表示されます。

手順 2 セッションのタイムアウト値を分単位で入力します。

手順 3 [Save(保存)] をクリックします。

ライブ ログ

CDA ライブ ログには、CDA の動作を診断、トラブルシューティング、監査するメカニズムが用意されています。ライブ ログは、システムの監査とトラブルシューティングに必要なすべての情報を収集します。ライブ ログは、db/reports.db ファイルと設定済みの Syslog サーバに保存されます。ライブ ログ GUI には、CDA によって生成された最新メッセージが最大で 10,000 件表示されます。

メッセージタイプ

CDA ライブ ログには次のメッセージが一覧表示されます。

- Syslog サーバメッセージ(CDA が syslog サーバとして接続されている場合)
- CDA 制御メッセージ
- 設定の変更
- マッピングの更新
- 同期要求
- CoA ベース トラフィック
- セッションデータのスナップショットの転送
- On-Demand クエリー
- キープアライブ要求
- ドメイン ステータス クエリー

- DC ステータスのトラッキング
- DC あたりの日単位イベントの統計

メッセージ コンテンツ

CDA ライブ ログ メッセージには次の情報が含まれます。

- Timestamp
- Severity
- 元コンポーネント
- メッセージ Coe
- メッセージ テキスト

ログ レベル

次に示すのは、CDA でサポートされるログ レベルとそのステータス記号です。

	Debug
	Info
	Notice
	Warning
	Error
	Fatal

詳細レベル

CDA では、次の値のいずれかにログ詳細を設定できます。

- NONE
- FATAL
- ERROR
- WARN
- INFO
- DEBUG

ライブ ログのフィルタリング

次のログ属性でライブ ログをフィルタリングできます。次のログ属性があります。

- Time stamp
- Severity
- 元コンポーネント
- メッセージ
- Attributes

ライブ ログをフィルタリングするには、次の手順を実行します。

-
- 手順 1 [Live Logs] ページでフィルタ  アイコンをクリックします。
- 手順 2 テキスト ボックスにフィルタ基準を入力します。
フィルタリングされたデータが表示されます。
-

[Live Logs] ページのリフレッシュ

このページはデフォルトでは 10 秒ごとに自動的にリフレッシュされます。リフレッシュ レートは次のいずれかに変更できます。

- 20 秒
- 30 秒
- 1 分
- 2 分
- なし

ライブ ログの削除

[Clear] ボタンをクリックして、すべてのライブ ログをクリアできます。



CDA コマンド リファレンス

この章では、Cisco Context Directory Agent (CDA) に固有のコマンドをアルファベット順に示します。

コマンドには、次のモードがあります。

- EXEC
 - システムレベル
 - Show
- 設定 (Configuration)
 - コンフィギュレーション サブモード



(注) EXEC モードのシステム レベル **config** または **configure** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードにアクセスします。

この章では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および使用例を示します。この章全体で、CDA サーバは、CDA サーバのホスト名の代わりに *CDA* という名前を使用します。



(注) コマンドを使用してエラーが発生した場合は、**debug** コマンドを使用して、エラーの原因を判断してください。

この付録では、次の各項目について説明します。

- [EXEC コマンド\(4-2 ページ\)](#)
- [show コマンド\(4-52 ページ\)](#)
- [コンフィギュレーション コマンド\(4-85 ページ\)](#)

EXEC コマンド

この項では、各 EXEC コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

表 4-1 に、この項で説明する EXEC コマンドの一覧を示します。

表 4-1 EXEC コマンドのリスト

<ul style="list-style-type: none"> • application install • application remove • application reset-config • application reset-passwd • application start • application stop • application upgrade • backup • backup-logs • clock • configure • copy • debug 	<ul style="list-style-type: none"> • delete • dir • exit • forceout • halt • help • mkdir • nslookup • patch install • patch remove • ping • ping6 • reload 	<ul style="list-style-type: none"> • restore • rmdir • show (show コマンドを参照) • ssh • tech • telnet • terminal length • terminal session-timeout • terminal session-welcome • terminal terminal-type • traceroute • undebg • write
---	--	--

application install



(注)

CDA アプリケーションは、サポート対象のすべてのアプライアンスおよび VMware 上に提供された ISO イメージでプリインストールされているため、通常運用下では CLI から **application install** コマンドを実行できません。

CDA 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを実行します。この機能を削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

application install *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>install</code>	特定のアプリケーションをインストールします。
<code>application-bundle</code>	アプリケーション バンドルのファイル名。255 文字までの英数字で指定します。
<code>remote-repository-name</code>	リモート リポジトリ名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 指定したアプリケーションバンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーションバンドルファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションをインストールまたは削除している間に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを別途実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.

例 /admin# **application install cda-appbundle-1.0.0.011.i386.tar.gz myrepository**

```
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes] ?
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
```

```
Application successfully installed
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
show application	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application remove



(注) アップグレードのために明示的に指示された場合を除いて、CLI から **application remove** コマンドを実行して CDA アプリケーションを削除することはできません。

CDA 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで **application remove** コマンドを実行します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application remove application-name

構文の説明		
	<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
	<code>remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
	<code>application-name</code>	アプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン アプリケーションを削除またはアンインストールします。

例

```
/admin# application remove cda
Continue with application removal? [y/n] y

Application successfully uninstalled
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
	<code>application install</code>	アプリケーションバンドルをインストールします。
	<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
	<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
	<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
	<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
	<code>application upgrade</code>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
	<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-config

CDA アプリケーション設定をリセットし、CDA データベースをクリアするには、EXEC モードで `application reset-config` コマンドを使用します(このコマンドは、IP アドレス、ネットマスク、管理者ユーザ インターフェイスのパスワードなどの初期のシャーシ構成時の設定をリセットしません)。このリセット関数の一部では、新しい CDA 管理者名とパスワードを入力する必要があります。

`application reset-config application-name`

構文の説明		
	<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
	<code>reset-config</code>	CDA アプリケーションの設定をリセットし、CDA データベースをクリアします。
	<code>application-name</code>	リセットするアプリケーション設定の名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **application reset-config** コマンドを使用すると、CDA アプライアンスまたは VMware を再イメージ化せずに、CDA コンフィギュレーションのリセットおよび CDA データベースのクリアを行うことができ、また CDA ユーザ名とパスワードをリセットできます。



(注) **application reset-config** コマンドを使用すると、CDA コンフィギュレーションは出荷時の初期状態にリセットされますが、オペレーティング システム (Cisco ADE-OS) コンフィギュレーションはそのまま変更されません。Cisco ADE-OS コンフィギュレーションには、ネットワーク設定、CLI パスワード ポリシー、およびバックアップ履歴などの項目が含まれます。

例 例 1

```
/admin# application reset-config cda
The existing configuration will be lost. Are you sure? [Y/n] Y
Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...
Enter the CDA administrator username to create[admin]:
Enter the password for 'admin':
Re-enter the password for 'admin':
Starting CDA...
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。

コマンド	説明
<code>application upgrade</code>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application reset-passwd

ユーザアカウントクレデンシャルを失った後、CDA 内で指定されたユーザアカウント(一般には既存の管理者アカウント)の管理者ユーザインターフェイスログインパスワードをリセットするには、EXEC モードで **application reset-passwd** コマンドを使用します。

application reset-passwd *application-name administrator-ID*

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>reset-passwd</code>	管理者アカウントパスワードをリセットします。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。
<i>administrator-ID</i>	無効に設定されたため、パスワードをリセットする既存の管理者アカウントの名前。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 管理者パスワードをリセットします。

例

```
admin# application reset-passwd cda admin
Enter new password: *****
Confirm new password: *****

Password reset successfully.
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application installs</code>	アプリケーションバンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。

コマンド	説明
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application start

特定のアプリケーションをイネーブルにするには、EXEC モードで **application start** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

application start *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>start</code>	アプリケーション バンドルをイネーブルにします。
<i>application-name</i>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをイネーブルにします。

このコマンドは、CDA アプリケーションの起動には使用できません。このコマンドを使用してアプリケーションを起動すると、CDA がすでに実行されていることを確認できます。

例

```
/admin# application start cda
Starting CDA...
```

show application status cda コマンドを使用して、CDA のステータスを確認できます。CDA を起動した直後にステータスを確認すると、次の出力が表示されます。

```
/admin# show application status cda
CDA Application Server process is not running.
```

しかし、少し後に次のような出力になります。

```
/admin# show application status cda
CDA Application Server is running, PID: 16420
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。

コマンド	説明
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<code>application upgrade</code>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop** コマンドを使用します。

application stop *application-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための <code>application</code> コマンド。
<code>stop</code>	アプリケーションをディセーブルにします。
<i>application-name</i>	ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

例

```
/admin# application stop cda

Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>application install</code>	アプリケーションを設定します。
<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<code>application remove</code>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<code>application reset-config</code>	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
<code>application reset-passwd</code>	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

application upgrade

特定のアプリケーション バンドルをアップグレードするには、EXEC モードで **application upgrade** コマンドを使用します。

application upgrade *application-bundle remote-repository-name*

構文の説明

<code>application</code>	アプリケーションのインストールと管理のための application コマンド。
<code>upgrade</code>	リモート リポジトリ内の特定のアプリケーション バンドルをアップグレードします。
<i>application-bundle</i>	アプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。
<i>remote-repository-name</i>	リモート リポジトリ名。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーション バンドルをアップグレードし、アプリケーション設定データを保存します。アプリケーションを別途アップグレードしている間に、**application upgrade** コマンドを実行すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.



注意

アップグレード中は、**backup** または **restore** コマンドを実行しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。



(注)

このアプリケーション アップグレード コマンドを使用して新しいリリースにアップグレードする前に、その新しいリリースに付随するリリース ノートのアップグレード手順を参照する必要があります。リリース ノートには、新しいリリースにアップグレードするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例

```
/admin# application upgrade cda-appbundle-1.1.0.362.i386.tar.gz http
Save the current ADE-OS running configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application Upgrade...
Stopping CDA application before upgrade...
Running CDA Database upgrade...
Upgrading CDA Database schema...
CDA Database schema upgrade completed.

Application upgrade successful
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーション バンドルをインストールします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
show application	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

backup

CDA コンフィギュレーション データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backup** コマンドを実行します。Cisco ADE OS データを含めず、CDA アプリケーション データのみのバックアップを実行するには、**application** コマンドを使用します。



(注)

EXEC モードでこの **backup** コマンドを使用する前に、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、CDA サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。CDA アプリケーションをバックアップおよびシステム ログから復元またはトラブルシューティングするときに、このスタートアップ コンフィギュレーションを使用できます。実行コンフィギュレーションからスタートアップ コンフィギュレーションへのコピーの詳細については、「[copy](#)」セクション(4-15 ページ)を参照してください。

backup *backup-name* **repository** *repository-name* **application** *application-name*

構文の説明

backup	CDA と Cisco ADE OS のバックアップを実行し、バックアップをリポジトリに格納するコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
repository	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。
application	アプリケーション コマンド (Cisco ODE OS システム データを除く、アプリケーションのみのバックアップ)。
<i>application-name</i>	アプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

CDA および Cisco ADE OS データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。

Cisco ADE OS データを含めず、CDA アプリケーション データのみのバックアップを実行するには、**application** コマンドを使用します。

例

例 1

```
/admin# backup mybackup repository myrepository
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1252.tar.gz.gpg
/admin#
```

例 2

```
/admin# backup mybackup repository myrepository application cda
% Creating backup with timestamped filename: backup-111125-1235.tar.gz.gpg
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup-logs	システム ログをバックアップします。
delete	CDA サーバからファイルを削除します。
dir	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
reload	システムをリブートします。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。

backup-logs *backup-name repository repository-name*

構文の説明	
<code>backup-logs</code>	システム ログおよびアプリケーション ログをリポジトリにバックアップするコマンド。
<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つまたは複数のファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
リポジトリ	リポジトリ コマンド。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 暗号化された(ハッシュ)パスワードまたは暗号化されていないプレーン テキスト パスワード付きでシステム ログをバックアップします。

例

```
/admin# backup-logs mybackup repository myrepository password plain Lab12345
% Creating log backup with timestamped filename: mybackup-111125-1117.tar.gz.gpg
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>backup</code>	(CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	<code>restore</code>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
	<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

clock

システム クロックを設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。

clock set [*month day hh:min:ss yyyy*]

構文の説明

clock set	システム クロックを設定するコマンド。
<i>month</i>	現在の月の名前。3 文字までの英字で指定します。たとえば、January は Jan と指定します。
<i>day</i>	現在の日 (日付)。有効な値は 0 ~ 31 の範囲です。2 桁までの数値で指定します。
<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間 (24 時間形式)、分、および秒。
<i>yyyy</i>	現在の年 (短縮表記しない)

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

システム クロックを設定します。変更を有効にするためには、クロックをリセットした後、CDA サーバを再起動する必要があります。(NTP が設定された) 通常の状態では、このコマンドを使用してシステム クロックを手動で設定する理由はありません。



警告

CDA アプライアンス上のシステム時刻を変更すると、CDA アプリケーションが導入環境で使用できなくなります。



(注)

インストール時に正しいシステム時刻が設定されるようにするため、セットアップ ウィザードは、NTP サーバの入力を要求して同期を試みます。システム時刻を常に正確に維持するため、セットアップ中は設定された NTP サーバに常時接続できるようにしておく必要があります。これは、電源障害や CMOS バッテリ障害のために BIOS 時刻が不正確となり、その結果としてリブート時に ADE-OS システム時刻が正しくなくなる可能性がある場合に、特に重要です。

例

```
/admin# clock set May 5 18:07:20 2010
/admin# show clock
Thu May 5 18:07:26 UTC 2010
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show clock	システム ソフトウェア クロックに設定されている日付と時刻を表示します。

configure

コンフィギュレーションモードに入るには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。このコマンドで **replace** オプションを使用すると、リモート設定がシステムにコピーされ、既存の設定が上書きされます。

configure terminal

構文の説明

configure	コンフィギュレーションモードを開始するコマンド。
terminal	コンフィギュレーションコマンドを端末から実行します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーションモードを開始する場合に使用します。このモードのコマンドは、(**Enter** を押して)入力するとすぐに、実行コンフィギュレーションファイルへの書き込みを行います。

コンフィギュレーションモードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、**Ctrl+z** を押します。

コンフィギュレーションに行った変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

例

例 1

```
/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per lineAug.nd with CNTL/Z.
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。
show startup-config	スタートアップコンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。CDA で **copy** コマンドを実行すると、コンフィギュレーション(実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション)がコピーされます。

実行コンフィギュレーション

CDA のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が CDA RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、実行コンフィギュレーションに含まれます。CDA サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、CDA サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

スタートアップ コンフィギュレーション

スタートアップ コンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、CDA サーバをブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップ コンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする必要があります。

次のコマンドラインは、使用可能な **copy** コマンド シナリオの一部を示しています。

copy running-config startup-config: 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy run start: スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションに置き換えます。



(注) 実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 CDA サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことが確認できたら、**copy run start** コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy startup-config running-config: 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

copy start run: スタートアップ コンフィギュレーションを実行コンフィギュレーションの上部にマージします。

copy [protocol://hostname/location] startup-config: リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしますが、マージしません。

copy [protocol://hostname/location] running-config: 実行コンフィギュレーションにリモート ファイルをコピーしてマージします。

copy startup-config [protocol://hostname/location]: スタートアップ コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

copy running-config [*protocol://hostname/location*]: 実行コンフィギュレーションをリモートシステムにコピーします。

copy logs [*protocol://hostname/location*]: システムのログ ファイルを別の場所にコピーします。



(注) **copy** コマンドは、ローカル ディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

構文の説明

<i>copy</i>	項目をコピーするコマンド。
<i>running-config</i>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
<i>startup-config</i>	初期化(スタートアップ)時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
<i>protocol</i>	プロトコル キーワードのオプションについては、表 4-2 を参照してください。
<i>hostname</i>	コピー先のホスト名。
<i>location</i>	コピー先の場所。
<i>logs</i>	システムのログ ファイル。
<i>all</i>	すべての CDA ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 cdalogs.tar.gz としてパッケージ化され、リモートホストの指定されたディレクトリに転送されます。
<i>filename</i>	単一の CDA ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモートホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送します。
<i>log_filename</i>	show logs コマンドによって表示される CDA ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。
<i>mgmt</i>	CDA 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 mgmtlogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
<i>runtime</i>	CDA ランタイム デバッグ ログをシステムからコピーし、 runtimelogs.tar.gz としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

copy コマンドの基本的な機能として、1 つの場所から別の場所に、ファイル(システム イメージやコンフィギュレーション ファイルなど)をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、CDA ファイルシステムを使用して、サポートされているローカルまたはリモート ファイルの場所を指定できます。使用されているファイル システム(ローカル メモリソースまたはリモート システム)によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードをコマンドラインに入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることができます。



ワンポイントアド
バイス

エイリアスを使用すると、必要な入力文字数が減ります。たとえば、**copy run start (copy running-config startup-config** コマンドの省略形)と入力できます。

コピー プロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

その場合、標準の FTP または SCP エラー メッセージが発生することがあります。

表 4-2 プロトコルプレフィックスのキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
ftp	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文: ftp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
scp	SCP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文: scp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename
sftp	SFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文: sftp:[[/location]/directory]/filename
tftp	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL を指定します。このエイリアスの構文: tftp:[[/location]/directory]/filename

例

例 1

```
/admin# copy run start
Generating configuration...
/admin#
```

例 2

```
/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
/admin#
```

例 3

```
/admin# copy start run
/admin#
```

例 4

```
/admin# copy startup-config running-config
/admin#
```

例 5

```
/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
/admin#
```

例 6

```
/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	CDA インスタンスを起動または停止します。
backup	(CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
delete	CDA サーバからファイルを削除します。
dir	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
reload	システムをリブートします。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
show application	アプリケーション ステータスとバージョン情報を表示します。
show version	システムのソフトウェアバージョンについての情報を表示します。

debug

コマンドの状況に対するエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで、**debug** コマンドを使用します。

```
debug {all | application | backup-restore | cdp | config | icmp | copy | locks | logging | snmp |
system | transfer | user | utils}
```

構文の説明

debug	CDA サーバのさまざまなエラーを識別するコマンド。
all	すべてのデバッグをイネーブルにします。
application	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <i>all</i>: すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 <i>install</i>: アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 <i>operation</i>: アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 <i>uninstall</i>: アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。

backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>: バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>backup</i>: バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>backup-logs</i>: バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>history</i>: バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>restore</i>: バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>: すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション デバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>config</i>: Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーション デバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>infra</i>: Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャ デバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。

config	<p>設定ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>backup</i>:バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>clock</i>:クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>infra</i>:コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>kron</i>:コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>network</i>:ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>repository</i>:リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>service</i>:サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。
icmp	<p>インターネット制御メッセージ プロトコル(ICMP)のエコー応答コンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i>:ICMP エコー応答コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>
copy	<p>コピー コマンド。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>
locks	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>file</i>:ファイル ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。
logging	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i>:すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>
snmp	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i>:すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>

system	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>id</i>:システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>info</i>:システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>init</i>:システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。
transfer	<p>ファイル転送。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>
user	<p>ユーザ管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。 • <i>password-policy</i>:パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。
utils	<p>ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i>:すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</p>

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン セットアップ エラーやコンフィギュレーション エラーなど、CDA サーバ内のさまざまなエラーを識別するには、**debug** コマンドを使用します。

例

```

/admin# debug all
/admin# mkdir disk:/1
/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success

/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
/admin#

/admin# undebg all
/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	undebug	さまざまなコマンドの状況で、 debug コマンドの出力(エラーまたはイベントの表示)をディセーブルにします。

delete

CDA サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

delete filename [disk:/path]

構文の説明		
	<code>delete</code>	CDA からファイルを削除するコマンド。
	<code>filename</code>	ファイル名。80 文字までの英数字で指定します。
	<code>disk:/path</code>	場所。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン コンフィギュレーション ファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、最新の有効なシステム イメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

例

```
/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	dir	CDA サーバ上のすべてのファイルを一覧表示します。

dir

CDA サーバ上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

dir [word] [recursive]

構文の説明	<code>dir</code>	ローカル システム上のファイルを一覧表示するコマンド。
	<code>word</code>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。ディレクトリ名の前には disk:/ を指定する必要があります。
	<code>recursive</code>	ローカル ディレクトリまたはファイル名を再帰的に一覧表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
/admin# dir

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

/admin#
```

例 2

```
/admin# dir disk:/logs

0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

/admin#
```

例 3

```
/admin# dir recursive

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
```

```

4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/

```

Directory of disk:/logs

```

0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

```

Directory of disk:/temp

```

281 Aug 05 2010 19:12:45 RoleBundles.xml
6631 Aug 05 2010 19:12:34 PipDetails.xml
69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupRoles.xml
231 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroupTypes.xml
544145 Aug 05 2010 19:12:35 ResourceTypes.xml
45231 Aug 05 2010 19:12:45 UserTypes.xml
715 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroups.xml
261 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationTypes.xml
1010 Aug 05 2010 19:12:34 Pdps.xml
1043657 Aug 05 2010 19:12:44 Groups.xml
281003 Aug 05 2010 19:12:38 Resources.xml
69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupUsers.xml
2662 Aug 05 2010 19:12:44 RoleTypes.xml
79 Aug 05 2010 19:12:34 UserStores.xml
4032 Aug 05 2010 19:12:38 GroupTypes.xml
1043 Aug 05 2010 19:12:34 Organization.xml
58377 Aug 05 2010 19:12:46 UserRoles.xml
300 Aug 05 2010 19:12:45 Contexts.xml
958 Aug 05 2010 19:12:34 Applications.xml
28010 Aug 05 2010 19:12:45 Roles.xml
122761 Aug 05 2010 19:12:45 Users.xml

```

Directory of disk:/activemq-data

```

4096 Jun 10 2010 02:34:03 localhost/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost

```

0 Jun 10 2010 02:34:03 lock
4096 Jun 10 2010 02:34:03 journal/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 kr-store/
4096 Jun 10 2010 02:34:03 tmp_storage/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal

```

33030144 Aug 06 2010 03:40:26 data-1
2088 Aug 06 2010 03:40:26 data-control

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store

```

4096 Aug 06 2010 03:40:27 data/
4096 Aug 06 2010 03:40:26 state/

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data

```

102 Aug 06 2010 03:40:27 index-container-roots
0 Aug 06 2010 03:40:27 lock

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state

```

3073 Aug 06 2010 03:40:26 hash-index-store-state_state
51 Jul 20 2010 21:33:33 index-transactions-state
204 Aug 06 2010 03:40:26 index-store-state
306 Jun 10 2010 02:34:03 index-kaha

```

```

290 Jun 10 2010 02:34:03 data-kaha-1
71673 Aug 06 2010 03:40:26 data-store-state-1
0 Jun 10 2010 02:34:03 lock

```

Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage

No files in directory

Directory of disk:/target

```

4096 Aug 04 2010 23:15:20 logs/

```

Directory of disk:/target/logs

```

0 Aug 04 2010 23:15:20 ProfilerPDP.log
2208 Aug 05 2010 11:54:26 ProfilerSensor.log

```

Directory of disk:/lost+found

No files in directory

```

Usage for disk: filesystem
8076189696 bytes total used
6371618816 bytes free
15234142208 bytes available

```

/admin#

関連コマンド

コマンド	説明
delete	CDA サーバからファイルを削除します。

exit

CDA サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを終了するか、コンフィギュレーションモードから1つ上のモードレベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

EXEC モードで **exit** コマンドを使用して、(CDA サーバをログアウトすることで)アクティブなセッションを終了するか、コンフィギュレーションモードから上のモードに移行します。

例

```
/admin# exit
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>end</code>	コンフィギュレーション モードを終了します。
	<code>exit</code>	コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了します。
	<code>Ctrl-z</code>	コンフィギュレーション モードを終了します。

forceout

ユーザを CDA サーバからログアウトさせることで、アクティブな端末セッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

forceout *username*

構文の説明	forceout	説明
	<i>username</i>	特定のシステム ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトするコマンド。
		ユーザの名前。31 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン EXEC モードで **forceout** コマンドを使用して、ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させます。

例

```
/admin# forceout user1
/admin#
```

halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

halt

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **halt** コマンドを発行する前に、CDA が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作の実行中ではないことを確認します。CDA がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

halt コマンドを使用したとき、または表示された警告メッセージに対して **Yes** と入力したときにプロセスが実行されていない場合には、CDA から次のオプションに対する応答を要求されます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の CDA コンフィギュレーションを保存します。CDA に次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
/admin# halt
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
reload	システムをリブートします。

help

CDA サーバの対話型のヘルプ システムについての説明を表示するには、EXEC モードで **help** コマンドを使用します。

help

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

すべてのコンフィギュレーション モード。

使用上のガイドライン

help コマンドを実行すると、状況依存ヘルプ システムの簡単な説明が表示されます。

- 特定のコマンドモードで使用可能なすべてのコマンドを一覧表示するには、システム プロンプトで疑問符(?)を入力します。
- 特定の文字列で始まるコマンドリストを取得するには、省略形のコマンド エントリの直後に、疑問符(?)を入力します。このヘルプの形式は、入力された省略形で始まるキーワードまたは引数だけ一覧表示するので、ワード ヘルプと呼ばれます。
- コマンドに関連付けられているキーワードおよび引数を一覧表示するには、コマンドラインで、キーワードまたは引数の代わりに疑問符(?)を入力します。このヘルプの形式は、すでに入力したコマンドやキーワード、および引数に基づいて適用されるキーワードまたは引数を一覧表示するので、コマンド構文ヘルプと呼ばれます。

例

```
/admin# help
Help may be requested at any point in a command by entering
a question mark '?'. If nothing matches, the help list will
be empty and you must backup until entering a '?' shows the
available options.
Two styles of help are provided:
1. Full help is available when you are ready to enter a
   command argument (e.g. 'show?') and describes each possible
   argument.
2. Partial help is provided when an abbreviated argument is entered
   and you want to know what arguments match the input
   (e.g. 'show pr?'.)

/admin#
```

mkdir

CDA サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

mkdir *directory-name* [*disk:/path*]

構文の説明

mkdir	ディレクトリを作成するコマンド。
<i>directory-name</i>	作成するディレクトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。
<i>disk:/path</i>	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

ディレクトリ名には *disk:/path* の形式を使用します。そうでなければ、*disk:/path* の指定が必要であることを示すエラーが表示されます。

```

例 /admin# mkdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
 16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53 target/
   4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>dir</code>	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
	<code>rmdir</code>	既存のディレクトリを削除します。

nslookup

CDA サーバにあるリモートシステムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

```
nslookup word
```

構文の説明	nslookup	リモートシステムの IP アドレスまたはホスト名を検索するコマンド。
	<i>word</i>	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
/admin# nslookup 1.2.3.4
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "4.3.2.1.in-addr.arpa"
Host 4.3.2.1.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms

/admin#
```

例 2

```
/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "225.200.165.209.in-addr.arpa"
;; ->HEADER<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 65283
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 0

;; QUESTION SECTION:
;225.200.165.209.in-addr.arpa. IN PTR

;; ANSWER SECTION:
225.200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN PTR 209-165-200-225.got.net.

;; AUTHORITY SECTION:
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns1.got.net.
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns2.got.net.

Received 119 bytes from 171.70.168.183#53 in 28 ms

/admin#
```

patch install

patch install コマンドは、CLI から **patch install** コマンドを実行する特定のノード上でのみアプリケーションのパッチバンドルをインストールします。

アプリケーションのパッチバンドルをインストールするには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch install patch-bundle repository

構文の説明

patch	このコマンドは、システムパッチまたはアプリケーションパッチをインストールします。
install	アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールするコマンド。
patch-bundle	パッチバンドルファイル名。255文字までの英数字で指定します。
repository	リポジトリ名。255文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールします。

既存のパッチより古いバージョンのパッチをインストールしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```



(注)

このパッチインストールコマンドを使用してパッチをインストールする前に、そのパッチに付随するリリースノートでパッチのインストール手順を参照する必要があります。リリースノートには、そのパッチをインストールするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例 1

```
/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.011-2.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the ADE-OS running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
```

```
Patch successfully installed
/admin#
```

例 2

```
/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.011-2.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? no
Initiating Application Patch installation...
```

```
Patch successfully installed
/admin#
```

例 3

```
/admin# patch install cda-patchbundle-1.0.0.011-2.i386.tar.gz disk
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
patch remove	アプリケーションの特定のパッチバンドルバージョンを削除するコマンド。
show version	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

patch remove

アプリケーションの特定のパッチ バンドル ジョンを削除するには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

patch remove word word

構文の説明

patch	このコマンドは、システム パッチまたはアプリケーション パッチをインストールします。
remove	アプリケーションの特定のパッチ バンドル バージョンを削除するコマンド。
word	パッチを削除するアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。
word	削除するパッチのバージョン番号。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチ バンドルを削除します。

インストールされていないパッチを削除しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
% Patch is not installed
```



(注)

このパッチ削除コマンドを使用してパッチをロールバックする前に、そのパッチに付随するリリース ノートでパッチのロールバック手順を参照する必要があります。リリース ノートには、以前インストールされたパッチをロールバックするために更新された重要な手順が含まれており、それに従う必要があります。

例

例 1

```
/admin# patch remove cda 2
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
Application patch successfully uninstalled
/admin#
```

例 2

```
/admin# patch remove cda 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y
% Patch is not installed
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>patch install</code>	アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールするコマンド。
	<code>show version</code>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

ping

リモートシステムとの基本的な IPv4 ネットワークの接続性を診断するには、EXEC モードで `ping` コマンドを使用します。

```
ping {ip-address | hostname} [df df] [packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

構文の説明	説明
<code>ping</code>	リモート IP アドレスを ping するコマンド。
<code>ip-address</code>	ping を実行するシステムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<code>hostname</code>	PING を実行するシステムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
<code>df</code>	パケットフラグメンテーションに関する指定。
<code>df</code>	パケットフラグメンテーションを禁止する場合は、値を 1 に設定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は 2 、DF を設定しない場合は 3 に設定します。
<code>packetsize</code>	PING パケットのサイズ。
<code>packetsize</code>	PING パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲で指定します。
<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数。
<code>pingcount</code>	PING エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン `ping` コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。PING 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

```
例
/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms
```

```

--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ping6	リモート IPv6 アドレスを ping します。

ping6

IPv4 の **ping** と同様に、EXEC モードで IPv6 の **ping6** コマンドを使用します。

```

ping6 {ip-address | hostname} [GigabitEthernet 0-3][packetsize packetsize] [pingcount
pingcount]

```

構文の説明

ping	リモート IPv6 アドレスを ping するコマンド。
<i>ip-address</i>	ping を実行するシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	PING を実行するシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
GigabitEthernet	イーサネット インターフェイス。
<i>0-3</i>	イーサネット インターフェイスを選択します。
packetsize	PING パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	PING パケットのサイズを 0 ～ 65507 の範囲で指定します。
pingcount	PING エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	PING エコー要求の数を 1 ～ 10 の範囲で指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

IPv6 の **ping6** コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。**PING** 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

IPv6 の **ping6** コマンドは、既存の IPv4 の **ping** コマンドに類似しています。**ping6** コマンドは、IPv4 **ping** のフラグメンテーション (IPv4 の **df**) オプションをサポートしませんが、オプションでインターフェイスを指定できます。インターフェイス オプションは、主にインターフェイスに固有のリンク ローカルアドレスで **ping** する場合に有効です。**packetsize** オプションと **pingcount** オプションは、IPv4 コマンドの場合と同様に機能します。

例

例 1

```

/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2

/admin#

```

例 2

```

/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetsize 10 pingcount 2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ping	リモート IP アドレスを ping します。

reload

CDA オペレーティング システムをリロードするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

reload コマンドはシステムをリブートします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力し、CLI で実行コンフィギュレーションを永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに保存し、Web 管理ユーザ インターフェイス セッションのすべての設定を保存した後、**reload** コマンドを使用します。

reload コマンドを発行する前に、CDA が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作の実行中ではないことを確認します。CDA がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、システムを強制終了するには **Yes** と入力し、強制終了をキャンセルするには **No** と入力します。

reload コマンドを使用したとき、または表示された警告メッセージに対して **Yes** と入力したときにプロセスが実行されていない場合には、CDA から次のオプションに対する応答を要求されます。

```
Do you want to save the current configuration?
```

Yes と入力して、既存の CDA コンフィギュレーションを保存します。CDA に次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

例

```
/admin# reload
Do you want to save the current configuration? (yes/no) [yes]? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y

Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):

The system is going down for reboot NOW!

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
halt	システムをディセーブルにします。

restore

前回のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作では、CDA だけでなく、Cisco ADE OS 関連のデータも復元されます。CDA のみのアプリケーションデータの以前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **application** コマンドを **restore** コマンドに追加します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

次のコマンドを使用して、CDA アプリケーションおよび Cisco ADE OS に関連するデータを復元します。

```
restore filename repository repository-name
```

CDA アプリケーションだけにに関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name application application-name
```

構文の説明	
<code>restore</code>	システムを復元するコマンド。
<code>filename</code>	リポジトリに存在するバックアップファイルのファイル名。120 文字までの英数字で指定します。 (注) ファイル名の後に、 <code>tar.gpg</code> という拡張子を付ける必要があります(<code>myfile.tar.gpg</code> など)。
<code>repository</code>	<code>repository</code> コマンド。
<code>repository-name</code>	バックアップから復元するリポジトリの名前。
<code>application</code>	<code>application</code> コマンド。
<code>application name</code>	復元するアプリケーションデータの名称。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン CDA で復元コマンドを使用すると、CDA サーバが自動的に再起動します。データの復元時には、暗号キーはオプションです。暗号キーを提供していない以前のバックアップをサポートする場合、暗号キーなしで **restore** コマンドを使用できます。

```

/admin# restore mybackup-100818-1502.tar.gpg repository myrepository application cda
Restore may require a restart of application services. Continue? (yes/no) [yes] ? yes
Initiating restore. Please wait...
CDA application restore is in progress.
This process could take several minutes. Please wait...
Stopping CDA Watchdog...
Stopping CDA Application Server...
Stopping AD Context Manager...
Stopping AD Context Observer...
Stopping CDA Logger...
Starting CDA Watchdog...
Starting CDA Application Server...
Starting AD Context Manager...
Starting AD Context Observer...
Starting CDA Logger...
Note: CDA Processes are initializing. Use 'show application status cda'
      CLI to verify all processes are in running state.
/admin#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	(CDA および Cisco ADE OS)バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	backup-logs	システム ログをバックアップします。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。

コマンド	説明
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。

rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

rmdir *word*

構文の説明		
	<code>rmdir</code>	既存のディレクトリを削除するコマンド。
	<i>word</i>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# mkdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53 target/
   4096 May 07 2010 12:26:04 test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

/admin#

/admin# rmdir disk:/test
/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53 target/
```

```
Usage for disk: filesystem
      181063680 bytes total used
      19084525568 bytes free
      20314165248 bytes available

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
dir	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。

show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。**show** コマンドは CDA 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。

表 4-3 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

すべての CDA **show** コマンドの詳細については、[show コマンド\(4-52 ページ\)](#) を参照してください。

show keyword

構文の説明

表 4-3 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 4-3 *show* コマンドの要約

コマンド ¹	説明
application (キーワードが必要) ²	インストールされているアプリケーションに関する情報(ステータス情報やバージョン情報など)を表示します。
backup (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
cdp (キーワードが必要)	有効な Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示します。
clock	システム クロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
cpu	CPU 情報を表示します。
disks	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
interface	Cisco ADE OS に設定されているすべてのインターフェイスについての統計情報を表示します。
logging (キーワードが必要)	システムのロギング情報を表示します。

表 4-3 show コマンドの要約(続き)

コマンド ¹	説明
logins (キーワードが必要)	システムのログイン履歴を表示します。
memory	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
ntp	ネットワーク タイム プロトコル(NTP)のステータスを表示します。
ports	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
process	CDA サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
repository (キーワードが必要)	特定リポジトリのファイルの内容を表示します。
restore (キーワードが必要)	CDA サーバの復元履歴を表示します。
running-config	CDA サーバの現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
startup-config	CDA サーバの現在のスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
tech-support	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
terminal	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
timezone	CDA サーバの時間帯を表示します。
timezones	CDA サーバで使用可能なすべての時間帯を表示します。
udi	CDA の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
uptime	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
users	現在ログインしているユーザの情報を表示します。
version	インストールされているアプリケーションのバージョンに関する情報を表示します。

1. この表にあるコマンドを使用する場合は、たとえば **show application** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。
2. 一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。この **show** コマンドは、システムにインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します ([show application \(4-52 ページ\)](#) を参照)。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン すべての **show** コマンドは、機能するために少なくとも1つのキーワードが必要です。

例

```
/admin# show application
<name>          <Description>
CDA             Cisco Context Directory Agent
/admin#
```

ssh

リモートシステムと暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。

ssh [*ip-address* | *hostname*] *username* **port** [*number*] **version** [1 | 2] **delete hostkey** *word*

構文の説明

ssh	リモートシステムとの暗号化されたセッションを開始するコマンド。
<i>ip-address</i>	リモートシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
port [<i>number</i>]	(任意) リモートホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。デフォルトは 22 です。
version [1 2]	(任意) バージョン番号を示します。デフォルトは 2 です。
delete hostkey	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<i>word</i>	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

EXEC (Admin または Operator)

使用上のガイドライン

ssh コマンドは、システムから別のリモートシステムまたはサーバに、安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

例

例 1

```
/admin# ssh cda1 admin
admin@cda1's password:
Last login: Wed Jul 11 05:53:20 2008 from cda.cisco.com

cda1/admin#
```

例 2

```
/admin# ssh delete host cda
/admin#
```

tech

選択したネットワーク インターフェイス上のトラフィックをダンプするには、EXEC モードで **tech** コマンドを使用します。

```
tech dumptcp <0-3> count <package count>
```

構文の説明

tech	TAC コマンド。
dumptcp	TCP パッケージをコンソールにダンプするコマンド。
0-3	ギガビット イーサネット インターフェイスの番号(0 から 3)。
count	最大パッケージカウントを指定します。デフォルトは連続(無制限)です。
package count	1 ~ 10000 をサポートします。

デフォルト

ディセーブル

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

tech dumptcp 出力に不良 UDP チェックサム警告が表示されても問題ない場合があります。**tech dumptcp** コマンドは、イーサネット マイクロプロセッサを通して終了する前に、発信パケットを検査します。現在の大部分のイーサネット チップは、発信パケットのチェックサムを計算しません。したがって、オペレーティング システム ソフトウェア スタックは計算を行いません。そのため、発信パケットに不良 UDP チェックサムが宣言されるのは一般的によく見られることです。

例

```
cd-pos-dev17/admin# tech dumptcp 0 count 30
Invoking tcpdump. Press Control-C to interrupt.
tcpdump: listening on eth0, link-type EN10MB (Ethernet), capture size 96 bytes
10:27:32.923319 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1377, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 92) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 165
9025089:1659025141(52) ack 793752673 win 12144
10:27:32.923613 IP (tos 0x10, ttl 64, id 1378, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 156) 10.77.122.201.22 > 10.77.204.132.3142: P 52
:168(116) ack 1 win 12144
10:27:32.940203 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12075, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43876:
 13150 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[domain]
10:27:32.952693 IP (tos 0x0, ttl 119, id 52324, offset 0, flags [DF], proto: TCP (6),
length: 40) 10.77.204.132.3142 > 10.77.122.201.22: ., ck
sum 0x4ed3 (correct), 1:1(0) ack 168 win 64192
10:27:33.201646 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39209, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.50340 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum b8a2!] 49140+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.226571 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26568, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.50340:
 49140 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[domain]
```

```

10:27:33.415173 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39423, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.56578 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 8854!] 62918+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.453429 IP (tos 0x0, ttl 55, id 12076, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.56578:
 62918 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:33.579551 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:33.741303 IP (tos 0x0, ttl 128, id 21433, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 306) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/DHC
P, Request from e4:1f:13:77:13:34, length: 278, xid:0x1377f72b, flags: [Broadcast]
(0x8000)
  Client Ethernet Address: e4:1f:13:77:13:34 [|bootp]
10:27:33.788119 IP (tos 0x0, ttl 64, id 39796, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.43779 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2ffc!] 32798+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:33.812961 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26569, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.43779:
 32798 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:34.003769 IP (tos 0x0, ttl 64, id 40011, offset 0, flags [DF], proto: UDP (17),
length: 63) 10.77.122.201.23267 > 72.163.128.140.53: [b
ad udp cksum 2e85!] 18240+ AAAA? cda-201.cisco.com. (35)
10:27:34.038636 IP (tos 0x0, ttl 55, id 26570, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 123) 72.163.128.140.53 > 10.77.122.201.23267:
 18240 NXDomain* q: AAAA? cda-201.cisco.com. 0/1/0 ns: cisco.com. SOA[|domain]
10:27:34.579054 arp who-has 10.77.122.120 tell 10.77.122.250
10:27:34.927369 arp who-has 10.77.122.42 tell 10.77.122.40
10:27:35.727151 IP (tos 0x0, ttl 255, id 64860, offset 0, flags [none], proto: UDP (17),
length: 317) 0.0.0.0.68 > 255.255.255.255.67: BOOTP/D
HCP, Request from 3c:df:1e:58:0f:c0, length: 289, xid:0x161504, flags: [Broadcast]
(0x8000)
  Client Ethernet Address: 3c:df:1e:58:0f:c0 [|bootp]
10:27:36.190658 CDPv2, ttl: 180s, checksum: 692 (unverified), length 384
  Device-ID (0x01), length: 12 bytes: 'hyd04-lab-SW' [|cdp]
30 packets captured
30 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
cda-201/admin#

```

telnet

Telnet をサポートしているホストにログインするには、Operator(ユーザ)または EXEC モードで **telnet** コマンドを使用します。

telnet [*ip-address* | *hostname*] **port number**

構文の説明

Telnet	Telnet をサポートするホストにログインするコマンド。
<i>ip-address</i>	リモートシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<i>port number</i>	(任意) リモートホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

EXEC コマンド

コマンドモード 演算子
EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
cda.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul 2 08:45:24 on ttyS0
/admin#
```

terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

terminal length *integer*

構文の説明	terminal	端末行パラメータを設定するコマンド。
	length	現在のセッションに対する現在の端末画面上の行数を設定するコマンド。
	integer	画面の行数。0 ~ 511 行の範囲で指定します。0 を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。

デフォルト 24 行

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン システムは **length** の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

例

```
/admin# terminal length 0
/admin#
```

terminal session-timeout

すべてのセッションに対する無活動タイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

terminal session-timeout *minutes*

構文の説明	terminal	端末行パラメータを設定するコマンド。
	session-timeout	すべてのセッションの無活動タイムアウトを設定するコマンド。
	minutes	無活動タイムアウトの分数を設定します。有効な範囲は、0 ~ 525,600 です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。

デフォルト 30 分

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **terminal session-timeout** コマンドをゼロに設定すると、タイムアウトが設定されません。

例

```
/admin# terminal session-timeout 40
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	terminal session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定します。

terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

terminal session-welcome *string*

構文の説明	terminal	端末行パラメータを設定するコマンド。
	session-welcome	システムにログインするすべてのユーザに表示される初期メッセージをシステムに設定するコマンド。
	string	初期メッセージ。2,048 までの英数字で指定します。

EXEC コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン 2,048 文字までのメッセージを指定します。

例

```
/admin# terminal session-welcome Welcome
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
		<code>terminal session-timeout</code>

terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

terminal terminal-type type

構文の説明	terminal	端末行パラメータを設定するコマンド。
	terminal-type	接続される端末のタイプを指定するコマンド。デフォルトの端末タイプは VT100 です。
	type	端末の名前とタイプを定義し、そのサービスのタイプを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト VT100

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン デフォルトの VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。

例

```
/admin# terminal terminal-type vt220
/admin#
```

traceroute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **traceroute** コマンドを使用します。

traceroute [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明		
	traceroute	宛先アドレスへのパケットのルートを検出するコマンド。
	<i>ip-address</i>	リモートシステムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# traceroute 172.16.0.11
traceroute to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms

/admin#
```

undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

undebug {*all* | *application* | *backup-restore* | *cdp* | *config* | *copy* | *icmp* | *locks* | *logging* | *snmp* | *system* | *transfer* | *user* | *utils*}

構文の説明		
	undebug	CDA サーバのさまざまなエラーの識別をディセーブルにするコマンド。
	<i>all</i>	すべてのデバッグをディセーブルにします。

application	<p>アプリケーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>install</i>:アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>operation</i>:アプリケーション操作のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>uninstall</i>:アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。
backup-restore	<p>ファイルをバックアップおよび復元します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i>:バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup-logs</i>:バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>history</i>:バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>restore</i>:バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。
cdp	<p>Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーション デバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>config</i>:Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーション デバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i>:Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャ デバッグ出力をディセーブルにします。
config	<p>設定ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>:すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>backup</i>:バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>clock</i>:クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>infra</i>:コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>kron</i>:コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>network</i>:ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>repository</i>:リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>service</i>:サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

copy	コピー コマンド。
icmp	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。 <i>all</i> : ICMP エコー応答コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。
locks	リソース ロッキング。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>: すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>file</i>: ファイル ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。
logging	ロギング コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
snmp	SNMP コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。
system	システム ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>: すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>id</i>: システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>info</i>: システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>init</i>: システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。
transfer	ファイル転送。
user	ユーザ管理。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>all</i>: すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。 • <i>password-policy</i>: パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。
utils	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# undebug all
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>debug</code>	コマンド状況のエラーまたはイベントを表示します。

write

CDA サーバ コンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

write {erase | memory | terminal}

構文の説明

<code>write</code>	実行システムの情報を書き込むためのコマンド。
<code>erase</code>	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。このオプションは、CDA ではディセーブルです。
<code>memory</code>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<code>terminal</code>	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

`erase` オプションとこの `write` コマンドを共に使用することは、CDA でディセーブルになっています。

`erase` オプションで `write` コマンドを使用すると、CDA に次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Warning: 'write erase' functionality has been disabled by application: cda
```

例

例 1

```
/admin# write memory
Generating configuration...
/admin#
```

例 2

```
/admin# write terminal

Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 10.201.2.121 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
```

```
interface GigabitEthernet 1
  shutdown
!
interface GigabitEthernet 2
  shutdown
!
interface GigabitEthernet 3
  shutdown
!
ip name-server 171.68.226.120
!
ip default-gateway 10.201.2.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server clock.cisco.com
!
username admin password hash $1$6yQQaFXM$UBgbp7ggD1bG3kpExywwZ0 role admin
!
service sshd
!
repository myrepository
  url disk:
    user admin password hash 2b50ca94445f240f491e077b5f49fa0375942f38
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

/admin#
```

show コマンド

この項では、各 **show** コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

表 4-4 に、この項で説明する EXEC モードの **show** コマンドの一覧を示します。

表 4-4 EXEC **show** コマンドの一覧

• show application	• show logins	• show tech-support
• show backup history	• show memory	• show terminal
• show cdp	• show ntp	• show timezone
• show clock	• show ports	• show timezones
• show cpu	• show process	• show udi
• show disks	• show repository	• show uptime
• show icmp-status	• show restore	• show users
• show interface	• show running-config	• show version
• show inventory	• show startup-config	
• show logging		

show application

システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

show application [**status** | **version** [*app_name*]]

構文の説明

show application	CDA アプリケーション情報を表示するコマンド。
status	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
version	インストールされているアプリケーション (CDA) のアプリケーションバージョンが表示されます。
<i>app_name</i>	インストールされているアプリケーションの名前。

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数(表 4-5 を参照)。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数(表 4-5 を参照)。
--	---

表 4-5 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	---

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
/admin# show application
<name>          <Description>
cda             Cisco Context Directory Agent

/admin#
```

例 2

```
/admin# show application version cda

Cisco Context Directory Agent
-----
Version       : 1.0.0.11
Build Date    : Sun Apr  8 14:04:41 2012
Install Date  : Sun Apr  8 14:11:45 2012

/admin#
```

例 3

```
/admin# show application status cda

CDA application server is running PID:2840

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
application install	アプリケーションを設定します。
application install	アプリケーションバンドルをインストールします。
application reset-config	アプリケーションの設定を出荷時の初期状態にリセットします。
application reset-passwd	指定されたユーザのアプリケーションのパスワードをリセットします。
application remove	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
application start	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	アプリケーションバンドルをアップグレードします。

show backup history

システムのバックアップ履歴を表示するには、EXEC モードで **show backup history** コマンドを使用します。

show backup history

構文の説明

show backup	CDA のバックアップ情報を表示するコマンド。
history	システム上のすべてのバックアップに関する履歴情報を表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 例 1

```
/admin# show backup history
Wed Aug 18 12:55:21 UTC 2010: backup logs logs-0718.tar.gz to repository fileserver007:
success
Wed Aug 18 12:55:53 UTC 2010: backup full-0718.tar.gpg to repository fileserver007:
success
/admin#
```

例 2

```
/admin# show backup history
backup history is empty
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(CDA および Cisco ADE OS)バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
show repository	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

show cdp

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

```
show cdp {all | neighbors}
```

構文の説明

show cdp	Cisco Discovery Protocol の show コマンドを表示するためのコマンド。
all	有効なすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
neighbors	Cisco Discovery Protocol のネイバーを表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

show コマンド

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.

    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
/admin#
```

例 2

```
/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor : pmbu-ibf-sw-ins
    Local Interface      : GigabitEthernet0
    Device Type         : E-24TDWS-C3750
    Port                 : GigabitEthernet1/0/17
    Address              : 192.168.100.254

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cdp holdtime	受信デバイスがルータから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでに、それを保持する時間を指定します。
cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
cdp timer	CDA サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

show clock

システム ソフトウェアの時計の曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

show clock

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show clock
Tue May 8 08:33:50 IDT 2012
/admin#
```



(注) 上の例の **show clock** の出力には、協定世界時(UTC)またはグリニッジ標準時(GMT)、英国時間、ズールー時間が含まれています(サンプルの時間帯については、A-84 ページと A-85 ページにある4-13、4-14、4-15 の各表を参照)。

関連コマンド

コマンド	説明
clock	表示用のシステム クロックを設定します。

show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

show cpu [*statistics*] [!] [!]

構文の説明

show cpu	CPU 情報を表示するコマンド。
statistics	CPU 統計情報を表示します。
!	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 ! : 出力修飾子変数(表 4-6 を参照)。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 ! : 出力修飾子変数(表 4-6 を参照)。

表 4-6 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	---

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 例 1

```

/admin# show cpu

processor : 0
model    : Intel(R) Core(TM)2 CPU           6400 @ 2.13GHz
speed(MHz): 1596.000
cache size: 2048 KB

processor : 1
model    : Intel(R) Core(TM)2 CPU           6400 @ 2.13GHz
speed(MHz): 1596.000
cache size: 2048 KB

/admin#

```

例 2

```

/admin# show cpu statistics
user time:           265175
kernel time:        166835
idle time:          5356204
i/o wait time:      162676
irq time:           4055

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show disks	すべてのディスクのシステム情報を表示します。
show memory	使用されているシステムメモリの量をシステムプロセス別に表示します。

show disks

ディスク ファイル システム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

show disks [] []

構文の説明

show disks	ディスクとファイル システム情報を表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数(表 4-7 を参照)。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数(表 4-7 を参照)。

表 4-7 *Count* または *Last* の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

■ show コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン **show disks** コマンドは、ディスク ファイル システムを備えたプラットフォームでのみサポートされます。

例

```
/admin# show disks

temp. space 2% used (36460 of 1984044)
disk: 2% used (208816 of 14877060)

Internal filesystems:
  all internal filesystems have sufficient free space

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show cpu	CPU 情報を表示します。
show memory	使用されているシステム メモリの量をシステム プロセス別に表示します。

show icmp-status

インターネット制御メッセージプロトコルのエコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp_status** コマンドを使用します。

```
show icmp_status {> file |}
```

構文の説明

<code>show icmp_status</code>	インターネット制御メッセージプロトコルのエコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するコマンド。
<code>></code>	出力の方向。
<code><i>file</i></code>	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。

	<p>出力修飾子コマンド</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>:一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>:出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> – :出力修飾子コマンド(表 4-8 を参照)。 • <i>end</i>:一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>:一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>:一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>:出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> – :出力修飾子コマンド(表 4-8 を参照)。
--	---

表 4-8 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>:一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>:出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> :出力修飾子変数。 • <i>end</i>:一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>:一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>:一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>:出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> :出力修飾子変数。
--	---

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 1

```

/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
/admin#
    
```

例 2

```
/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
icmp echo	インターネット制御メッセージプロトコル(ICMP)のエコー要求を設定します。

show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

```
show interface [GigabitEthernet] |
```

構文の説明

show interface	インターフェイス情報を表示するコマンド。
<i>GigabitEthernet</i>	ギガビットイーサネット インターフェイスを表示します。<0-3> を入力します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

show interface GigabitEthernet 0 出力のインターフェイスには、3 つの IPv6 アドレスがあります。最初のインターネットアドレス (3ffe で始まるアドレス) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。そのためには、IPv6 ルート アドバタイズメントを、そのサブネットでイネーブルにする必要があります。次のアドレス (fe80 で始まるアドレス) は、外部ホストからのスコープを持たないリンク ローカル アドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なく、リンク ローカル アドレスは常に表示されます。最後のアドレス (2001 で始まるアドレス) は、IPv6 DHCP サーバから取得された結果です。

例

例 1

```

/admin# show interface
eth0    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
        inet addr:172.23.90.113  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
        RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:6507290 (6.2 MiB)  TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000

lo      Link encap:Local Loopback
        inet addr:127.0.0.1  Mask:255.0.0.0
        inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
        UP LOOPBACK RUNNING  MTU:16436  Metric:1
        RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:649425800 (619.3 MiB)  TX bytes:649425800 (619.3 MiB)

sit0    Link encap:IPv6-in-IPv4
        NOARP  MTU:1480  Metric:1
        RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:0
        RX bytes:0 (0.0 b)  TX bytes:0 (0.0 b)

/admin#

```

例 2

```

/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
        inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
        inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
        inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
        inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
        UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
        RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
        TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
        collisions:0 txqueuelen:1000
        RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
        Interrupt:59 Base address:0x2000

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードに入ります。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

show inventory

CDA アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

show inventory |

構文の説明

show inventory	ハードウェア インベントリ情報を表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>:一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>:出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i>:一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>:一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>:一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>:出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show inventory

NAME: "CSACS-1121-K9      chassis", DESCR: "CSACS-1121-K9      chassis"
PID: CSACS-1121-K9      , VID: V01 , SN: LAB11122278
Total RAM Memory: 4017680 kB
CPU Core Count: 2
CPU 0: Model Info: Intel(R) Core(TM)2 CPU          6400 @ 2.13GHz
CPU 1: Model Info: Intel(R) Core(TM)2 CPU          6400 @ 2.13GHz
Hard Disk Count(*): 2
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 250.00 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 30401 cylinders
Disk 1: Device Name: /dev/sdb
Disk 1: Capacity: 250.00 GB
Disk 1: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 30401 cylinders
NIC Count: 2
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:15:17:29:68:A2
NIC 0: Driver Descr: Intel(R) PRO/1000 Network Driver
```

```
NIC 1: Device Name: eth1
NIC 1: HW Address: 00:15:17:29:68:A3
NIC 1: Driver Descr: Intel(R) PRO/1000 Network Driver
```

(*) Hard Disk Count may be Logical.

```
/admin#
```

show logging

システム ロギング(syslog)の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

```
show logging { application [application-name] } { internal } { system } |
```

構文の説明

show logging	システム ロギング情報を表示するコマンド。
application	アプリケーション ログを表示します。 <i>application-name</i> :アプリケーション名。255 文字までの英数字で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - <i>tail</i>:Tail システムの syslog メッセージ。 - <i>count</i>:Tail の最終カウント メッセージ数。0 ~ 4,294,967,295 の範囲で指定します。 <i>l</i> :出力修飾子変数(下記を参照)。
internal	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
system	システムの syslog を表示します。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>:一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>:出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i>:一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>:一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>:一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>:出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

このコマンドは、syslog エラーおよびイベント ロギングの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ロギングがイネーブルになっているロギングの宛先(コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト)が含まれます。

例

例 1

```
/admin# show logging system
ADEOS Platform log:
```

```
-----
```

```
Apr 18 11:03:57 localhost debugd[1756]: [2170]: config:network: main.c[252] [setup]: Setup
is complete
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[245]
[setup]: Install initiated with bundle - cda.tar.gz, r
epo - SystemDefaultPkgRepos
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[259]
[setup]: Stage area - /storeddata/Installing/.13347470
53
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[263]
[setup]: Getting bundle to local machine
Apr 18 14:04:13 localhost debugd[1756]: [3005]: transfer: cars_xfer.c[58] [setup]: local
copy in of cda.tar.gz requested
Apr 18 14:04:15 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[272]
[setup]: Got bundle at - /storeddata/Installing/.13347
47053/cda.tar.gz
Apr 18 14:04:15 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[282]
[setup]: Unbundling package cda.tar.gz
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[294]
[setup]: Unbundling done. Verifying input parameters..
.
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[316]
[setup]: Manifest file is at - /storeddata/Installing/
.1334747053/manifest.xml
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[326]
[setup]: Manifest file appname - cda
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[389]
[setup]: Manifest file pkgtype - CARS
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[401]
[setup]: Verify dependency list -
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[413]
[setup]: Verify app license -
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[423]
[setup]: Verify app RPM's
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[431]
[setup]: No of RPM's - 1
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[442]
[setup]: Disk - 50
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[325]
[setup]: Disk requested = 51200 KB
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[345]
[setup]: More disk found Free = 211595264, req_disk = 51200
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[453]
[setup]: Mem requested by app - 100
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[369]
[setup]: Mem requested = 102400
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[384]
[setup]: Found MemFree = MemFree:      1284664 kB
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[390]
[setup]: Found MemFree value = 1284664
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[393]
[setup]: Found Inactive = Inactive:    1361456 kB
```

```

Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[399]
[setup]: Found Inactive MemFree value = 1361456
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[409]
[setup]: Sufficient mem found
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install ci_util.c[415]
[setup]: Done checking memory...
Apr 18 14:04:22 localhost debugd[1756]: [3005]: application:install cars_install.c[475]
[setup]: Verifying RPM's...
--More--
(press Spacebar to continue)

/admin#

```

例 2

```

/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Enabled
/admin#

```

例 3

```

/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Disabled
/admin#

```

show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで **show logins** コマンドを使用します。

show logins cli**構文の説明**

show logins	システム ロギング履歴を表示するコマンド。
cli	cli ログイン履歴を一覧表示します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

```

例 /admin# show logins cli
admin pts/1 10.77.203.182 Tue May 8 08:32 still logged in
admin pts/1 10.77.203.182 Mon May 7 14:05 - 14:58 (00:53)
admin pts/1 10.77.203.182 Mon May 7 12:23 - 13:29 (01:06)
root pts/0 64.103.124.254 Mon Apr 23 11:54 still logged in
root ttyS0 Thu Apr 19 17:57 still logged in
admin ttyS0 Thu Apr 19 17:57 - 17:57 (00:00)
admin ttyS0 Thu Apr 19 17:23 - 17:56 (00:32)
admin ttyS0 Thu Apr 19 18:28 - 15:59 (-2:-29)
admin ttyS0 Wed Apr 18 20:43 - 21:16 (00:32)
admin ttyS0 Wed Apr 18 14:58 - 15:28 (00:30)

wtmp begins Wed Apr 18 13:59:32 2012

/admin#

```

show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

show memory

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

```

例 /admin# show memory
total memory: 1035164 kB
free memory: 27128 kB
cached: 358888 kB
swap-cached: 142164 kB

/admin#

```

show ntp

NTP 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

show ntp

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例:1

```
/admin# show ntp
Primary NTP      : cd-acis-ntp.cisco.com

synchronised to NTP server (10.56.60.29) at stratum 3
  time correct to within 64 ms
  polling server every 1024 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
  127.127.1.0        .LOCL.           10 l   5   64  377   0.000   0.000   0.001
 *10.56.60.29       64.103.34.15    2 u  98 1024 377   0.001   0.205   0.054

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
/admin#
```

例:2

```
/admin# show ntp
% no NTP servers configured
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	最大3つのNTPサーバのNTPコンフィギュレーションを設定します。
ntp server	システムのNTPサーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。

show ports

アクティブなポートで受信するすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXECモードで **show ports** コマンドを使用します。

show ports [] []

構文の説明

show ports	CDA のオープンポートで受信するすべてのプロセスを表示するコマンド。
	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数(表 4-9 を参照)。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数(表 4-9 を参照)。

表 4-9 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 : 出力修飾子変数。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。 : 出力修飾子変数。
--	--

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

show ports コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

例

```

/admin# show ports
Process : portmap (2560)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : sshd (3312)
      tcp: 0.0.0.0:22, :::22
Process : rpc.statd (2600)
      tcp: 0.0.0.0:662
      udp: 0.0.0.0:656, 0.0.0.0:659
Process : java (18838)
      tcp: ::ffff:127.0.0.1:8005, :::8009, :::80, :::443, :::8092
Process : java (18811)
      tcp: :::54826, :::8091
Process : java (18849)
      tcp: :::8020, :::8090
      udp: :::1812, :::1813, :::1645, :::1646, :::50672
Process : java (18787)
      tcp: :::8093
Process : ntpd (4213)
      udp: 192.168.100.156:123, 10.56.14.156:123, 127.0.0.1:123, 0.0.0.0:123,
fe80::215:17ff:fe29:123, fd00:1234:5678:abcd:123, 2001:420:44ff:1
4:21:123, fe80::215:17ff:fe29:123, ::1:123, :::123
/admin#

```

show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

show process |

構文の説明

show process	システム プロセスを表示するコマンド。
	<p>(任意)出力修飾子変数:</p> <ul style="list-style-type: none"> <i>begin</i>:一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 <i>count</i>:出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <i>end</i>:一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 <i>exclude</i>:一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 <i>include</i>:一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 <i>last</i>:出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン なし。

例 プロセスのフィールドの説明は、表 4-10 を参照してください。

```

/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:00 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      migration/1
root      6 00:00:01 ?      ksoftirqd/1
root      7 00:00:00 ?      watchdog/1
root      8 00:00:00 ?      events/0
root      9 00:00:00 ?      events/1
root     10 00:00:00 ?      khelper
root     11 00:00:00 ?      kthread
root     15 00:00:00 ?      kblockd/0
root     16 00:00:01 ?      kblockd/1
root     17 00:00:00 ?      kacpid
root    113 00:00:00 ?      cqueue/0
root    114 00:00:00 ?      cqueue/1
root    117 00:00:00 ?      khubd
root    119 00:00:00 ?      kseriod
root    186 00:00:00 ?      pdflush
root    187 00:00:02 ?      pdflush
root    188 00:00:02 ?      kswapd0
root    189 00:00:00 ?      aio/0
root    190 00:00:00 ?      aio/1
root    351 00:00:00 ?      kpsmoused
root    382 00:00:00 ?      ata/0
root    383 00:00:00 ?      ata/1
root    384 00:00:00 ?      ata_aux
root    388 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root    389 00:00:00 ?      scsi_eh_1
root    396 00:00:00 ?      kstriped
root    409 00:00:36 ?      kjournald
root    436 00:00:00 ?      kauditd
root    469 00:00:00 ?      udevd
root   1011 00:00:00 ?      kedac

--More--
/admin#

```

表 4-10 *show process* のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ
PID	プロセス ID
TIME	コマンドが最後に使用された時刻
TT	プロセスを制御している端末
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ

show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

show repository repository-name

構文の説明	
show repository	リポジトリの内容を表示するコマンド。
<i>repository-name</i>	内容を表示するリポジトリの名前。30 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	(CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show restore

復元履歴を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

show restore {history}

構文の説明	show restore	復元情報を表示するコマンド。
	history	復元履歴を表示します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

例 1

```
/admin# show restore history

/admin#
```

例 2

```
/admin# show restore history
restore history is empty
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	backup	(CDA および Cisco ADE OS)バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
	restore	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
	repository	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
	show backup history	システムのバックアップ履歴を表示します。

show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

show running-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

show running-config コマンドは、すべてのコンフィギュレーション情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname pmbu-ibf-pip06
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 192.168.100.156 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
  ip address 10.56.14.156 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 192.168.100.100 10.56.60.150
!
ip default-gateway 10.56.14.1
!
ip route 192.168.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.180.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.218.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.204.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
!
clock timezone Asia/Jerusalem
!
ntp server cd-acs-ntp.cisco.com
!
username admin password hash $1$00jG7EQh$gDjDJK1SZWx5ImaUEqZA01 role admin
!
service sshd
!
repository rp
  url ftp://10.56.61.75/ACS_AUTO_VMS/OLD-ACS.5.0.FCS/
  user anonymous password hash 37f90f7eb86fb8e00895b133c6de3278ff545c54
```

show コマンド

```

repository tftp
url tftp://192.168.100.153
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
show startup-config	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

show startup-config

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

show startup-config コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show startup-config
!
hostname pmbu-ibf-pip06
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 192.168.100.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 ip address 10.56.14.156 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 192.168.100.100 10.56.60.150
!
ip default-gateway 10.56.14.1
!
ip route 192.168.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.180.209.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.218.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
ip route 192.168.204.0 255.255.255.0 gateway 192.168.100.1
!
clock timezone Asia/Jerusalem
!
ntp server cd-acis-ntp.cisco.com
!
username admin password hash $1$00jG7EQh$gDjDJK1SZWx5ImaUEqZAO1 role admin
!
service sshd
!
repository rp
 url ftp://10.56.61.75/ACS_AUTO_VMS/OLD-ACS.5.0.FCS/
 user anonymous password hash 37f90f7eb86fb8e00895b133c6de3278ff545c54
repository tftp
 url tftp://192.168.100.153
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>configure</code>	コンフィギュレーションモードに入ります。
	<code>show running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

show tech-support

電子メールなどのテクニカルサポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

show tech-support file [*word*]

構文の説明	コマンド	説明
	<code>show tech-support</code>	テクニカルサポート情報を表示するコマンド。
	<code>file</code>	テクニカルサポートデータをファイルとしてローカルディスクに保存します。
	<code>word</code>	保存するファイル名。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

show tech-support コマンドは、トラブルシューティングの目的で、CDA サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカルサポートの担当者へ出力を提供します。

例

```
/admin# show tech-support

#####
Application Deployment Engine(ADE) - 2.0.2.057
Technical Support Debug Info follows...
#####

*****
Checking dmidecode Serial Number(s)
*****
None
VMware-56 4d 14 cb 54 3d 44 5d-49 ee c4 ad a5 6a 88 c4

*****
Displaying System Uptime...
*****
12:54:34 up 18:37, 1 user, load average: 0.14, 0.13, 0.12
```

```

*****
Display Memory Usage(KB)
*****
                total        used        free        shared        buffers        cached
Mem:            1035164      1006180      28984          0          10784       345464
-/+ buffers/cache:      649932      385232
Swap:           2040244       572700      1467544

*****
Displaying Processes(ax --forest)...
*****
  PID  TTY      STAT   TIME COMMAND
    1  ?        Ss      0:02  init [3]
    2  ?        S<      0:00  [migration/0]
    3  ?        SN      0:00  [ksoftirqd/0]
    4  ?        S<      0:00  [watchdog/0]
    5  ?        S<      0:00  [events/0]
--More--
(prompt Spacebar to continue)

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	インターフェイスのユーザビリティステータスを表示します。
show process	アクティブなプロセスに関する情報を表示します。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーションの内容を表示します。

show terminal

端末設定パラメータの設定に関する情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
/admin#
```

表 4-11 では、**show terminal** の出力のフィールドについて説明します。

表 4-11 *show terminal* のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 24 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間(単位:分)。

show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

show timezone

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin# show timezone
UTC
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clock timezone	システムの時間帯を設定します。
show timezones	システムで使用可能な時間帯を表示します。

show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

show timezones

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

CDA サーバで使用可能な時間帯の例については、「[clock timezone](#)」セクション(4-89 ページ)を参照してください。

例

```
/admin# show timezones
Africa/Blantyre
Africa/Dar_es_Salaam
Africa/Dakar
Africa/Asmara
Africa/Timbuktu
Africa/Maputo
Africa/Accra
Africa/Kigali
Africa/Tunis
Africa/Nouakchott
Africa/Ouagadougou
Africa/Windhoek
Africa/Douala
Africa/Johannesburg
Africa/Luanda
Africa/Lagos
Africa/Djibouti
Africa/Khartoum
Africa/Monrovia
Africa/Bujumbura
Africa/Porto-Novo
Africa/Malabo
Africa/Ceuta
Africa/Banjul
Africa/Cairo
Africa/Mogadishu
Africa/Brazzaville
Africa/Kampala
Africa/Sao_Tome
Africa/Algiers
Africa/Addis_Ababa
Africa/Ndjamena
Africa/Gaborone
Africa/Bamako
```

■ show コマンド

```
Africa/Freetown
--More--
(press Spacebar to continue)

/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show timezone</code>	システムに設定されている時間帯を表示します。
<code>clock timezone</code>	システムの時間帯を設定します。

show udi

CDA アプライアンスの UDI に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

show udi

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

EXEC

使用上のガイドライン

なし。

例

例 1

```
/admin# show udi

SPID: CSACS-1121-K9
VPID: V01
Serial: LAB11122278

/admin#
```

VMware サーバで **show udi** コマンドを実行すると、次の出力が表示されます。

例 2

```
/admin# show udi

SPID: CDA-VM-K9
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H

/admin#
```

show uptime

CDA サーバにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

show uptime |

構文の説明	show uptime	CDA サーバにログインしていた期間を表示するコマンド。
		出力修飾子変数 <ul style="list-style-type: none"> • <i>begin</i>: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>count</i>: 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 • <i>end</i>: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>exclude</i>: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>include</i>: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。 • <i>last</i>: 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行までの表示をサポートします。デフォルトは 10 です。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
/admin#
```

show users

CDA サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users

構文の説明 引数やキーワードはありません。

show コマンド

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin# show users
USERNAME          ROLE   HOST          TTY          LOGIN DATETIME
-----
admin             Admin  10.77.137.60  pts/0        Fri Aug  6 09:45:47 2010

/admin#
```

show version

システムのソフトウェアバージョンに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version

構文の説明 引数やキーワードはありません。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

使用上のガイドライン このコマンドは、CDA サーバ上で実行する Cisco ADE-OS ソフトウェアのバージョン情報と、CDA のバージョンを表示します。

例

```
/admin# show version

Cisco Application Deployment Engine OS Release: 2.0
ADE-OS Build Version: 2.0.2.057
ADE-OS System Architecture: i386

Copyright (c) 2005-2011 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: pmbu-ibf-pip06

Version information of installed applications
-----
```

```

Cisco Context Directory Agent
-----
Version      : 3.0.0.11
Build Date   : Tue Apr 10 13:05:05 2012
Install Date : Mon May 7 12:06:23 2012

/admin#

```

コンフィギュレーション コマンド

この項では、各コンフィギュレーション コマンドを一覧表示し、使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および出力例を示します。

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。



(注)

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用する必要があります。

表 4-12 に、この項で説明するコンフィギュレーション コマンドの一覧を示します。

表 4-12 コンフィギュレーション コマンドの一覧

• backup-staging-url	• kron occurrence
• cdp holdtime	• kron policy-list
• cdp run	• logging
• cdp timer	• ntp
• clock timezone	• ntp authenticate
• do	• ntp authentication-key
• end	• ntp server
• exit	• ntp trusted-key
• hostname	• password-policy
• icmp echo	• repository
• interface	• service
• ipv6 address autoconfig	• shutdown
• ipv6 address dhcp	• snmp-server community
• ip address	• snmp-server contact
• ip default-gateway	• snmp-server host
• ip domain-name	• snmp-server location
• ip name-server	• username
• ip route	

backup-staging-url

バックアップ操作および復元操作が、バックアップ ファイルをパッケージ化およびアンパッケージ化するためのステージング領域として使用するネットワーク ファイル システム (NFS) の場所を設定できるようにするには、コンフィギュレーション モードで **backup-staging-url** コマンドを使用します。

backup-staging-url *word*

構文の説明

backup-staging-url	ネットワーク ファイル システム (NFS) の場所をバックアップ操作および復元操作が使用するステージング領域として設定するためのコマンド。
<i>word</i>	ステージング領域の NFS URL。2048 文字までの英数字で指定します。 nfs://server:path¹ という形式を使用します。

1. server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。server の後にコロン(:)が必要です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

URL は NFS のみです。コマンドの形式は、**backup-staging-url nfs://server:path** です。



警告

使用している NFS のセキュリティを設定して、CDA サーバの IP アドレスからのみディレクトリにアクセスできるようにしてください。

例

```
/admin(config)# backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
/admin(config)#
```

cdp holdtime

受信デバイスが CDA サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定するには、コンフィギュレーション モードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp holdtime *seconds*

構文の説明

cdp	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
holdtime	指定された Cisco Discovery Protocol の保持時間。
<i>seconds</i>	ホールド タイムを秒数で指定します。値は 10 ~ 255 秒です。

デフォルト 180 秒

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン Cisco Discovery Protocol パケットを、存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。保持時間を経過すると、受信デバイスは Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を破棄します。

cdp holdtime コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# cdp holdtime 60
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	cdp timer	CDA サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。
	cdp run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

cdp run

Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **cdp run** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp run [*GigabitEthernet*]

構文の説明	構文	説明
	cdp	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
	run	Cisco Discovery Protocol をイネーブルまたはディセーブルにするコマンド。
	GigabitEthernet	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

このコマンドでは、1つのオプションの引数(インターフェイス名)を指定します。オプションのインターフェイス名が指定されない場合、コマンドはすべてのインターフェイスで Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



(注) このコマンドのデフォルトでは、すでに実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスを起動する場合は、まず Cisco Discovery Protocol を停止してから、再度 Cisco Discovery Protocol を起動してください。

例

```
/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cdp holdtime	受信デバイスが CDA サーバから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
cdp timer	CDA サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

cdp timer

CDA サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp timer** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cdp timer seconds

構文の説明

<code>cdp</code>	Cisco Discovery Protocol のパラメータを設定するコマンド。
<code>timer</code>	Cisco Discovery Protocol の時間間隔を更新するコマンド。
<code>seconds</code>	CDA サーバが Cisco Discovery Protocol アップデートを送信する頻度を秒数で指定します。値は 5 ~ 254 秒です。

デフォルト

60 秒

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

Cisco Discovery Protocol パケットを、存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。保持時間を経過すると、受信デバイスは Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を破棄します。

cdp timer コマンドに指定できる引数は1つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# cdp timer 60
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>cdp holdtime</code>	受信デバイスが CDA サーバから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
	<code>cdp run</code>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーション モードで **clock timezone** コマンドを実行します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

clock timezone *timezone*

構文の説明	clock	時間帯を設定するコマンド。
	<code>timezone</code>	システムの時間帯を設定するコマンド。
	<code>timezone</code>	標準時に表示する時間帯の名前。64 文字までの英数字で指定します。

デフォルト UTC

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。具体的な時間帯がわからない場合、地域、国、および都市を入力できます(システムに入力するサンプルの時間帯については、[4-13](#)、[4-14](#)、[4-15](#) の各表を参照)。

表 4-13 共通の時間帯

略語または名前	時間帯名
欧州	
GMT、GMT0、 GMT-0、GMT+0、 UTC、Greenwich、 Universal、Zulu	グリニッジ標準時(UTC)
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間(UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時(UTC + 1 時間)

表 4-13 共通の時間帯(続き)

略語または名前	時間帯名
EET	東ヨーロッパ時間(UTC + 2 時間)
米国およびカナダ	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

表 4-14 オーストラリアの時間帯

オーストラリア ¹			
ACT ²	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	LHI ³	Melbourne
North	NSW ⁴	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

1. 国と都市をスラッシュ(/)で区切って入力します(例:Australia/Currie)
2. ACT = Australian Capital Territory(オーストラリア首都特別地域)
3. LHI = Lord Howe Island(ロード・ハウ諸島)
4. NSW = New South Wales(ニュー サウス ウェールズ)

表 4-15 アジアの時間帯

アジア ¹			
Aden ²	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Columbo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

1. アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。
2. 地域と都市または国をスラッシュ(/)で区切って入力します(例:Asia/Aden)。



(注)

これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。CDA サーバで、**show timezones** コマンドを入力すると、CDA サーバで使用可能なすべての時間帯が表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。



警告

インストール後に CDA アプライアンス上の時間帯を変更すると、そのノードの CDA アプリケーションが使用できなくなります。ただし、インストール中に初期セットアップ ウィザードによって時間帯を指定するよう要求された場合は、希望する時間帯(デフォルトの UTC)を設定できます。

例

```
/admin(config)# clock timezone EST
/admin(config)# exit
/admin# show timezone
EST
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show timezones	システムで使用可能な時間帯を一覧表示します。
show timezone	システムに現在設定されている時間帯を表示します。

do

コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、コンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

do arguments

構文の説明

do	コンフィギュレーション モードまたはいずれかのコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するための EXEC コマンド。
arguments	EXEC レベルのコマンドを実行する EXEC コマンド(表 4-16 を参照)。

表 4-16 Do コマンドのコマンド オプション

コマンド	説明
application configure	特定のアプリケーションを設定します。
application install	特定のアプリケーションをインストールします。
application remove	特定のアプリケーションを削除します。
application start	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
application stop	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
application upgrade	特定のアプリケーションをアップグレードします。

表 4-16 Do コマンドのコマンドオプション(続き)

コマンド	説明
backup	(CDA および Cisco ADE OS)バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
backup-logs	CDA サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
clock	CDA サーバのシステム時計を設定します。
configure	コンフィギュレーション モードに入ります。
copy	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
debug	さまざまなコマンド状況(たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など)で、エラーまたはイベントを表示します。
delete	CDA サーバ上のファイルを削除します。
dir	CDA サーバ上のファイルを一覧表示します。
forceout	特定の CDA ノード ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
halt	CDA サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
mkdir	新しいディレクトリを作成します。
nslookup	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
patch	システム パッチまたはアプリケーション パッチをインストールします。
pep	インライン ポスチャ ノードを設定します。
ping	リモート システムでの IPv4 ネットワーク アクティビティを判断します。
ping6	IPv6 リモート システムでの IPv6 ネットワーク アクティビティを判断します。
reload	CDA サーバをリブートします。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	CDA サーバについての情報を表示します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
Telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートをトレースします。

表 4-16 Do コマンドのコマンド オプション(続き)

コマンド	説明
undebug	さまざまなコマンド状況(たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など)で、 debug コマンドの出力(エラーまたはイベントの表示)をディセーブルにします。
write	セットアップユーティリティを強制的に実行してネットワーク コンフィギュレーションを要求するスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、スタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションをコピーし、コンソール上に実行コンフィギュレーションを表示します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモード

使用上のガイドライン

このコマンドは、サーバの設定中に、EXEC コマンド(**show**、**clear**、**debug** などの各コマンド)を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーション モードに戻ります。

例

```
/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
```

```

no-username
disable-cisco-passwords
min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--

/admin(config)#

```

end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **end** コマンドを使用します。

end

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のコンフィギュレーションモードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

例

```

/admin(config)# end
/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
exit	コンフィギュレーションモードを終了します。
exit (EXEC)	CDA サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

exit

コンフィギュレーション モードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

exit コマンドは、CDA サーバで、現在のコマンドモードを終了して、CLI モード階層で次に高いコマンドモードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーション サブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exit** コマンドを使用すると、EXEC モードを終了して、CDA サーバから接続解除されます (**exit (EXEC)** コマンドの説明については、[「exit」セクション \(4-25 ページ\)](#)を参照してください)。

例

```
/admin(config)# exit
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit (EXEC)	CDA サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーション モードで **hostname** コマンドを使用します。システムからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用してシステムをローカルホストにリセットします。

hostname word

構文の説明

hostname	ホスト名を設定するコマンド。
<i>word</i>	ホストの名前。2 ~ 64 文字の英数字と下線(_)で指定します。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン シングル インスタンス タイプのコマンドである **hostname** は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には1つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# hostname cda-1
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
Are you sure you want to proceed? [y/n] y
.
.
.
cda-1/admin#
```

icmp echo

インターネット制御メッセージプロトコル(ICMP)のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーションモードで **icmp echo** コマンドを使用します。

icmp echo {*off* | *on*}

構文の説明	
icmp	インターネット制御メッセージプロトコルのエコー要求を設定するためのコマンド。
echo	ICMP エコー応答を設定します。
<i>off</i>	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
<i>on</i>	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

デフォルト システムは ICMP エコー応答がオン(イネーブル)の場合と同様に動作します。

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin(config)# icmp echo off
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show icmp-status	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示します。

interface

インターフェイスのタイプを設定してインターフェイス コンフィギュレーション モードに入るには、コンフィギュレーション モードで **interface** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。



(注)

VMware 仮想マシンでは、仮想マシンに追加されたネットワーク インターフェイス (NIC) の数に応じて、多数のインターフェイスを使用できる場合があります。

```
interface GigabitEthernet [0 | 1 | 2 | 3]
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0 ~ 3	設定するギガビット イーサネット ポートの数。



(注)

interface コマンドでギガビット インターネット ポートを入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーション サブモードに入ります(この「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます(「 do 」セクション(4-91 ページ)を参照)。
end	config-GigabitEthernet サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	config-GigabitEthernet コンフィギュレーション サブモードを終了します。
ip	イーサネット インターフェイスに対して、IP アドレスとネットマスクを設定します(「 ip address 」セクション(4-102 ページ)を参照)。
ipv6	DHCPv6 サーバから IPv6 自動設定アドレスと IPv6 アドレスを設定します(「 ipv6 address autoconfig 」セクション(4-98 ページ)と「 ipv6 address dhcp 」セクション(4-100 ページ)を参照)。
no	このモードのコマンドを否定します。次の 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ip: インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 shutdown: インターフェイスをシャットダウンします。
shutdown	インターフェイスをシャットダウンします(「 shutdown 」セクション(4-120 ページ)を参照)。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン **interface** コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスの設定に使用します。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	インターフェイスをシャットダウンします(「shutdown」セクション(4-120 ページ) を参照)。

ipv6 address autoconfig

IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーションモードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

Linux では、IPv6 アドレス自動設定はデフォルトでイネーブルになります。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーション内の IPv6 アドレス自動設定を示します。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
<0 - 3>	設定するギガビット イーサネット ポートの数。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン

IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを取得するセキュリティ上の欠陥があります。この欠陥は、プライバシー拡張によって解決されます。**show** コマンドを使用すると、プライバシー拡張機能がイネーブルになっていることを確認できます。

例 1

```
/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line.  End with CNTL/Z.
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
/admin#
```

IPv6 自動設定をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
```

show interface GigabitEthernet 0 コマンドを使用すると、インターフェイス設定を表示できます。例 2 では、インターフェイスに 3 つの IPv6 アドレスがあることが示されます。最初のアドレス (3ffe で始まるアドレス) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。ステートレス自動設定を実行するには、そのサブネット上で IPv6 ルート アドバタイズメントをイネーブルにする必要があります。次のアドレス (fe80 で始まるアドレス) は、ホストの外部からのスコープを持たないリンク ローカルアドレスです。IPv6 自動設定か DHCPv6 設定かに関係なく、リンク ローカルアドレスは常に表示されます。最後のアドレス (2001 で始まる) は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

例 2

```
/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64  Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB)  TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```

/admin#

次の RFC は、IPv6 ステートレス自動設定のプライバシー拡張を提供します。

<http://www.ietf.org/rfc/rfc3041.txt>

プライバシー拡張機能がイネーブルになっていることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。プライバシー拡張を持たないアドレスと、プライバシー拡張を持つアドレスの 2 つの自動設定アドレスが表示されます。

次の例 3 では、MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 であり、非 RFC3041 アドレスに MAC が含まれています。また、プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は、次のように表示されます。

例3

```

/adminin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116  Bcast:172.23.90.255  Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64  Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64  Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:9430102 (8.9 MiB)  TX bytes:466204 (455.2 KiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

/adminin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします(「shutdown」セクション (4-120 ページ) を参照)。
ipv6 address dhcp	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

```
interface GigabitEthernet 0
```

構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
0	設定するギガビット イーサネットのポート番号。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

なし。

例

```

/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
/admin(config-GigabitEthernet)# end
/admin#

```

IPv6 DHCPv6 をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```

!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!

```



(注)

IPv6 ステータス自動設定と IPv6 アドレス DHCP は、互いに排他的ではありません。同じインターフェイス上で IPv6 ステータス自動設定と IPv6 アドレス DHCP の両方を設定できます。特定のインターフェイスで使用されている IPv6 アドレスを表示するには、**show interface** コマンドを使用します。

IPv6 ステータス自動設定と IPv6 アドレス DHCP の両方をイネーブルにすると、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を示します。

```

!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
 ipv6 address dhcp
!

```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「shutdown」セクション(4-120 ページ) を参照)。
ipv6 address autoconfig	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
show running-config	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

ip address

イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP 処理を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip address ip-address network mask



(注)

複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2 つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

構文の説明

ip address	GigabitEthernet インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定するコマンド。
ip-address	IPv4 バージョンの IP アドレス。
network mask	関連付けられた IP サブネットのマスク。

デフォルト

イネーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

アドレスとネットマスクを必ず 1 つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that CDA processes are running, use the
'show application status cda' command.
/admin(config-GigabitEthernet)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
shutdown (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをディセーブルにします(「 shutdown 」セクション(4-120 ページ)を参照)。
ip default-gateway	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
show interface	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
interface	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。

ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip default-gateway** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip default-gateway *ip-address*

構文の説明	ip default-gateway	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義するコマンド。
	<i>ip-address</i>	デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。

デフォルト ディセーブル

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン 複数の引数を指定した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

例

```
/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。

ip domain-name

CDA サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーション モードで **ip domain-name** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip domain-name *word*

構文の説明	ip domain-name	デフォルトのドメイン名を定義するコマンド。
	<i>word</i>	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2～64 文字の英数字で指定します。

デフォルト イネーブル

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン 入力した引数が多すぎる場合または不足している場合、エラーが発生します。

例 /admin(config)# ip domain-name cisco.com
/admin(config)#

関連コマンド	コマンド	説明
	ip name-server	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

ip name-server

DNS クエリー実行時に使用するドメイン ネーム サーバ(DNS)のサーバを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip name-server** コマンドを使用します。1 ~ 3 台の DNS サーバを設定できます。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

このコマンドの **no** 形式を使用すると、設定からすべてのネーム サーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、そのネーム サーバだけが削除されます。

ip name-server ip-address [ip-address*]

構文の説明	ip name-server	使用するネーム サーバの IP アドレスを設定するコマンド。
	<i>ip-address</i>	ネーム サーバのアドレス。
	<i>ip-address*</i>	(オプション) 追加のネーム サーバの IP アドレス。 (注) ネーム サーバは、最大 3 台まで設定できます。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定(Configuration)

使用上のガイドライン **ip name-server** コマンドを使用して追加された最初のネーム サーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

ネーム サーバは、最大数(3 台)に達するまで、一度に 1 台またはすべてを追加できます。システムにすでに 3 台のネーム サーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネーム サーバを追加できません。

1 台のネーム サーバを最初の位置に配置して、サブシステムがまずそのサーバを使用するようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネーム サーバを削除してから処理を進める必要があります。

例 /admin(config)# **ip name-server 209.165.201.1**

To verify that CDA processes are running, use the 'show application status cda' command.
/admin(config)#

CDA サーバを再起動しないように選択できますが、それでも変更は有効になります。

関連コマンド

コマンド	説明
ip domain-name	サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip route** コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

スタティック ルートは手動で設定されるため、柔軟性はありませんが(ネットワーク トポロジの変化に動的に適用できません)、非常に安定しています。スタティック ルートは、ルーティング アップデートを送信することなく維持できるため、帯域幅の使用率を最適化できます。また、ルーティング ポリシーの実施を容易にします。

ip route prefix mask gateway ip-address

no ip route prefix mask

構文の説明

ip route	IP ルートを設定するコマンド。
<i>prefix</i>	宛先の IP ルート プレフィックス。
<i>mask</i>	宛先のプレフィックス マスク。
<i>ip-address</i>	ネットワークに到達するために使用可能なネクスト ホップの IP アドレス。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定 (Configuration)

例 /admin(config)# **ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2**
/admin(config)#

kron occurrence

1 つまたは複数のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日時に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーションモードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {occurrence} occurrence-name

構文の説明

kron	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングするためのコマンド。
occurrence	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングします。
occurrence-name	オカレンスの名前。80 文字までの英数字で指定します。(次の「注」と「構文の説明」を参照)。



(注)

kron occurrence コマンドで *occurrence-name* キーワードを入力すると、**config-occurrence** コンフィギュレーション サブモードに入ります(この「構文の説明」を参照)。

at	指定した日時にオカレンスが実行されるように指定します。使用方法: at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month]
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます(「 do 」セクション(4-91 ページ)を参照)。
end	kron-occurrence コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	kron-occurrence コンフィギュレーション モードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 次の 3 つのキーワードを使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • at: 使用方法: at [hh:mm] [day-of-week day-of-month month day-of-month] • policy-list: オカレンスによって実行されるポリシー リストを指定します。80 文字までの英数字で指定します。 • recurring: ポリシー リストの実行を繰り返します。
policy-list	オカレンスによって実行されるコマンド スケジューラ ポリシー リストを指定します。
recurring	繰り返して実行するオカレンスを指定します。  (注) kron occurrence を繰り返して実行しない場合、スケジュール設定されたバックアップの kron occurrence コンフィギュレーションは実行後に削除されます。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

kron occurrence コマンドおよび **policy-list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に CDA サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。「[kron policy-list](#)」セクション(4-107 ページ)を参照してください。



例 (注) **kron** コマンドを実行すると、一意の名前(タイム スタンプの追加により)でバックアップバンドルが作成されるので、互いに上書きされることはありません。

例 1: 週次バックアップ

```
/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
/admin(config-Occurrence)# recurring
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#
```

例 2: 日次バックアップ

```
/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 02:00
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#
```

例 3: 週次バックアップ

```
/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
/admin(config-Occurrence)# no recurring
/admin(config-Occurrence)# exit
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
kron policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。

kron policy-list

コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定し、kron-Policy List コンフィギュレーション サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンド スケジューラ ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

kron {policy-list} list-name

構文の説明

kron	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングするためのコマンド。
policy-list	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
<i>list-name</i>	ポリシー リストの名前。80 文字までの英数字で指定します。



(注)

kron policy-list コマンドで *list-name* を入力すると、config-Policy List コンフィギュレーション サブモードに入ります(この「構文の説明」を参照)。

cli	スケジューラによって実行されるコマンド。80 文字までの英数字で指定します。
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドが実行できます(「do」セクション(4-91 ページ)を参照)。
end	config-Policy List コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	このサブモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードが使用可能です。 <ul style="list-style-type: none"> cli: スケジューラによって実行されるコマンド。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に CDA サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。**kron occurrence** コマンドおよび **policy list** コマンドを使用して、1 つ以上のポリシー リストを同じ時間または間隔で実行されるようにスケジュールします。「ip route」セクション(4-105 ページ)を参照してください。

例

```
/admin(config)# kron policy-list SchedBackupMonday
/admin(config-Policy List)# cli backup SchedBackupMonday repository SchedBackupRepo
/admin(config-Policy List)# exit
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip route	コマンド スケジューラ オカレンスのスケジュール パラメータを指定して、config-Occurrence コンフィギュレーション モードに入ります。

logging

システムによるリモート システムへのログの転送や、ログ レベルのコンフィギュレーションをイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **logging** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging {ip-address | hostname} {loglevel level}
```

構文の説明

logging	システム ロギングを設定するコマンド。
ip-address	ログを転送するリモート システムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
hostname	ログを転送するリモート システムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
loglevel	logging コマンドのログ レベルを設定するコマンド。
level	ログ メッセージを設定する希望のプライオリティ レベルの番号。プライオリティ レベルは以下のとおりです(キーワードの番号を入力)。 <ul style="list-style-type: none"> 0-emerg (緊急事態): システムが使用不可。 1-alert (アラート): ただちに処置が必要。 2-crit (クリティカル): クリティカルな状態。 3-err (エラー): エラー状態。 4-warn (警告): 警告状態。 5-notif (通知): 正常であるが、重要な状態。 6-inform: (デフォルト) 情報メッセージ。 7-debug: デバッグ メッセージ。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

このコマンドでは、IP アドレス、ホスト名、または **loglevel** キーワードのいずれかを指定する必要があります。これらの引数を複数指定するとエラーが発生します。

例

例 1

```
/admin(config)# logging 209.165.200.225
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# logging loglevel 0
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>show logging</code>	システムのログリストを表示します。

ntp

NTP コンフィギュレーションを指定するには、コンフィギュレーションモードで、**authenticate** コマンド、**authentication-key** コマンド、**server** コマンド、および **trusted-key** コマンドとともに **ntp** コマンドを使用します。

ntp authenticate

ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>

ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>

ntp trusted-key <key>

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するためのコマンド。
-------	-----	------------------------------

デフォルト	なし
-------	----

コマンドモード	コンフィギュレーション
---------	-------------

使用上のガイドライン

ntp コマンドを使用して NTP コンフィギュレーションを指定します。

デバイス上で NTP サービスを終了するには、**authenticate**、**authentication-key**、**server**、および **trusted-key** などのキーワードや引数を指定して、**no ntp** コマンドを入力する必要があります。たとえば、以前に **ntp server** コマンドを発行した場合は、**server** とともに **no ntp** コマンドを使用します。

NTP サーバの設定方法の詳細については、[ntp server\(4-113 ページ\)](#)を参照してください。

例	<pre> /admin(config)# ntp ? authenticate Authenticate time sources authentication-key Authentication key for trusted time sources server Specify NTP server to use trusted-key Key numbers for trusted time sources /admin(config)# /admin(config)# no ntp server /admin(config)# do show ntp % no NTP servers configured /admin(config)# </pre>
---	--

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ntp authenticate</code>	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
	<code>ntp authentication-key</code>	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
	<code>ntp server</code>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
	<code>ntp trusted-key</code>	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
	<code>show ntp</code>	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authenticate

すべての時間源の認証をイネーブルにするには、**ntp authenticate** コマンドを使用します。NTP 認証キーを持たない時間源は、同期されません。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp authenticate

構文の説明	ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	<code>authenticate</code>	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン **ntp authenticate** コマンドを使用して、すべての時間源の認証をイネーブルにします。このコマンドはオプションであり、認証はこのコマンドなしでも機能します。

一部のサーバにのみ認証が必要(つまり、一部のサーバにのみ認証用に設定されたキーが必要)な混合モードで認証する場合は、このコマンドを実行しないでください。

```

例
/admin(config)# ntp ?
  authenticate      Authenticate time sources
  authentication-key Authentication key for trusted time sources
  server            Specify NTP server to use
  trusted-key       Key numbers for trusted time sources
/admin(config)#

/admin(config)# ntp authenticate
/admin(config)#

```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ntp</code>	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	<code>ntp authentication-key</code>	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
	<code>ntp server</code>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
	<code>ntp trusted-key</code>	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
	<code>show ntp</code>	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp authentication-key

時間源の認証キーを指定する場合は、コンフィギュレーションモードで一意的識別子およびキー値を指定して `ntp authentication-key` コマンドを使用します。

この機能をディセーブルにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

ntp authentication-key <key id> md5 hash | plain <key value>

構文の説明		
	<code>ntp</code>	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
	<code>authentication-key</code>	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
	<code>key id</code>	このキーに割り当てる識別子。1 ~ 65535 の数値をサポートします。
	<code>md5</code>	認証キーの暗号化タイプ。
	<code>hash <word></code>	認証のハッシュ キー。暗号化タイプに続く暗号化(ハッシュ)キーを指定します。40 文字までで指定します。
	<code>plain <word></code>	認証のプレーンテキスト キー。暗号化タイプに続く暗号化されていないプレーンテキスト キーを指定します。15 文字までで指定します。
	<code><key value></code>	上記の md5 plain hash のいずれかに一致する形式のキー値。

デフォルト なし

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

`ntp authentication-key` コマンドを使用して NTP 認証の認証キーを持つ時間源を設定し、関連するキー ID、キー暗号化タイプ、およびキー値の設定を指定します。このキーを信頼できるリストに追加してから `ntp server` コマンドに追加します。

信頼できるリストに追加された NTP 認証キーを持たない時間源は、同期されません。

例

```
/admin# configure
/admin(config)#
/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
/admin(config)# ntp authentication-key 2 md5 plain SharedWithServ
/admin(config)# ntp authentication-key 3 md5 plain SharedWithSer
```



(注) **show running-config** コマンドは、セキュリティのため、Message Digest 5 (MD5) プレーン形式で入力されたキーを常にハッシュ形式に変換して表示します。たとえば、**ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbefc5351ad118bc9ce1ef3** のように表示します。

```
/admin(config)# no ntp authentication-key 3
(認証キー 3 を削除します)
```

```
/admin(config)# no ntp authentication-key
(すべての認証キーを削除します)
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp server

NTP サーバによるシステムのソフトウェアの時計の同期化を許可するには、コンフィギュレーション モードで **ntp server** コマンドを使用します。別の行のそれぞれのキーで、サーバを最大 3 つまで許可します。キーはオプションのパラメータですが、NTP 認証には必須です。CDA には、常に有効で到達可能な NTP サーバが必要です。

キーはオプションのパラメータですが、NTP サーバを認証する必要がある場合は設定する必要があります。

この機能をディセーブルにするには、NTP サーバを削除して別のサーバを追加する場合のみ、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ntp server {ip-address | hostname} key <peer key number>
```

構文の説明

<code>ntp</code>	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
<code>server</code>	システムが指定したサーバと同期することを許可します。
<code><i>ip-address</i> <i>hostname</i></code>	時計の同期を提供するサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
<code><i>key</i></code>	(任意)ピア キーの番号。65535 文字までの数字で指定します。このキーは、 ntp authentication-key コマンドを使用して、キー値で定義する必要があります。また、 ntp trusted-key コマンドを使用して、信頼できるキーとして追加する必要があります。認証を有効にするには、キーおよびキー値が、実際の NTP サーバ上で定義されたキーおよびキー値と同じである必要があります。

デフォルト デフォルトで設定されているサーバはありません。

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン システムが指定したサーバと同期することを許可する場合は、信頼できるキーを指定して **ntp server** コマンドを使用します。

キーはオプションですが、NTP 認証に対しては必須です。まず、このキーを **ntp authentication-key** コマンドで定義し、**ntp trusted-key** コマンドに追加した後、**ntp server** コマンドに追加します。

show ntp コマンドは、同期のステータスを表示します。設定された NTP サーバが到達可能でない場合、または認証されていない場合 (NTP 認証が設定されている場合は、このコマンドは最小層のローカルに対する同期を表示します。NTP サーバが到達不能か、または適切に認証されていない場合は、このコマンドごとの統計情報の到達は 0 になります。

CDA 管理ユーザ インターフェイスで NTP サーバ コンフィギュレーションおよび認証を定義するには、『[Cisco Identity Services Engine User Guide, Release 1.1.1](#)』の「System Time」および「NTP Server Settings」の項を参照してください。



(注)

このコマンドは、同期プロセス中に競合する情報を提供します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

例

例 1

```
/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp trusted-key.
/admin(config)#
/admin(config)# ntp trusted-key 1
% WARNING: Key 1 needs to be defined as a ntp authentication-key.
/admin(config)#
/admin(config)# ntp authentication-key 1 md5 plain SharedWithServe
/admin(config)#

/admin(config)# ntp server ntp.esl.cisco.com 1
/admin(config)# ntp server 171.68.10.80 2
/admin(config)# ntp server 171.68.10.150 3
/admin(config)#
/admin(config)# do show running-config
Generating configuration...
!
hostname cda
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 172.21.79.246 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.21.79.1
!
clock timezone UTC
!
```

```

ntp authentication-key 1 md5 hash ee18afc7608ac7ecdbeefc5351ad118bc9ce1ef3
ntp authentication-key 2 md5 hash f1ef7b05c0d1cd4c18c8b70e8c76f37f33c33b59
ntp authentication-key 3 md5 hash ee18afc7608ac7ec2d7ac6d09226111dce07da37
ntp trusted-key 1
ntp trusted-key 2
ntp trusted-key 3
ntp authenticate
ntp server ntp.esl.cisco.com key 1
ntp server 171.68.10.80 key 2
ntp server 171.68.10.150 key 3
!
--More--
/admin# show ntp
Primary NTP      : cd-acis-ntp.cisco.com

synchronised to local net at stratum 11
  time correct to within 448 ms
  polling server every 64 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0        .LOCL.           10 l  46  64  37   0.000   0.000   0.001
 171.68.10.80       .RMOT.           16 u  46  64   0   0.000   0.000   0.000
 171.68.10.150     .INIT.           16 u  47  64   0   0.000   0.000   0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.

/admin#

```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
ntp trusted-key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

ntp trusted-key

時間源を信頼できるリストに追加するには、一意の識別子を指定して **ntp trusted-key** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ntp trusted-key <key>

構文の説明

ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
trusted-key	このキーに割り当てる識別子。
key	NTP 認証キーとして定義する必要がある信頼されている時刻源のキー番号を指定します。65535 文字までの数字で指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このキーを NTP 認証キーとして定義し、NTP サーバに追加する前に信頼できるリストに追加します。信頼できるリストに追加されたキーは、NTP サーバによってシステムとの同期を許可する場合にのみ使用できます。

例

```
/admin# configure
/admin(config)#
/admin(config)# ntp trusted-key 1
/admin(config)# ntp trusted-key 2
/admin(config)# ntp trusted-key 3

/admin(config)# no ntp trusted-key 2
(key 2 を信頼できるリストから削除します)

/admin(config)# no ntp trusted-key
(すべてのキーを信頼できるリストから削除します)
```

関連コマンド

コマンド	説明
ntp	NTP コンフィギュレーションを指定するコマンド。
ntp authenticate	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
ntp authentication-key	信頼されている時刻源の認証キーを設定します。
ntp server	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアのクロックを同期化します。
show ntp	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーションモードで **password-policy** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

password-policy option



(注)

password-policy コマンドには、ポリシー オプションが必要です(「構文の説明」を参照)。**password-expiration-enabled** は、他の **password-expiration** コマンドの前に入力する必要があります。

構文の説明

password-policy	パスワード ポリシーを設定するコマンド。
-----------------	----------------------



(注)

password-policy コマンドを入力すると、**config-password-policy** コンフィギュレーションサブモードに入ることができます。

digit-required	パスワードには数字が含まれている必要があります。
disable-repeat-characters	5 つ以上の同一の文字を含んでいるパスワードの機能をディセーブルにします。
disable-cisco-password	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
do	EXEC コマンド。
end	コンフィギュレーション モードを終了します。
exit	このサブモードを終了します。
lower-case-required	パスワードに小文字が含まれている必要があります。
min-password-length	有効なパスワードの最小文字数を指定します。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
no	コマンドを無効にするか、そのデフォルトに設定します。
no-previous-password	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
no-username	パスワードにユーザ名を含めることを禁止します。
password-expiration-days	パスワードの有効日数。0 ~ 80 の整数で指定します。
password-expiration-enabled	パスワードの有効期限をイネーブルにします。 (注) password-expiration-enabled は、他の password-expiration コマンドの前に入力する必要があります。
password-expiration-warning	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
password-lock-enabled	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
password-lock-retry-count	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとパスワードがロックされます。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
upper-case-required	パスワードに大文字が含まれている必要があります。
special-required	パスワードに特殊文字が含まれている必要があります。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin(config)# password-policy
/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
/admin(config-password-policy)# exit
/admin(config)#
```

repository

バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入るには、コンフィギュレーションモードで **repository** コマンドを使用します。

repository *repository-name*

構文の説明

repository	リポジトリを設定するコマンド。
<i>repository-name</i>	リポジトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。



(注)

repository コマンドでリポジトリの名前を入力すると、**config-Repository** コンフィギュレーションサブモードに入ります(この「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードですべての EXEC コマンドを実行できます(「 do 」セクション(4-91 ページ)を参照)。
end	config-Repository サブモードを終了して EXEC モードに戻ります。
exit	このモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 次の 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> url: リポジトリの URL。 user: リポジトリにアクセスするためのユーザ名とパスワード。
url	リポジトリの URL。80 文字までの英数字で指定します(表 4-17 を参照)。
user	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。30 文字までの英数字で指定します。

表 4-17 URL のキーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<i>word</i>	サーバおよびパス情報を含むリポジトリの URL を入力します。80 文字までの英数字で指定します。
cdrom:	ローカルの CD-ROM ドライブ(読み取り専用)。
disk:	ローカルストレージ。 ローカルリポジトリのすべてのファイルを表示するには、 show repository repository_name を実行します。 (注) すべてのローカルリポジトリは、 /localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で disk:// を指定すると、システムは、 /localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 disk://backup と指定すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。
ftp:	FTP ネットワークサーバのコピー元またはコピー先の URL。 ftp://server/path¹ という URL を使用します。

表 4-17 URL のキーワード(続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
nfs:	NFS ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 nfs://server:path ¹ という URL を使用します。
tftp:	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。 nfs://server:path ¹ という URL を使用します。 (注) CDA のアップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

1. server はサーバ名です。path は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン(:)が必要です。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

サブモードで **url sftp:** を設定する場合は、CLI を通してリポジトリ コンフィギュレーション下で **host-key** を提供し、RSA フィンガープリントを SSH 既知ホストに追加する必要があります。この機能をディセーブルにするには、サブモードで **host-key host** コマンドの **no** 形式を使用します。

Secure FTP リポジトリを [Administration] > [System] > [Maintenance] > [Repository] > [Add Repository] の管理ユーザ インターフェイスで設定する場合、CDA は次の警告を表示します。

このリポジトリを使用するためには、SFTP サーバのホスト キーを CLI を通して **host-key** オプションを指定して追加する必要があります。

ホスト キーを設定せずに Secure FTP リポジトリにバックアップしようとする、Cisco ADE ログに対応するエラーが発生します。

例 1

```
/admin# configure terminal
/admin(config)# repository myrepository
/admin(config-Repository)# url sftp://cda
/admin(config-Repository)# host-key host cda
host key fingerprint added
# Host cda found: line 1 type RSA
2048 f2:e0:95:d7:58:f2:02:ba:d0:b8:cf:d5:42:76:1f:c6 cda (RSA)

/admin(config-Repository)# exit
/admin(config)# exit
/admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
backup	(CDA および Cisco ADE OS) バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
restore	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。

コマンド	説明
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーション モードで **service** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service sshd

構文の説明

<code>service</code>	管理対象のサービスを指定するコマンド。
<code>sshd</code>	Secure Shell Daemon。SSH のデーモン プログラムです。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

なし。

例

```
/admin(config)# service sshd
/admin(config)#
```

shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文の説明

引数やキーワードはありません。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

使用上のガイドライン

このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由の CDA アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていなければ、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスに接続できます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、`/etc/sysconfig/network-scripts` にある `ifcfg-eth[0,1]` ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

no shutdown コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

例

```
/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。
ip address (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
show interface	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
ip default-gateway	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server community** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server community word ro

構文の説明

<code>snmp-server community</code>	SNMP サーバを設定するコマンド。
<code>word</code>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。255 文字までの英数字で指定します。
<code>ro</code>	読み取り専用アクセスを指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

snmp-server community コマンドでは、コミュニティ ストリングと引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

CDA の SNMP エージェントは、次の MIB への読み取り専用 SNMP v1 および SNMP v2c アクセスを提供します。

- SNMPv2-MIB
- RFC1213-MIB
- IF-MIB
- IP-MIB
- IP-FORWARD-MIB
- TCP-MIB
- UDP-MIB
- HOST-RESOURCES-MIB
- ENTITY-MIB:ENTITY-MIB では、次の 3 つの MIB 変数のみがサポートされています。
 - 製品 ID:entPhysicalModelName
 - バージョン ID:entPhysicalHardwareRev
 - シリアル番号:entPhysicalSerialNumber
- DISMAN-EVENT-MIB
- NOTIFICATION-LOG-MIB
- CISCO-CDP-MIB

例

```
/admin(config)# snmp-server community new ro
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server host	トラップをリモートシステムに送信します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム連絡先情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server contact word

構文の説明

<code>snmp-server contact</code>	この管理対象ノードの連絡先担当者を識別するためのコマンド。255 文字までの英数字で指定します。
<code>word</code>	ノードのシステム連絡先情報を表す文字列。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン なし。

例

```
/admin(config)# snmp-server contact Luke
/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	snmp-server host	トラップをリモート システムに送信します。
	snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
	snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

snmp-server host

SNMP トラップをリモート ユーザに送信するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server host** コマンドを使用します。トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server host {*ip-address* | *hostname*} **version** {*1* | *2c*} *community*

構文の説明	snmp-server host	SNMP 通知を受信するホストを設定するコマンド。
	<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。32 文字までの英数字で指定します。
	version { <i>1</i> <i>2c</i> }	(任意) トラップの送信に使用する SNMP のバージョンです。デフォルトは 1 です。 version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1:SNMPv1。 2c:SNMPv2C。
	<i>community</i>	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティ ストリング。

デフォルト デイセーブル

コマンドモード 設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

一覧に記載されている引数を指定します。指定しない場合、エラーが発生します。SNMP トラップはサポートされていません。

例

```
/admin(config)# snmp-server community new ro
/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
snmp-server community	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス スtring を設定します。
snmp-server location	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
snmp-server contact	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーションモードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

snmp-server location word**構文の説明**

<code>snmp-server location</code>	この管理対象ノードの物理的な場所を設定するコマンド。255 文字までの英数字で指定します。
<code>word</code>	システムの物理的な場所情報を記述する文字列。255 文字までの英数字で指定します。

デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

設定(Configuration)

使用上のガイドライン

`word` の文字列では、単語の間にアンダスコア(_)またはハイフン(-)を使用することをお勧めします。`word` の文字列で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符(")で囲む必要があります。

例**例 1**

```
/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>snmp-server host</code>	トラップをリモート システムに送信します。
<code>snmp-server community</code>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス ストリングを設定します。
<code>snmp-server contact</code>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

username

SSH を使用して CDA アプライアンスにアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
username username password {hash | plain} password role {admin | user} [disabled [email email-address]] [email email-address]
```

既存のユーザに対しては、以下のコマンド オプションを使用します。

```
username username password role {admin | user} password
```

構文の説明

<code>username</code>	SSH を使用して CDA アプライアンスにアクセスするユーザを作成するためのコマンド。
<code>username</code>	引数 <code>username</code> には 1 つの単語のみを指定できます。空白や二重引用符 (") は使用できません。31 文字までの英数字で指定します。
<code>password</code>	パスワードおよびユーザ ロールを指定するために使用するコマンド。
<code>password</code>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
<code>hash plain</code>	パスワードのタイプ。34 文字までの英数字で指定します。
<code>role admin user</code>	ユーザの権限レベルを設定します。
<code>disabled</code>	ユーザの電子メールアドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
<code>email email-address</code>	ユーザの電子メールアドレス。たとえば、 <code>user1@mydomain.com</code> のように指定します。

デフォルト

設定時の初期ユーザです。

コマンドモード

設定 (Configuration)

使用上のガイドライン

username コマンドでは、`username` および `password` キーワードの後に、`hash | plain` および `admin | user` オプションを指定する必要があります。

例

例 1

```
/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
/admin(config)#
```

例 2

```
/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
/admin(config)#
```

例 3

```
/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email
admin123@mydomain.com
/admin(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
password-policy	パスワードポリシーをイネーブルにして設定します。
show users	ユーザとそれぞれの権限レベルの一覧を表示します。これにはまた、ログインユーザの一覧も表示されます。



A

- Active Directory サーバのインポート [3-10](#)
- Active Directory サーバの追加、編集 [3-8](#)
- AD マシン [1-4](#)
- AD 要件 [2-5](#)

C

- CDA のインストール [2-14](#)

E

- EXEC コマンド [4-2](#)

I

- IP-to-User ID のマッピング [3-19](#)

S

- show コマンド [4-39, 4-52](#)
- Syslog サーバ [1-6](#)
- syslog サーバの追加、編集 [3-14](#)

か

- 概要 [1-2](#)
- 管理者の追加 [3-23](#)

こ

コマンド

configuration

- shutdown [4-120](#)

EXEC

- application install [4-2](#)
- application remove [4-3](#)
- application reset-config [4-4](#)
- application reset-passwd [4-6](#)
- application start [4-7](#)
- application stop [4-8](#)
- application upgrade [4-9](#)
- backup [4-10](#)
- backup-logs [4-12](#)
- clock [4-13](#)
- configure [4-14](#)
- copy [4-15](#)
- debug [4-18](#)
- delete [4-22](#)
- dir [4-22](#)
- exit [4-25](#)
- forceout [4-26](#)
- halt [4-26](#)
- help [4-27](#)
- mkdir [4-28](#)
- nslookup [4-29](#)
- patch install [4-30](#)
- patch remove [4-32](#)
- ping6 [4-34](#)
- reload [4-35](#)
- restore [4-36](#)
- rmdir [4-38](#)

show 4-39, 4-52
 ssh 4-41
 tech 4-42
 telnet 4-43
 terminal length 4-44
 terminal session-timeout 4-45
 terminal session-welcome 4-45
 terminal terminal-type 4-46
 traceroute 4-47
 undebg 4-47
 write 4-50

show

show application 4-52
 show backup history 4-54
 show cdp 4-55
 show clock 4-56
 show cpu 4-57
 show disks 4-59
 show icmp-status 4-60
 show interface 4-62
 show inventory 4-64
 show logging 4-65
 show logins 4-67
 show memory 4-68
 show ntp 4-69
 show process 4-71
 show repository 4-73
 show restore 4-74
 show running-configuration 4-75
 show startup-configuration 4-76
 show tech-support 4-78
 show terminal 4-79
 show timezone 4-80, 4-81
 show udi 4-82
 show uptime 4-83
 show users 4-83
 show version 4-84

接地

snmp-server community 4-121

設定

backup-staging-url 4-86
 cdp holdtime 4-86
 cdp run 4-87
 cdp timer 4-88
 clock timezone 4-89
 do 4-91
 end 4-94
 exit 4-95
 hostname 4-95
 icmp echo 4-96
 interface 4-97
 ip address 4-102
 ip default-gateway 4-103
 ip domain-name 4-103
 ip name-server 4-104
 ip route 4-105
 ipv6 autoconfig 4-98
 ipv6 dhcp 4-100
 kron occurrence 4-106
 kron policy-list 4-107
 logging 4-109
 ntp authenticate 4-111
 ntp authentication 4-110
 ntp authentication-key 4-112
 ntp server 4-113
 ntp trusted-key 4-115
 password-policy 4-116
 repository 4-118
 service 4-120
 snmp-server contact 4-122
 snmp-server host 4-123
 snmp-server location 4-124
 username 4-125

コンシューマ デバイス 1-4

コンシューマ デバイスの追加、編集 3-4

コンフィギュレーション コマンド 4-85

さ

サポートされるオペレーティング システム [2-1](#)

せ

セッション タイムアウト [3-25](#)

接続要件 [2-3](#)

設定

ISE でのユーザ ログイン イベントの転送 [3-15](#)

た

ダッシュボード [3-3](#)

ち

注、説明 [i-xi](#)

注意

説明 [i-x](#)

は

ハードウェア要件 [2-2](#)

パスワード ポリシー [3-24](#)

パフォーマンスとスケーラビリティ [1-6](#)

ふ

フィルタのマッピング [3-22](#)

ブラウザのサポート [3-1](#)

ら

ライブ ログ [3-25](#)

ろ

ログイン [3-2](#)

ログ レベルの設定 [3-19](#)

わ

ワンポイント アドバイス、説明 [i-xi](#)
